

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ

洲崎館跡内外分布調査

比石館跡内外分布調査

字向浜地区分布調査

2001・3

上ノ国町教育委員会

序

行きつ戻りつした遅い春もようやく渡島半島の西南、日本海を臨む海岸部に達し、春の山菜目当ての人々がリュックを背負い、国道228号線の路傍をそぞろ歩く姿が目につく季節になりました。

今年度の分布調査は、二級河川天野川の河口にあったと推される潟湖（ラグーン）縁辺の向浜地区を皮切りに、洲崎館跡の一角を占める北村地区の砂館神社（前身は毘舍門天王社）周辺、石崎地区の比石館跡、最後はまた洲崎館跡に戻るという、車に調査用の器材を積みながら町の南北を往還した調査でありました。

この間、文化庁記念物課をはじめ関係各機関の諸先生、上ノ国町史跡整備検討委員会の渡辺定夫、仲野浩、宮本長二郎、田中哲雄、榎森進、鈴木亘の各先生には遠路お越しいただきご指導、ご助言を賜りました。心より御礼申し上げます。また調査を進めるにあたり、北村、向浜、石崎地区の土地所有者をはじめ多くの地域住民の皆様のご支援、ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

さて、洲崎館が築かれたと同時代に町場が形成されたのではないと言われてきた向浜地区の調査は、江戸から明治にかけての遺構と遺物しか検出できない結果に終わりましたが、二級河川天野川河口右岸の北村から向浜にかけて広がる砂丘列の成立とその消長について、自然地理学の観点から精査すべきとの貴重なご助言も頂戴いたしました。

同じく、潟湖の縁辺に位置すると推される洲崎館跡では、中世の陶磁器をはじめとした遺物や柱穴、竪穴建物跡を検出したところですが、館跡の本体と考えられてきた丘陵部（実は砂丘）からではなく、二級河川天野川水系目名川付近の平地から多数検出されました。館跡の範囲は更なる拡がりを見せてくれそうです。

長祿元年（1457）のコシャマインの戦いで陥落したと松前家の家記類に伝わる比石館跡は、二級河川石崎川の河口に聳える岬状の台地がその遺跡と伝えられてきましたが、期待した15世紀代の遺構や遺物は検出されず、16世紀末から17世紀初頭の遺構、遺物しか発見されないという結果に終わりました。比石館跡が別の場所にあった可能性も捨てきれず、石崎川河口右岸にも視野を移し、再検証する必要があります。

松前藩政下の和入地や、中世の蝦夷地の乏しい文献資料の空白を埋めるべく進められている考古学による地域史の検証も、松前家を中心とした既知の文献資料や、地元の伝承との間で微妙な食い違いを見せつつあり、意外な方向に進む予感を感じさせるものがあります。

今後とも精進を重ね、身近な地域史の創造に向けた取り組みを地道に進めて参りたいと考えておりますので、関係各機関、諸先生方にはより一層のご助言、ご叱正を賜りますよう切にお願ひ申し上げ、刊行の挨拶といたします。

平成13年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀 勝

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次

例言／引用参考文献

洲崎館跡内外分布調査

I 調査の概要

1. 調査の経緯 2
2. 調査の方法 2
3. 調査の経過 2
4. 基本層序 2

II 調査

1. 調査区 4
2. 出土遺物の概要 30

III 小括

..... 45

IV まとめ

..... 46

比石館跡内外分布調査

I 調査の概要

1. 調査の経緯 49
2. 調査の方法 49
3. 調査の経過 49
4. 基本層序 49

II 調査

1. 調査区 50
2. 出土遺物の概要 64

III 小括

..... 64

IV まとめ

..... 65

宇向浜地区分布調査

I 調査の概要

1. 調査の経緯 67
2. 調査の方法 67
3. 調査の経過 67
4. 基本層序 67

II 調査

1. 調査区 68
2. 出土遺物の概要 82

III まとめ

..... 89

報告書抄録

..... 90

挿図目次

洲崎館跡内外分布調査

- 第1図 遺跡位置図 1
- 第2図 洲崎館跡内外分布調査
調査区位置図 3
- 第3図 調査区土層堆積図 6
- 第4図 調査区土層堆積図他 7
- 第5図 調査区土層堆積図他 8
- 第6図 第50調査区遺構配置図 9
- 第7図 第50調査区遺構配置図他 11
- 第8図 第50調査区竪穴建物跡平面図他 13
- 第9図 第52調査区遺構配置図他 15
- 第10図 調査区土層堆積図他 17
- 第11図 第57調査区炭化物範囲1平面図他 19
- 第12図 調査区出土遺物 31
- 第13図 調査区出土遺物 32
- 第14図 調査区出土遺物 33
- 第15図 調査区出土遺物 34
- 第16図 調査区出土遺物 35
- 第17図 調査区出土遺物 36
- 第18図 調査区出土遺物 37
- 第19図 調査区出土遺物 38
- 第20図 調査区出土遺物 39
- 第21図 調査区出土遺物 40
- 第22図 調査区出土遺物 41

比石館跡内外分布調査

- 第23図 調査区土層堆積図他 52
- 第24図 調査区土層堆積図他 53
- 第25図 第5調査区土層堆積図他 55
- 第26図 第5調査区土層3平面図他 56
- 第27図 第5調査区礎石建物跡平面図他 57
- 第28図 調査区出土遺物 62

宇向浜地区分布調査

- 第29図 調査区土層堆積図他 70
- 第30図 調査区土層堆積図他 71
- 第31図 第12調査区 遺構平面図他 73
- 第32図 第13調査区 土層堆積図他 74
- 第33図 第13調査区 土層3平面図他 75
- 第34図 第13調査区 遺構平面図他 76
- 第35図 調査区出土遺物 84
- 第36図 調査区出土遺物 85
- 第37図 調査区出土遺物 86
- 第38図 調査区出土遺物 87

表目次

洲崎館跡内外分布調査

表1	調査区土層観察表	21
表2	調査区土層観察表	22
表3	調査区土層観察表	23
表4	調査区土層観察表	24
表5	調査区土層観察表	25
表6	調査区土層観察表	26
表7	調査区土層観察表	27
表8	調査区土層観察表	28
表9	遺構土層観察表	28
表10	遺構土層観察表	29
表11	遺構土層観察表	30
表12	遺構土層観察表	42
表13	出土遺物観察表(陶磁器)	43
表14	出土遺物観察表(鉄製品他)	44
表15	出土遺物集計表(鉄製品)	44
表16	出土遺物集計表(銅銭)	44
表17	出土遺物観察表(銅銭)	45
表18	出土遺物集計表(陶磁器他)	47

比石館跡内外分布調査

表19	調査区土層観察表	57
表20	調査区土層観察表	58
表21	調査区土層観察表	59
表22	調査区土層観察表	60
表23	遺構土層観察表	61
表24	出土遺物観察表(陶磁器)	61
表25	出土遺物観察表(銅製品他)	61
表26	出土遺物集計表(銅銭)	62
表27	出土遺物観察表(銅銭)	62
表28	出土遺物集計表(鉄製品)	62
表29	遺構土層観察表	63
表30	出土遺物集計表(陶磁器他)	63

字向浜地区分布調査

表31	調査区土層観察表	76
表32	調査区土層観察表	77
表33	調査区土層観察表	78
表34	調査区土層観察表	79
表35	遺構土層観察表	80
表36	遺構土層観察表	81
表37	出土遺物観察表(陶磁器)	81
表38	出土遺物観察表(銅製品他)	82
表39	出土遺物集計表(陶磁器他)	82

表40	遺構土層選別表	83
-----	---------	----

表41	出土遺物集計表(銅銭)	89
-----	-------------	----

表42	出土遺物観察表(銅銭)	89
-----	-------------	----

写真図版

PL. 1	洲崎館跡遠景他	
PL. 2	洲崎館跡内外分布調査	遺構及び遺物検出状況
PL. 3	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 4	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 5	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 6	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 7	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 8	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 9	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 10	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 11	洲崎館跡内外分布調査	出土遺物
PL. 12	比石館跡遠景他	
PL. 13	比石館跡内外分布調査	遺構・遺物検出状況
PL. 14	比石館跡内外分布調査	遺構・遺物検出状況
PL. 15	比石館跡内外分布調査	遺物出土状況・出土遺物
PL. 16	字向浜地区遠景他	
PL. 17	字向浜地区分布調査	遺構・遺物検出状況
PL. 18	字向浜地区分布調査	出土遺物
PL. 19	字向浜地区分布調査	出土遺物
PL. 20	字向浜地区分布調査	出土遺物

附図1	洲崎館跡内外分布調査・字向浜地区分布調査	調査区位置図
-----	----------------------	--------

附図2	比石館跡内外分布調査	調査区位置図及び周辺地形図
-----	------------	---------------

例 言

1. 本書は平成11・12年度に実施した遺跡周辺分布調査事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会
教育長 上野秀勝

指導 史跡上之國勝山館跡調査研究専門員

東大名誉教授 石井進

神奈川大学特任教授 網野善彦

東北学院大学教授 榎森進

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

上ノ国町史跡整備検討委員会

東北芸術工科大学名誉教授 仲野浩

東北芸術工科大学 田中哲雄

東北芸術工科大学 宮本長二郎

東北学院大学教授 榎森進

工学院大学教授 渡辺定夫

文化学院講師 鈴木豆

主管 上ノ国町教育委員会文化財課

課長 渡部孝之

主任学芸員 松崎水穂

文化財係長 齊藤邦典

博物館整備係・学芸員 松田輝哉

博物館整備係 笠谷裕人

(～平成12年3月31日)

岡田俊一郎

(平成12年4月1日～)

嘱託調査員 三浦英俊

臨時事務補 徳光志保

(～平成12年3月31日)

小林真澄

(平成12年5月1日～)

発掘担当者 齊藤邦典

調査員 三浦英俊

平成11年度 洲崎館跡内外分布調査

作業員 青木千秋、大谷弓子、川村恵司、

笹浪竹志、八田綾子、森恵美子

平成12年度 字向浜地区分布調査 洲崎館跡

内外分布調査 比石館跡内外分布調査

作業員 青木千秋、浅原スミ、板井ユリカ、

大谷弓子、川合済子、川村恵司、杉山船

子、八田綾子、森恵美子、森美奈子

3. 本書の編集、執筆は齊藤、三浦が協議の上、次のとおり分担し、文末に担当者名を記した。

・洲崎館跡内外分布調査

Ⅱ-1 調査区、Ⅳ まとめ：齊藤

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ 小括：三浦

・比石館跡内外分布調査

Ⅱ-1 調査区、Ⅳ まとめ：齊藤

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ 小括：三浦

・字向浜地区詳細遺跡分布調査

Ⅱ-1 調査区

Ⅰ 調査の概要、Ⅱ 調査、Ⅲ まとめ：三浦

4. 挿図の作成は担当者、調査員の指示により作業員が行った。

5. 土層の土色は「新製標準土色帳」（農林水産技術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色彩図表」（日本色彩社）を用い、目測で比定した。

6. 本書に掲載の調査時の写真は齊藤、三浦が、遺物写真は三浦が撮影した。

7. 本書に掲載の各遺跡の調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関ならびに各位に御指導、御援助賜った。御芳名を記し、厚く感謝申し上げる。文化庁記念物課 加藤真二 福宜田佳男、佐賀県教育庁文化財課 大橋康二、青森県立郷土館 大湯卓二、北海道教育庁文化課 木村尚俊 千葉英一 貫井隆三 高橋優 多田博昭 吉田種豪、北海道埋蔵文化財センター 熊谷仁志 越田賢一郎 佐藤和雄 田口尚 田中哲郎 中田祐香 北浮平 三浦正人、檜山教育局 中澤幸美、北海道開拓記念館 山田悟郎 小林幸雄、八戸市博物館 佐々木浩一 大野亨、市浦村教育委員会 榎原滋高、南茅部町教育委員会 阿部千春 福田裕二、乙部町教育委員会 森広樹 藤田巧、江別市教育委員会 野中一宏 稲垣和幸 佐藤一志、平取町教育委員会 森岡健治 長田佳宏、上磯町教育委員会 森靖裕、タナカコンサル 豊原照司

8. 字向浜地区分布調査、洲崎館跡内外分布調査及び比石館跡内外分布調査の調査の実施にあたり、土地所有者の皆様にも多大な御理解と御

協力を頂戴しました。ご迷惑をおかけしたこ

とをお詫び申し上げます、深く感謝申し上げます。

引用参考文献

- 〔厚谷家報〕
〔福山秘府 全〕〔新撰北海道史 第五巻〕 1936年 北海道廳
〔上ノ国村史〕 1956年 松崎岩徳
〔福山秘府年曆部全 (和田本)〕 1960年
〔新羅之記録〕〔新北海道史 第七巻〕 1969年 北海道
〔角川日本史事典〕 1974年 角川書店
〔松前町史 資料編 第一巻〕 1974年 松前町
〔新北海道史 第九巻〕 1980年 北海道
〔浪岡城Ⅳ〕 1980年 浪岡町教育委員会
〔奥尻青苗遺跡〕 1981年 奥尻町教育委員会
〔北海道の研究 第2巻 考古篇Ⅱ〕 1984年 清文堂
〔浪岡城Ⅲ〕 1984年 浪岡町教育委員会
〔札前〕 1985年 松前町教育委員会
〔史跡松前藩戸切地陣屋跡〕 1984年 上磯町教育委員会
〔肥前地区古窯跡調査報告書 第2集 百間窯・樋口窯〕 1985年 佐賀県立九州陶磁文化館
〔サクシュコトニ川遺跡 本文編、図版編〕 1986年 北海道大学埋蔵文化財調査室
〔上ノ国漁港遺跡 -昭和58・60年度発掘調査報告書-〕 1987年 上ノ国町教育委員会
〔別冊太陽 古伊万里〕 1988年 平凡社
〔大阪城 Ⅲ〕 1988年 財団法人大阪市文化財協会
〔史跡福山城Ⅴ～Ⅹ〕 1988年～1994年 松前町教育委員会
〔伊万里市文化財調査報告書 第27集 瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡〕 1989年 伊万里市教育委員会
〔特別史跡 五稜郭〕 1990年 函館市教育委員会
〔肥前の色絵「その始まりと変遷」展〕 1991年 佐賀県立九州陶磁文化館
〔夷王山墳墓群 Ⅱ〕 1991年 上ノ国町教育委員会
〔佐賀県有田町 谷窯跡の発掘調査〕 1992年 有田町教育委員会
〔鍋・釜〕 1993年 朝岡康二
〔考古学ライブラリー55 肥前陶磁〕 1993年 大橋康二
〔瀬戸市史陶磁史篇Ⅳ〕 1993年 瀬戸市教育委員会
〔美濃窯の焼き物〕 1993年 多治見市教育委員会
〔波佐見町文化財調査報告書 第4～9集 波佐見町内古窯跡群調査報告書〕 1993～1997年 波佐見町教育委員会
〔よみがえる江戸の華 -くらしのなかのやきもの-〕 1994年 佐賀県立九州陶磁文化館
〔日本出土銭総覧〕 1996年 兵庫埋蔵調査会
〔名品図録〕 1996年 佐賀県立九州陶磁文化館
〔笹屋遺跡〕 1996年 上ノ国町教育委員会
〔柴田コレクション (Ⅵ)〕 1998年 佐賀県立九州陶磁文化館
〔北方史史料集成 第4巻〕 1998年 北海道出版企画センター
〔出土銭貨の研究〕 1999年 鈴木公雄
〔史跡上之国勝山館跡Ⅰ～Ⅲ〕 1980年～2000年 上ノ国町教育委員会
〔中世の葬送・墓制〕 1991年 水藤真



第1図 遺跡位置図

洲崎館跡内外分布調査

I 調査の概要

1. 調査の経過

洲崎館跡は西に日本海をのぞむ砂丘上に位置している。南西に天ノ川が流れ、さらに南西方向、やや南寄りに国指定史跡上之国花沢館跡、やや西寄りに国指定史跡上之国勝山館跡をのぞむ。史跡指定範囲内には砂館神社が建つ。

洲崎館跡は長禄元年(1456年)、道南一帯を巻き込んで起こったコシヤマインの戦いの際に功績のあった客将、武田信広が翌年築いたと伝えられる館跡である。また寛正3年(1462年)、館内に毘沙門天を祀って毘沙門神社が建立されたがこの社は安永7年(1778年)に焼失してしまう。そして翌々年、新たに建立されたのが現在の砂館神社である。

現在のところ古文書などの記録が発見されていないので館内の詳しい様子は不明である。また洲崎館の終末についても記録は残されていないが文明5年(1473年)、勝山館に館神八幡宮が建立され、武田信広もこのころまでには洲崎館から勝山館に移っていたと考えられる。同じころまでには館としての機能を失っていたと考えられる。

現在は砂館神社を中心に防風林が植えられている。昭和36年には砂館神社西側の砂丘の町道北村～向浜線にほど近い地点で開元通宝(初鑄年621年)から永楽通宝(初鑄年1408年)までの約2500枚の銅銭が町民によって発見されている。また同じ砂丘からは青磁、白磁などの中世陶磁器の破片が折に触れて採集されている。昭和54年には砂館神社の東側のほど近い砂丘で耕作中に珠洲V～VI期に比定されると考えられるすり鉢を被った人頭骨が発見されるなど洲崎館跡の存在を伺わせる証拠がいくつか発見されている。

今回の分布調査ではトレンチとテストピットによる発掘調査を行い過去に得られた資料と併せて洲崎館の存在と実像を確かめるのが目的である。

2. 調査の方法

遺跡内の任意の箇所に幅1～2mのトレンチか一辺が1～2mのテストピットを設定し、検出した遺構、遺物の状況に応じて調査区を拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2

調査区...とした。可能なかぎり掘り下げを行い、土層の堆積状況や遺構の調査状況などを実測、写真によって記録した。遺構の覆土についてはできるだけ全量採取し、後日フローテーションを行って目視により選別した。遺物はI層のものは一括して取り上げ、II層以下のものについては平板によって記録し、取り上げた。

3. 調査の経過

平成11年7月9日 北村コミュニティセンター裏から調査開始

平成11年8月17日 海岸方面に移動する。

平成11年8月30日 砂館神社西側の砂丘へ移動する。20～22区で白磁などが出土する。

平成11年9月10日 砂館神社境内に移動する。

平成11年10月6日 第50調査区にて堅穴建物跡を検出するが、残された調査期間が少ないのでそのまま埋め戻す。

平成11年10月26日 平成11年度分の調査を終了する。

平成12年7月6日 調査再開。第50調査区堅穴建物跡を再度検出する。

平成12年7月19日 堅穴建物跡調査終了

平成12年8月22日 比石館跡分布調査のためいったん調査を中断する。

平成12年10月4日 調査再開

平成12年11月2日 調査終了

4. 基本層序

I層 表土層

II層 7.5YR3/2黒褐色 シルト～細砂 駒ヶ岳D火山灰(Ko-d)を含む層 江戸時代

III層 7.5YR3/1黒褐色 シルト～細砂 中世

IV層 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 中世

V層 7.5YR3/1黒褐色 シルト 白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)を含む層 徳文時代

VI層 10YR1.7/1 黒色 シルト

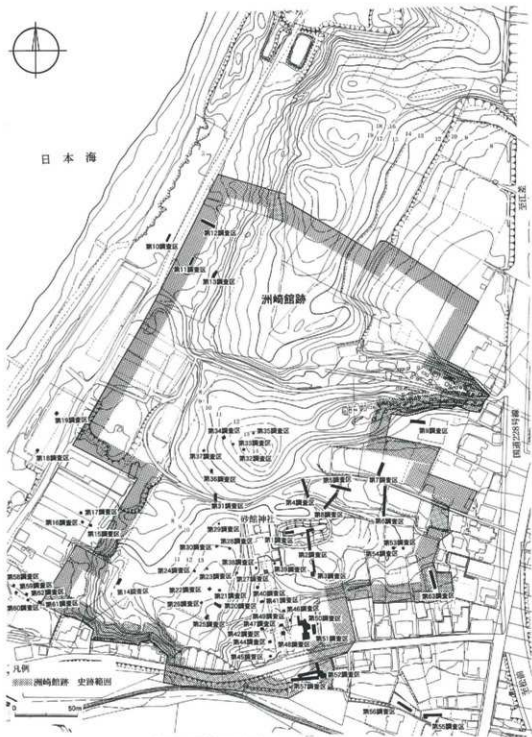
VII層 10YR2/2 黒褐色 シルト

VIII層 7.5YR2/2 黒褐色 シルト～細砂

IX層 10YR2/1 黒色 シルト～細砂

X層 ハードローム

(三浦英俊)



第2図 洲崎館跡内外分布調査 調査区位置図

II 調査

昨年度から今年度にかけて、洲崎館跡の構造及びその広がりを解明するべく史跡指定範囲内外の分布調査を行った。

1. 調査区

第1～3調査区（第2図、附図1）

砂館神社の東側に隣接する標高14.9m幅6mの長さ30mの土塁状の地形がある。この地形が人工的であるかの確認を行うため設定した。このうち第2調査区は土塁状の地形の頂部から南側へ鉤型に土塁を横断する形で1.5m×17mの調査区を設定した。

第2調査区SPA-A' 土層堆積（第2、3図）

土層観察から、基本的にはI～IV層までの自然の堆積をなしており、特に土塁構築等の人為的な痕跡は見られなかった。また土塁頂部においても枕状の掘りこみ等も検出されなかった。

また6m南側の平坦部の広がる第3調査区においてはKo-d等の堆積も見られず、近現代において擾乱されている状態であった。

第4～8調査区（第2～4図、附図1）

砂館神社北東側の標高8m～9mのほぼ平坦部にあり、西側の海側には東西に標高約14mの砂丘が東側にのびている。この地区は、この両方の砂丘に挟まれた形となっており、西側及び南北からの風は皆無の状態である。またこの平坦部中央部分の道が、これらの砂丘の間を通過して西側の海浜へ伸びており、調査前にはこれらの砂丘が館の主体部の一部分だとすると、この低い部分であるこの地区は空壕の可能性があると指摘されてきた箇所である。このためこれら第4～8調査区は空壕の確認を第1の目的とした。

第4調査区（第4図）

海岸へ至る道に長軸を直交する形で、道よりもやや南側に約13m×1.4mの調査区を設定した。土層観察から基本的にはI～IV層までの自然堆積をなしており、中央部がやや窪み形状を呈し、Ko-dの純層も見られるが、明確な掘りこみは見られず、単なる浅い沢地状であった。近代以降の遺物のみ出土した。

第7調査区SPA-A'（第3図）

第4調査区より50m東側で、海岸へ至る道よりやや北側の箇所。調査の結果、窪地状となっており

らず、ほぼ平坦であった。またIV層（砂層）の発露が余りなく、下部のIV層まで掘り下げたところⅤ層面に若干の浅いピット、溝状のものが見つかった。面的には縄文時代にあたる。

第8調査区（第4図）

第4、7調査区にて空壕状掘りこみが確認できなかったため、やや東側の地点に1.5m×13mほどの調査区を設定した。I層にて肥前系、唐津の近世陶磁器が廃棄されていた。近代の陶磁器はその10倍ほど廃棄されており、近代においてはこの浅い沢地がごみ廃棄場所であったと考えられる。またKo-dから下部の層は自然堆積であった。

第9調査区（第3図、第2図、附図1）

北村コミュニティセンター裏手の平坦部であるが、V層の上面まで近現代の土が入っており、Ko-dも見られなかった。

第10～13調査区（第2図～第4図、附図1）

史跡指定範囲最北端の海浜に面した砂丘上、及び西側の海浜のそばを平行に走っている町道脇の平坦部である。

第10、11調査区（第3図）

海側の11区では町道脇のためI層最上面が礫等で強く盛土されており下部の層もやや堅くしまっていたが、10区と同様II層以下は自然の堆積であり、Ko-dも確認できた。遺構、遺物は検出されなかった。

第13区（第4図）

砂丘上である。I、II層面がかなり土が動かされておき、砂丘上に現代において防風林が一面に植林されており、これによる土の移動があったと考えられる。

第15～19区（第4図、第2図、附図1）

砂館神社西側の砂丘下の平坦部である。これらの地区では1m×1mの調査区を設定。遺構、遺物とも確認できなかった。17区はII、III層が削平されており、当初はこの砂丘に続く緩斜面であったと考えられる。19区では削平等もなくII、III層が堆積していたが遺構、遺物なし。

第14、第20～30調査区（第4～5図、附図1）

これらの調査区は砂館神社の西側、標高約14mの砂丘地帯に設定した。尚、この砂丘の南側の民家の裏から昭和36年に北宋銭、明銭が2500枚発見

されており、この砂丘上に遺構、遺物の存在が想定された。

第14調査区（第4図、附図1）

砂丘上の西端部であり、海、川に対しての見晴らしが良い箇所であり、見張り場的な遺構の存在を予想したが遺構、遺物とも確認出来なかった。

第20～30調査区（第2図、第4図、第5図、附図1）

第20～30調査区を設定した箇所は防風林が極めて密のため、1m×1mの調査区にせざるを得なかった。

第20調査区（第4図）

Ⅲ層～Ⅳ層上面に集中して15世紀代の青磁、白磁のほか茶臼、骨角器の中柄、遺構では焼土が検出された。骨角器は9点出土しており、中柄が主体であるが、うち1点は破片であるが、（第21図130）先端部に刻みが入るものもある。

第22区についてもⅢ層から白磁、珠洲播鉢が検出された。その他26、28区についても中世の遺物は出土している。しかしこれらの地区では明確な柱穴等の遺構は確認できなかった。

第31～37調査区（第5図、第2図、附図1）

この地区は砂館神社北側後方部の標高14mの砂丘一帯である。ここはほぼ史跡指定範囲の中央部の砂丘にあたり、遺構の存在が想定された。

この地区は第20～30調査区設定箇所と同様防風林が極めて密のため1m×1mの調査区にせざるを得なかった。

第31調査区（第5図）

2つの砂丘の間になっており、第4、8、7調査区の付近の海へ抜ける道の延長部分となり、空堀の存在を予想したが、検出されなかった。

第33、35、36調査区（第5図）

これらの調査区は砂丘頂部にあたる。土層堆積によると、Ⅰ層からⅣ層までの基本的な土層堆積であり、削平されている様子もないが、遺構、遺物とも確認されなかった。

第38、41、42調査区（第5図、第2図、附図1）

砂館神社境内内である。38区の砂館神社付近は削平されている。42区では近現代の削平を受けておらず、Ⅲ層面での柱穴も確認されている。

第52調査区（第9～10図、第2図、附図1）

砂館神社南側の町道を挟んだ畑地である。ここは従来から中世の青磁等がよく表面採取されているところであり、遺構の存在が想定された。

当初約20m×1.4mの鉤の手状の調査区を設定したが、掘文期堅穴が発見されたため、調査区をさらに南に拡張した。

Ⅱ層近世面では、溝1、柱穴、小ピットが十数基検出されている。溝は幅50cm、深さ50cmの規模であり、内部に小ピットを持ついわゆる布摺といわれているものである。分布状況を見ると、溝と柱穴が重複関係にあり、最低2時期が想定される。Ⅲ層面からは土壁、焼土、柱穴が散見されている。Ⅳ層面は柱穴（P21～28）、炭化物集積範囲が見られ、Ⅴ層には柱穴（P18～20）、掘文期堅穴が見られる。土層堆積面によるとこの地区のⅣ層の堆積はこの地区では西側へ行くほど厚くなる一方、北側へ行くほど薄くなりP18～20付近では殆ど見られない。遺物はⅤ、Ⅵ層、掘文期堅穴覆土を中心として掘文土器、Ⅰ層から中世青磁、近世肥前系、唐津等が検出されている。堅穴建物跡（第10図）は規模は2.4m×2.6m、深さ60cmの隅丸方形。中央部に炭化物が約3cmの厚さで堆積する。覆土全体は基本的にはシルトと白色粘土ブロックの混層であり、堅くしまっており、埋め戻されている。

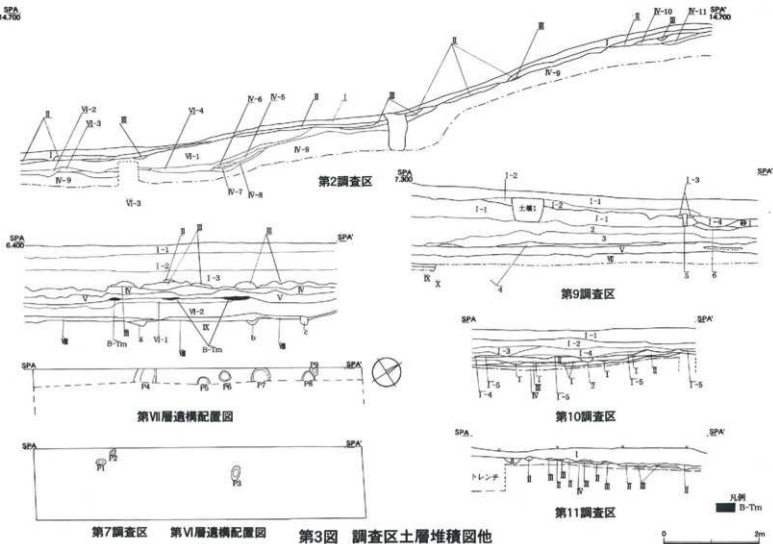
第54、60調査区（第5図、第2図、附図1）

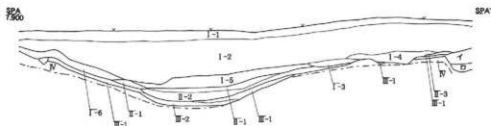
54区は珠洲播鉢が被せられた頭骨が発見された畑の10m程西側の一段高くなった箇所である。遺構、遺物とも検出されず。60区は17区の南西側60mの地点の畑地である。削平等もあまり受けていない箇所であるが、遺構、遺物とも検出されず。

第55、56調査区（第8図、第2図、附図1）

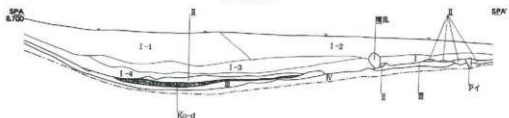
12m×1.3mの調査区を設定した。

史跡指定範囲より外側である。遺物は中世の青磁、白磁、青花、古瀬戸十数点のほか掘文土器13点、中心となるのは近世の唐津、肥前系で百数十点の出土がある。土層はかなりの削平を受けており、中間層であるⅡ～Ⅳ層が存在しなかった。そのため柱穴が検出されたが、すべて掘りこみ面不明である。尚図示していないが、調査区西端部において覆土直上にKo-dが堆積する堅穴状遺構を確認したが、激しい湧水のため調査不能であった。次年度調査予定。56区についてはⅡ層面でもKo-dが30cm～40cm程の厚さで堆積していた。そのさらに下部を調査しようとしたが激しい湧水のため調査不能であった。次年度調査予定。出土遺物も55区と同様の傾向を示し、近世唐津、肥前系が多かった。その他土師器や須恵器、掘文土器も出土して

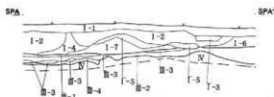




第4調査区



第8調査区 遺構配置図



第13調査区



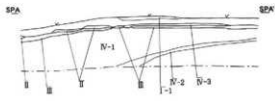
第14調査区



第17調査区

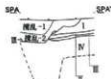


第19調査区



第III、IV層遺構配置図

第20調査区



第21調査区



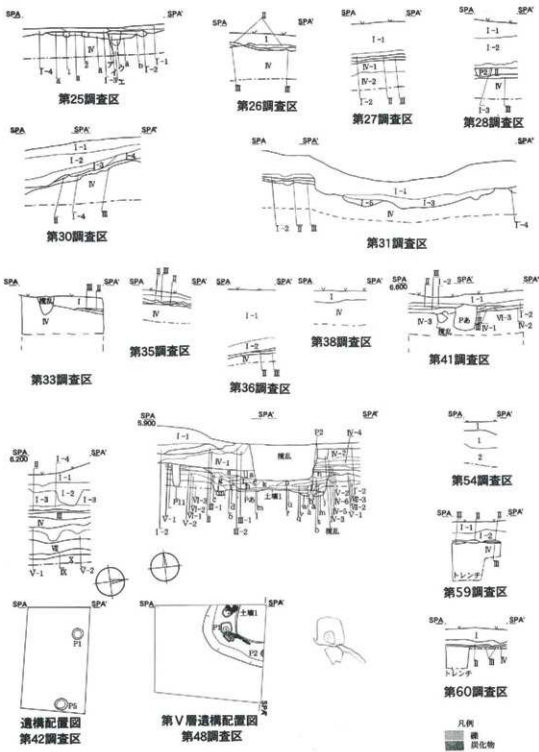
第22調査区

第4図 調査区土層堆積図他

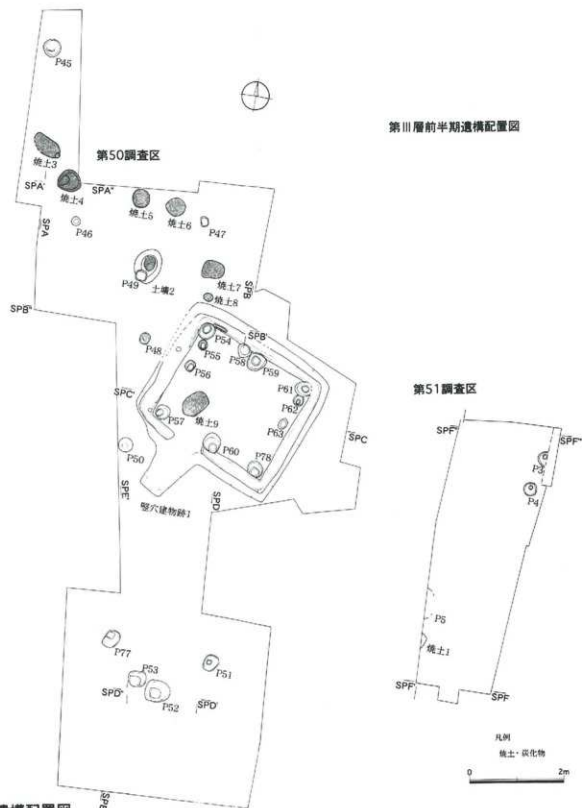
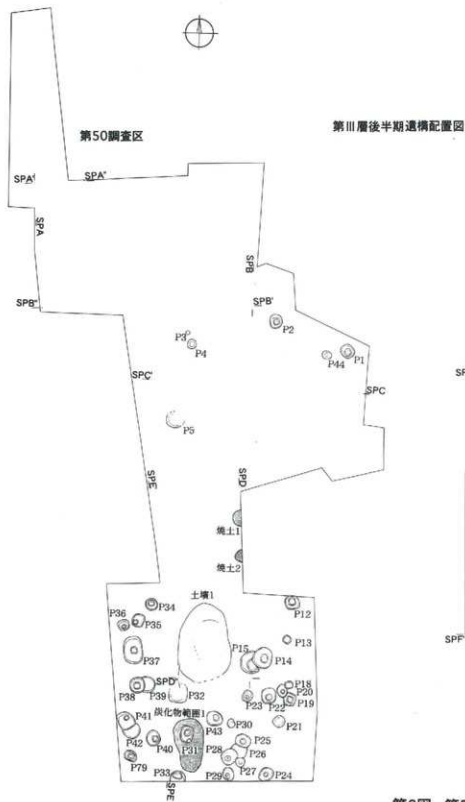
凡例

 焼土・炭化物
 Ko-d

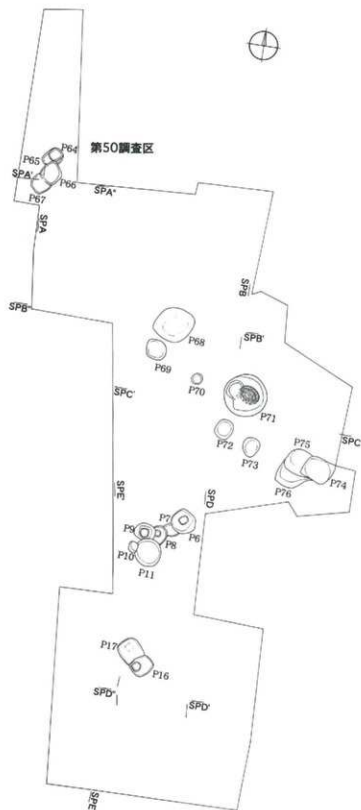




第5図 調査区土層堆積図他

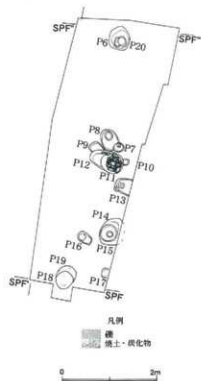


第6図 第50調査区及び第51調査区遺構配置図

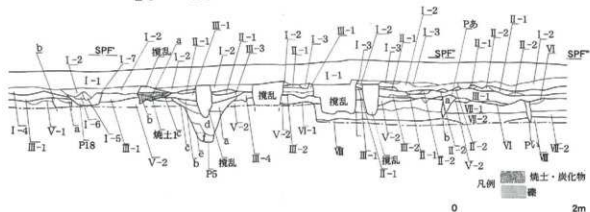
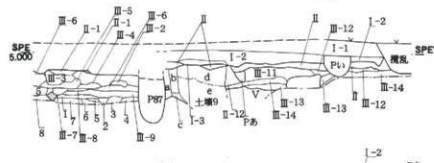
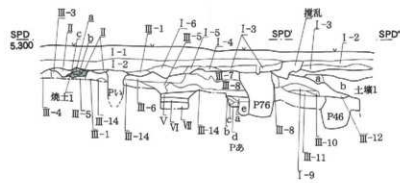
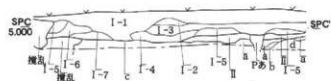
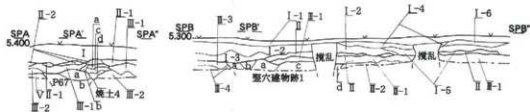


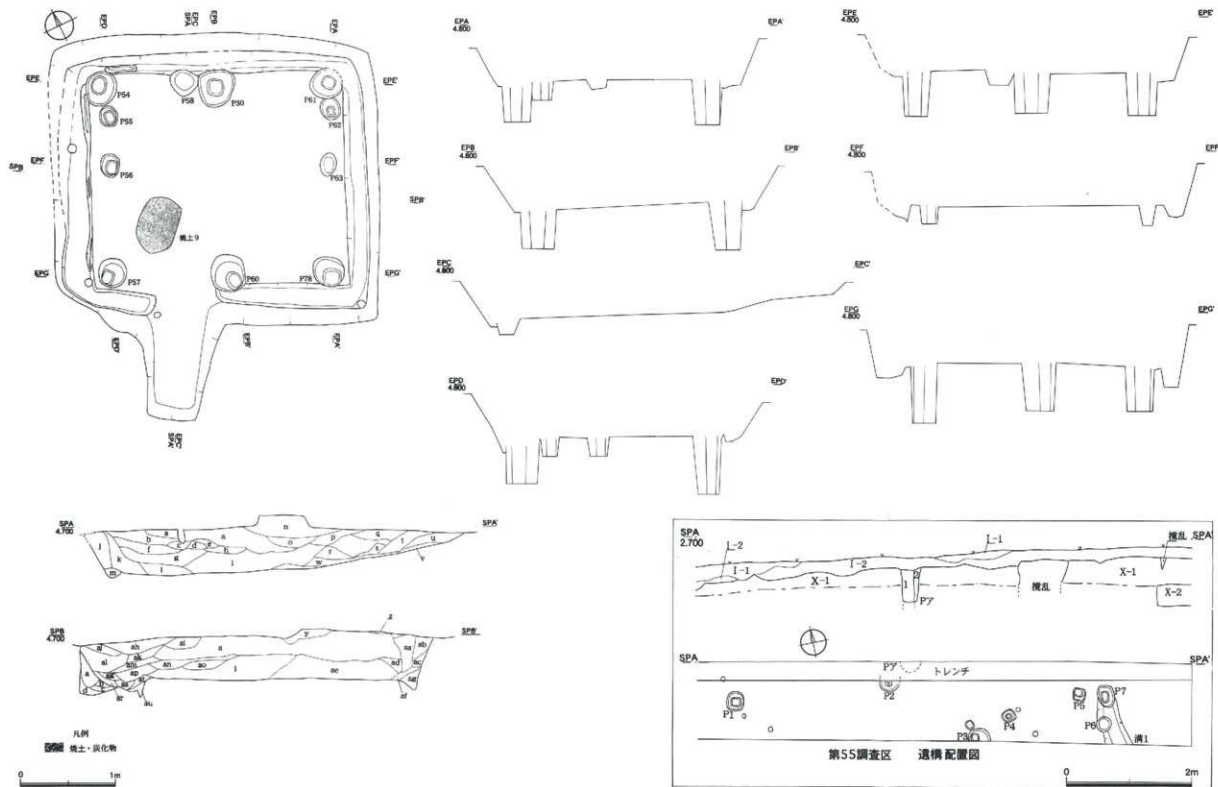
第IV層遺構配置図

第51調査区

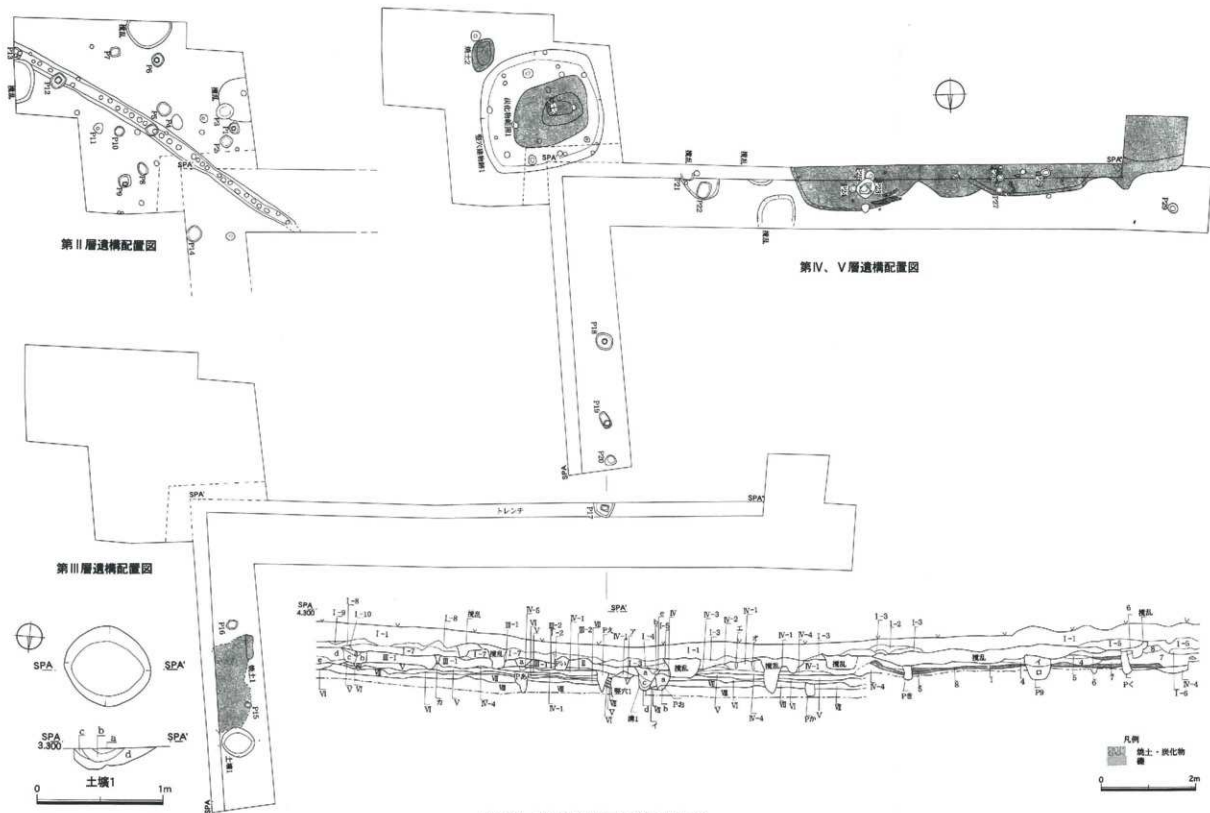


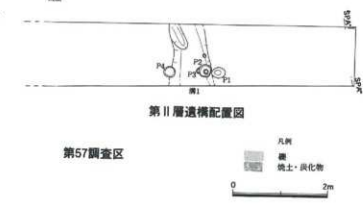
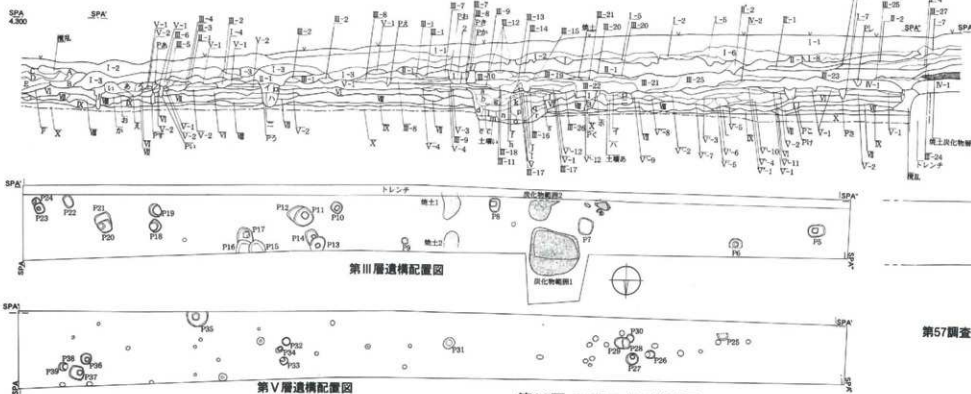
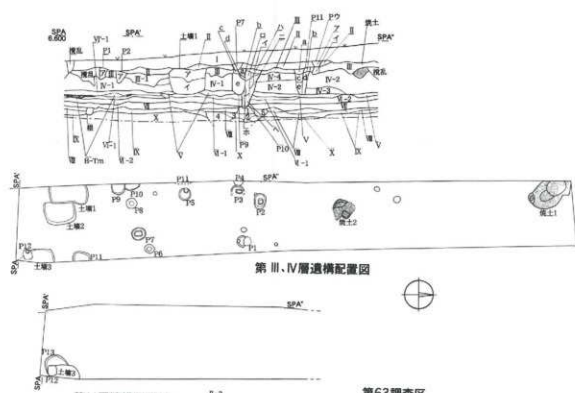
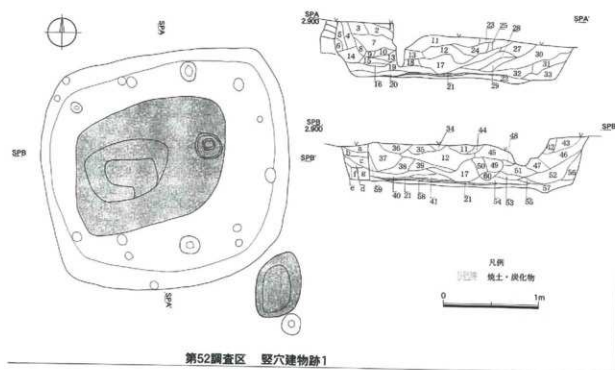
第7図 第50調査区及び第51調査区 遺構配置図他

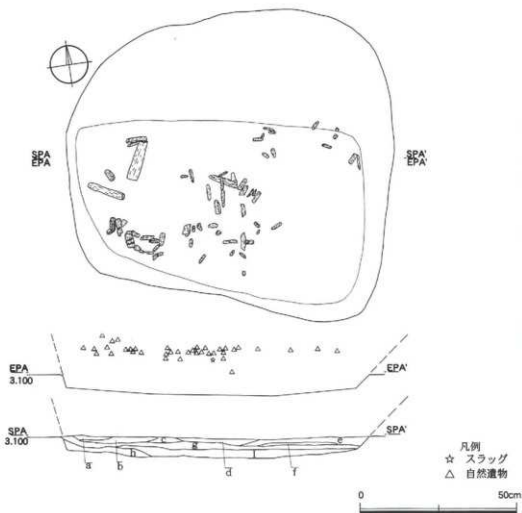




第8図 第50調査区 竪穴建物跡平面図他







第11図 第57調査区 炭化物範囲1平面図他

いる。

第57調査区（第10図、第2図、附図1）

第52調査区に隣接して南側に1.4m×17.4mのトレンチを設定。調査の結果Ⅱ層からは溝、柱穴、Ⅲ層面から柱穴、焼土、炭化物範囲、Ⅴ層面からは柱穴、小ピット群が確認される。高Ⅴ層では小ピットが主体をなしている。土層堆積図によるとSPA'付近は現代の擾乱が激しい。徐々にSPA'方向へ行くと第52調査区同様Ⅳ層の砂層の堆積が多くなる。またⅢ層も徐々に砂の含有比率が高くなる。SPA'～SPA''の中間部にはⅤ層掘りこみ（覆土a～r）の據文期の幅1.5m、深さ約70cmの遺構が確認されている。

覆土は黒～黒褐色のシルトと白色のロームプロッ

クの混層であり、中間部にややソフトな層が存在するが、全体にハードであり、埋め戻しの状況である。またこの遺構からさらにSPA''方向へ行くと、Ⅴ層の乱れが（Ⅴ'層）あり、土壌あ（覆土イ～ホ）Pこ、さも確認されている。高B-Tm包含層はⅤ-2層に堆積する。遺物はⅠ、Ⅱ層の肥前、唐津、Ⅲ層中心の珠洲播鉢、青磁、Ⅴ層から擦文土器のほか底部に回転糸切を有する土師器や内黒の土師器が検出されている。

炭化物範囲1（第11図）

焼土、炭化物、被熱した獣骨片を含む範囲である。獣骨片の中には数点加工痕のあるものあり。土層堆積は自然埋没の状況を示しているが、最下部覆土のiが焼土層、hが炭化物混じりの焼土層

中部部のc、eが焼土層、dが炭化物混じりの焼土層であり、bには焼骨が多量に含まれている。また平面図で図示した獣骨片は残存している覆土の土層堆積面のさらに上の覆土であり、すべて被熱している。したがってこの場所では常時火が使用されたと考えられる。

第63調査区（第10図、第2図、附図）

人骨出土地点の南側の箇所にて1.5m×11.6mの調査区を設定した。その結果Ⅲ、Ⅳ層面から柱穴、土塊、焼土、Ⅴ層面から若干の土塊、柱穴が検出された。この地区は緩斜面状となっており、Ⅳ層である砂が比較的発達している箇所である。土層堆積図で見ると、柱穴はすべてⅢ層掘りこみとなっている。遺構平面図ではⅢ、Ⅳ層面となっているが、実質的にはⅢ層が殆どである。遺構はⅣ層が徐々に薄くなる調査区内南半分に集中する傾向がある。遺物は青磁、珠洲漆鉢、近世では肥前系、唐津を中心に出土している。（青森邦典）

第48調査区（第5図）砂館神社正面、烏居器に設定した調査区である。砂館神社への参道がすぐ西側を通過しており、本調査区も参道に伴うものと思われる攪乱を受けている。

本調査区ではB-Tmよりも上、Ko-dよりも下の層から大型の土塊のような遺構を検出した。しかし調査区を拡張できる範囲に限りがあったので遺構全体を検出することができなかった。なおⅣ層から出土した古瀬戸の緑釉小皿が第50調査区で出土したものと接合している。

(1) 土塊 1 深さ40cmの土塊状の遺構である。遺構底面に焼土層と炭化物を検出した。壁際に溝が巡っている模様であり、堅穴建物跡である可能性が高いが遺構の大部分がコンクリート製の参道の下にあり詳しいことは不明である。出土遺物は炭化物のみで、円形のものと同棒状のものが出土した。第50調査区、第51調査区（第6図～第7図）昨年度からの調査でKo-dの下から14世紀台から15世紀までの遺物を伴った遺構群を検出した。正確には時期区分はしきれていないが便宜上検出した層

位にしたがって3時期に区分けした。

Ⅳ層では比較的大型の掘り型を持つ柱穴群を検出した。柱痕を残すもの、残さないものが見られる。第51調査区のP11では根石と考えられるこぶし大の礎をつめていた。

第Ⅲ層前半期では堅穴建物跡1基と焼土範囲を7ヶ所検出した。

第Ⅲ層後半期では地区の南側で柱穴群を検出した。

いずれの層位においても明確な建物跡を検出できなかった。遺物は青磁の端反碗、第Ⅳ期から第Ⅵ期に属すると考えられるすり鉢、壺、古瀬戸の緑釉小皿、銅銭などが出土している。

なお、さらに下層から摺文土器が一括で出土している。これらの遺構、遺物については来年度刊行予定の報告書にて報告したい。

(1) 堅穴建物跡1（第8図）第Ⅲ層前半期に属する遺構である。南北に3.1m、東西に3.4mの大きさで南側に長さ1.1mの張り出しを持つ。遺構壁面にそって溝が走り、西側の溝の中にはさらに小さな溝が走る。建物内部やや南西寄り、張り出しの正面に焼土範囲を検出した。四隅の柱穴は掘り方の床面と同じレベルでハードルームブロックを用いて「蓋」をしている。

また建物のほぼ中央と西壁に堅穴建物が建つ前に存在していたⅣ層に属すると考えられる柱穴を検出した。この柱穴も四隅の柱穴と同様に堅穴建物跡の床面と同じレベルで床面と同じハードルームを用いて「蓋」をしていた。堅穴建物跡はハードルームまで掘り抜いて作っており、堅穴建物を建てたときに黒色土がはいる柱穴跡をハードルームで塞いだと考えられる。

出土遺物は青磁の端反碗、古瀬戸の鉢、珠洲のすり鉢と銅銭、摺文土器片である。

床面直上で出土した遺物はなく、また遺構覆土中にルームブロックが多く含まれることなどから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

（三浦英俊）

表1 調査区土層観察表

第1調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1	1BYR2/2	泥炭	シルト 少量少量	ソフト
2	1BYR2/2	泥炭	シルト 灰白アプロクク少量	ソフト
3	1BYR2/1	泥	堆積物	ソフト
3-1	1BYR2/2	泥炭	堆積物 C 少量	ソフト
3-2	1BYR2/2	泥炭	堆積物 C 少量	ソフト
3-3	1BYR2/1	泥	堆積物 C 少量	ソフト
3-4	1BYR2/2	泥炭	堆積物 C 少量	ソフト
3-5	1BYR2/3	堆積物	堆積物	ソフト
3-6	1BYR2/2	泥炭	堆積物	ソフト
3-7	1BYR2/2	泥炭	堆積物	ソフト
3-8	1BYR2/2	泥炭	堆積物 C 少量	ソフト
3-9	1BYR2/2	泥炭	堆積物	ソフト
3-10	1BYR2/2	泥炭	堆積物	ソフト
3-11	1BYR2/2	泥炭	堆積物	ソフト
第4調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1-1	1BYR2/2	泥炭	砂	
1-2	1BYR2/2	泥炭	砂+シルト (ビロート、褐、黄緑部など少量含む) 石灰層	
1-3				
1-4	2BYL/1	泥炭		ハード
1-5	1BYR2/2	泥炭	シルト+砂、シルト主体、河中央部のため1より黄緑部含む、石灰土	やや軟
1-6	1BYR2/2	泥炭	砂、砂層が深い砂層、石灰土	やや軟
3-1	1BYR2/3	堆積物	砂層にシルト、1BYR2/4に多い黄緑土山頂	泥
3-2	1BYR2/4	石灰土	石灰土(山頂層) (黄緑部0%)	
3-3	1BYR2/2	泥炭	砂、1BYR2/4に多い黄緑土山頂が石灰土に入る	
第5区 (南山)				
電線	1BYR2/2	泥炭	砂	やや軟
第6区 (南山)				
遺構	1BYR2/2	泥炭	シルト+砂 (細:粗) 1BYR2/4(大山頂)アプロクク2%、1BYR2/1(原野)1%	やや軟
3-1	1BYR2/1	泥炭	砂	やや軟
3-2	1BYR2/1	泥	砂	やや軟
3	1BYR4/4	泥	砂	泥
第7調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1-1	1BYR2/2	泥炭	シルト ビロートを含む	ハード
1-2	1BYR2/2	泥炭	シルト 1BYR2/2(黄緑部)堆積物0%、キヤビラーの堆積物、土層などの残骸か	ハード ソフト
1-3	1BYR2/2	泥炭	シルト 灰白アプロクク、C 少量、石灰土	ややハード
2	1BYR2/2	泥炭	シルト 灰白アプロクク	ややハード
3	1BYR2/2	泥炭	堆積物 灰白アプロクク少量	ソフト
3	1BYR2/4	堆積物	堆積物 1-1層に少量	ソフト
V-1	1BYR2/1	泥	シルト 砂少量、腐植土	ややソフト
3-2b	1BYR2/4	泥	大山頂	ややハード
3-1	1BYR2/1	泥	シルト 腐植土	ややソフト
3-2	1BYR2/1	泥	シルト 腐植土	ややソフト
3	1BYR2/2	泥炭	シルト ソフトローム	ハード
3	1BYR4/4	泥	粘土、ハードローム	ハード
4	1BYR2/1	泥炭	シルト 腐植物、腐土遺構	ややハード
3	1BYR2/1	泥炭	シルト 腐植物、腐土遺構	ややハード
1	1BYR2/1	泥炭	シルト 腐植物、腐土遺構	ややハード
第8調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1-1			砂 細小土砂10%、遺物(現代-近世) 粘土なし、現代製粘土層	泥
1-2			粘土より粗くなる、ややシルト成分多い、砂+シルト、主砂90%、現代製粘土層	
1-3	1BYR2/2	泥炭	シルト 腐植物、ガラス多量に入る(現代遺物埋藏層、昭和中心)	やや軟
1-4	1BYR2/2	泥炭	シルト 腐植土層、昭和中心(昭和)	やや軟
2	1BYR2/2	泥炭	シルト 中央-下層に(土層から下)かけて石灰土層となる	ハード 泥
3	1BYR2/2	泥炭	砂	やや軟
3	2BYL/1	泥炭質	砂	泥
3	1BYR2/1	泥炭	シルト 砂少量	やや軟
第9調査区 東西セクション西段 (SPA-SPA')				
1-1	1BYR2/2	泥炭	砂+シルト混合層 (細:粗)	
1-2	1BYR2/2	泥炭	砂+シルト混合層 (細:粗)、アプロクク0% (2BYR2/2(南山) だけの箇内あり)	
1-3	1BYR2/2	泥炭	シルト+砂 (細:粗) 混合層	
1-4	1BYR2/2	泥炭	シルト+砂 (細:粗) + 1BYR2/1(原野)シルト+砂 (細:粗) の混合層	
1	1BYR2/2	泥炭	砂	やや軟
2	1BYR4/3	石灰土	砂	やや軟
3	1BYR2/2	石灰土	砂、2よりやや粗い	やや軟
4	1BYR2/2	石灰土	砂+シルト混合層 (細:粗)	ハード
3	1BYR2/1	泥炭	砂+シルト (細:粗)	やや軟
3	1BYR2/2	泥炭	砂+シルト (細:粗)	やや軟
3	1BYR2/2	泥炭	砂+シルト (細:粗)	やや軟
V	1BYR2/1	泥	シルト 1BYR2/4層のやや粗い砂をおびた大山頂アプロクク存在(大山頂-3-T)とするこの層は10層紀代)	ハード 泥
3	1BYR2/1-2BYR2/2	泥、泥炭	2より粗いやや粗い砂をおびる	ハード
3	1BYR2/2	泥炭	ソフトローム	ハード 泥
1	1BYR2/2	泥炭	シルト フローム	割れてハード
第10調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1-1	1BYR2/3	石灰土	互層砂 堆積物に石灰土	割れてハード
1-2	1BYR4/2	石灰土	砂 砂と堆積物	泥 やや軟
1-3	1BYR2/3	石灰土	砂 砂と堆積物	やや軟
1-4	1BYR4/3	石灰土	砂 砂と堆積物	泥
1-5	1BYR2/3	石灰土	砂 (シルト5%) 石灰土層、1-1-2に同じシルト分を含む	やや軟
2	1BYR2/3	石灰土	シルト+砂 (細:粗) 1BYR2/4に多い黄緑土がこの層の中央から下部に厚く堆積	ハード
3	1BYR2/2	泥炭	砂	泥 ハード
3	1BYR4/3	石灰土	砂	やや軟
1	1BYR4/3	石灰土	砂	やや軟
1	1BYR2/3	石灰土	砂+シルト (細:粗)	泥
第11調査区 南北セクション西段 (SPA-SPA')				
1	1BYR2/2	泥炭	細砂 泥土は石灰多量、深く腐っているがもない、一度腐ると硬くなる	ハード

表2 調査区土層観察表

3	HY12/2	泥層	シルト K ₂ Oプロック少量、黒く締まっているがもろい、成層れると締になる	ややハード
3	HY15/1	泥層	細砂 黒く締まっているがもろい、一度成れると締になる	ソフト
3	HY15/4	泥層	細砂 黒く締まっているがもろい、一度成れると締になる	ソフト
第13調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	細砂 層の厚が多量、工事などまたは植物根に断る程度か	ソフト
1-2	HY15/3	泥層	シルト 締り、工事などまたは植物根に断る程度か	ハード
1-3	HY15/4	泥層	細砂 層の厚と見直し、工事などまたは植物根に断る程度か	ソフト
1-4	HY12/2	泥層	シルト 締り約90%ずつ、工事などまたは植物根に断る程度か	ソフト
1-5	HY15/3	泥層	細砂 締り約10%、工事などまたは植物根に断る程度か	ソフト
1-6	HY15/2	泥層	シルト 締り20%、工事などまたは植物根に断る程度か	ハード
1-7	HY15/1	泥層	シルト 締り20%、K ₂ Oプロック少量、蒸気土プロック少量、工事などまたは植物根に断る程度か	ハード
1-8	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
1-9	HY15/3	泥層	細砂	ややハード
1-10	HY15/2	泥層	シルト中に細砂少量	ややハード
1-11	HY15/2	泥層	シルト中に細砂少量	ハード
1-12	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
第14調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1	HY15/2	泥層	シルト 細砂少量	ソフト
2	HY15/2	泥層	シルト K ₂ O量あり 表の少量含む	ハード
3	HY15/2	泥層	細砂	ややハード
4	HY15/4	泥	細砂	ソフト
第15調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	層の上面は締り強く	ややハード
1-2	HY15/3	泥層	細砂	ややソフト
1-3	HY15/4	泥層	細砂	ソフト
第16調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	細砂 K ₂ Oプロック少量、コンクリート少量、腐植約1% (他のところからの混入)	ややハード
1-2	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
1-3	HY15/3	泥層	細砂	ややハード
1-4	HY15/2	泥層	粗砂	ハード
1-5	HY15/1	泥	細砂	ソフト
1-6	HY15/1	泥	細砂	ソフト
1-7	HY15/4	泥層	細砂	ソフト
第17調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	シルト 砂石、小礫、中礫少量 砂粒より遠く	ソフト
1-2	HY15/2	泥層	シルト	ややハード
1-3	HY15/2	泥層	シルト K ₂ Oプロック少量	ややソフト
1-4	HY15/2	泥層	細砂 C微量	ソフト
1-5	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
1-6	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1-7	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1-8	HY15/3	泥層	層下の混入した砂層	ソフト
第18調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1	HY15/2	泥層	シルト	ややハード
1	HY15/2	泥層	シルト K ₂ Oプロック少量	ややハード
1	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
第19調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	細砂、層の厚多い	ソフト
1-2	HY15/2	泥層	シルト	ややハード
1-3	HY15/2	泥層	シルト K ₂ Oプロック少量	ややハード
1-4	HY15/2	泥層	細砂 塊物少量	ややソフト
1-5	HY15/4	泥層	細砂	ソフト
第20調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/3	泥層	粘土少量 自中層より混入	ソフト
1-2	HY15/1	泥層	細砂	ソフト
1-3	HY15/2	泥層	シルト	ソフト
1-4	HY15/2	泥層	シルト中に細砂少量	ソフト
1-5	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
1-6	HY15/2	泥層	細砂 締りにスズが付着する	ソフト
1-7	HY15/1	泥	粘土少量	ややハード
1-8	TA15/2	泥層	細砂 塊土層	ソフト
1-9	TA15/2	泥層	細砂 塊土層	ソフト
1-10	TA15/2	泥層	細砂 塊土層	ソフト
1-11	HY15/1	泥	細砂 締りにスズ付	ソフト
1-12	HY15/2	泥層	植物根	ソフト
1-13	HY15/2	泥層	植物根	ソフト
第21調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1	HY15/2	泥層	シルト	ややハード
1	HY15/2	泥層	シルト中に細砂少量、K ₂ Oプロック少量	ソフト
1	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
第22調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	層の 断面粘土20%、底層を削りて持ってきた砂、土	ソフト
1-2	HY15/2	泥層	シルト K ₂ Oの混入量約1%	ハード
1-3	HY15/2	泥層	シルト K ₂ Oプロック少量	ハード
1-4	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1-5	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
1-6	HY15/3	泥層	細砂	ソフト
第23調査区 高度セクション層 (SPA-SPA)				
1-1	HY15/2	泥層	層の 断面粘土20%、底層を削りて持ってきた砂、土	ソフト
1-2	HY15/2	泥層	細砂 断面粘土20%、底層を削りて持ってきた砂、土	ソフト
1-3	HY15/2	泥層	シルト 粘土土	ハード
1-4	HY15/2	泥層	シルト K ₂ O量あり	ハード
1-5	HY15/2	泥層	シルト中に細砂少量	ソフト
1-6	HY15/2	泥層	細砂	ソフト
1-7	HY15/2	泥層	シルト C微量	ハード

表3 調査区土層観察表

第20調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')・南壁セクション西壁 (SPA'-SPA')				
1-1	10YR3/2	黒褐色	シルト 鉄質土成層の残積	ソフト
1-2	10YR2/2	黒褐色	シルト 細砂20%、鉄質土成層の残積土、K ₂ Oプロット微量	ややハード
1-3	10YR3/2	黒褐色	シルト 粗砂土	ハード
1-4	10YR2/2	黒褐色	シルト 粗砂土	ハード
2	10YR3/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、K ₂ O粗砂微量	ハード
3	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量	ソフト
4	10YR3/2	黒褐色	シルト	ソフト
第21調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')・南壁セクション西壁 (SPA'-SPA')				
1-1	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土40%、中多量ガラスなどあり、鉄質土成層の残積土	ソフト
1-2	10YR4/2	灰黄色	シルト 粗砂土	ハード
1-3	10YR3/2	黒褐色	シルト 粗砂 中多量などあり、鉄質土成層の残積土	ハード
1-4	7.5YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、鉄質土成層の残積土	ハード
1-5	10YR2/2	黒褐色	シルト K ₂ Oプロット微量、黒褐色土40%、鉄質土成層の残積土	ハード
2	10YR4/2	灰黄色	シルト K ₂ O粗砂あり	ハード
3	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量	ソフト
4	10YR3/2	黒褐色	シルト	ソフト
第22調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
1	10YR3/4・10YR4/2	灰褐色 灰黄色	シルトと砂の混合層	ソフト
2	10YR3/2	黒褐色	シルト K ₂ Oプロット微量	ソフト
3	10YR2/2	黒褐色	砂土層、シルト5%含有	ソフト
4	10YR4/2	灰黄色	砂	やや硬
第23調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
1-1	10YR4/2	灰黄色	粗砂土成層(層状)・砂状土 10YR2/2混層シルト(1%) 硬砂質	硬
1-2	10YR2/2	黒褐色	シルト 粗砂土、ゾライマー	ややハード 密
2	10YR4/1・10YR3/1	暗赤・黒褐色	中砂質、シルト K ₂ O粗砂(2×1mm、2×2mm) 入る、基本的に粘りがない層、ゾライマー	ややハード やや硬
3	10YR2/2	黒褐色	シルト+粗砂(10:10)、ゾライマー	ソフト やや硬
4	10YR4/2	灰黄色	シルト(細砂)	ソフト やや硬
第24調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA')				
1-1	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土20%、鉄質土成層の残積土	ソフト
1-2	10YR2/2	黒褐色	シルト 粗砂少量	ハード
2	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂微量、K ₂ O粗砂微量	ハード
3	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量	ソフト
4	10YR3/2	黒褐色	シルト	ソフト
第25調査区 南壁セクション西壁 (SPA-SPA')				
1	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土15%	ややソフト
2	10YR2/2	黒褐色	シルト	ソフト
第26調査区 南壁セクション南壁 (SPA-SPA')・東西セクション南壁 (SPA'-SPA')				
1-1	10YR3/2	黒褐色	シルト K ₂ Oプロット微量	ソフト
1-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	ハード
2	10YR2/2	黒褐色	シルト 細砂少量、K ₂ Oプロット少量	ハード
3	10YR2/1	黒褐色	シルト 粗砂少量	ハード
4	10YR2/2	黒褐色	シルト	ソフト
5	10YR2/2	黒褐色	シルト	ソフト
第27調査区 南壁セクション南壁 (SPA-SPA')				
1-1	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややハード
1-2	10YR2/2	黒褐色	シルト 1-1と1-3の中間層	ソフト
1-3	10YR2/2	黒褐色	シルト	ソフト
1-4	10YR2/1	黒褐色	シルト	ハード
2	10YR2/1	黒褐色	シルトK ₂ O50%	ハード
3	10YR2/1	黒褐色	シルト中に細砂微量 硬質土	ハード
4	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂微量	ハード
5-1	10YR2/1	黒褐色	シルト中に細砂微量	ハード
5-2	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややハード
3	10YR1/2/3	黒褐色	シルト中に細砂少量	ややハード
4	10YR2/2	黒褐色	粘土 ソフトローム	ハード
5	10YR4/4	暗赤	粘土、ハードローム	ハード
第28調査区 東西セクション南壁 (SPA-SPA')・南壁セクション西壁 (SPA'-SPA')				
1-1	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややソフト
1-2	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、K ₂ O粗砂微量	ハード
2	10YR2/2	黒褐色	シルト K ₂ Oプロット少量	ややハード
3-1	10YR2/2	黒褐色	シルト 粗砂 砂質土	ややソフト
3-2	10YR2/2	黒褐色	シルト 粗砂 砂質土	ハード
3-3	10YR2/2	黒褐色	シルト C微量	ソフト
3-4	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土が層状に入る C微量	ソフト
3-5	10YR2/2	黒褐色	シルト	ソフト
3-6	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土プロット少量	ソフト
3-7	10YR2/2	黒褐色	シルト 黒褐色土プロット少量	ソフト
3-8	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量	ややソフト
3-9	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂微量	ややソフト
3-10	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややソフト
3-11	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-12	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-13	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量	ハード
3-14	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、ローム粗砂量	ハード
3-15	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-16	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、ローム粗砂量	ややハード
3-17	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややソフト
3-18	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂少量、ローム粗砂量	ややソフト
3-19	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-20	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-21	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-22	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-23	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-24	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-25	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-26	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-27	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-28	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-29	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-30	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-31	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-32	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-33	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-34	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-35	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-36	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-37	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-38	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-39	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-40	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-41	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-42	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-43	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-44	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-45	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-46	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-47	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-48	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-49	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-50	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-51	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-52	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-53	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-54	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-55	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-56	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-57	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-58	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-59	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-60	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-61	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-62	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-63	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-64	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-65	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-66	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-67	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-68	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-69	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-70	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-71	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-72	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-73	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-74	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-75	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-76	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-77	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-78	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-79	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-80	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-81	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-82	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-83	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-84	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-85	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-86	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-87	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-88	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-89	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-90	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-91	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-92	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-93	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-94	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-95	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-96	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-97	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-98	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-99	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード
3-100	10YR2/2	黒褐色	シルト	ハード

表8 調査区土層観察表

P10	TAY10/2	黒炭	細砂+シルト (30 : 10)	密	中やソフト
P11	10Y10/3	にぶい黄褐色	粘+シルト (50 : 10)	密	やや硬 ややソフト
表層部調査 表層セクション地層 (SPA-6PA)					
I-1	10Y10/3	黒炭	細砂 小至中等程度		ソフト
I-2	10Y10/2	黒炭	細砂 小至中等程度, C少量		ややソフト
E	10Y10/3	黒炭	細砂 K=40程度		ややソフト
II	10Y10/2	黒炭	細砂		ソフト
IV	10Y10/4	暗緑	細砂		ソフト
表層部調査 表層セクション地層 (SPA-6PA)					
I	10Y10/2	黒炭	細砂 小至中等程度, C少量		ややソフト
E	10Y10/3	黒炭	細砂 K=40程度		ややソフト
II	10Y10/2	黒炭	細砂		ソフト
IV	10Y10/4	暗緑	細砂		ソフト
表層部調査 表層セクション地層 (SPA-6PA) 表層セクション地層 (SPA-6PA)					
I	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 50)		ソフト やや硬
II	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 60)		ハード 密
III	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (40 : 60) +10Y10/3砂10-15%混入 C4%-10%		
B-1	10Y10/3	にぶい黄褐色	砂のみ (砂の基本型)		粗 ソフト
B-2	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 50), 中至粗, 凝状に入るC1%		粗 ソフト
B-3	10Y10/3	にぶい黄褐色	砂		ハード 密
B-4	10Y10/2	黒	10Y10/3砂+10Y10/2混入シルト+砂 (砂10%以下) の混合層だが全体は砂 C10%, 他の多層に比し比重が強い。重層と反層の中層層		
V	10Y10/1	黒	シルト+砂 (30 : 40)		ソフト 密
VI-1	10Y10/1	黒	シルト 下部に3%-7%程度		やや密 ややハード
VI-2	10Y10/1	黒	シルト		密 ややソフト
VI-3	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (70 : 30), C1%, 粘+mpアロク状		
VI-4	10Y10/1	黒炭	シルト+mpアロク		ソフト やや硬
VII	10Y10/1	黒	シルト		密 ハード
IX	10Y10/2+10Y10/3	黒炭	ソフトローム		極めてハード 密
X	10Y10/4+10Y10/5	黒→にぶい褐	mpアローム		極めてハード 密
表層17	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 40) C1%, 粘土3%		ソフト やや密
表層18	10Y10/3	にぶい黄褐色	シルト+砂 (30 : 10) 粘と砂 C1%, K=4%		ソフト やや硬
P17	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 50) 混合		やや密 ソフト
P18	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 50) 混合		やや密 ソフト
P19a	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 50)		ソフト 密
P19b	10Y10/3	黒炭	シルト+砂 (40 : 60)		ソフト 粗
P19c	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 70) 10Y10/3粘土混入程度9%含有		ソフト やや密
P19d	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 70)		ソフト やや密
P19e	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 70) +10Y10/3粘土混入		ソフト やや密
P19f	10Y10/1	黒炭	粘土 (30 : 1) 10Y10/3混入, 10Y10/2粘砂シルト, 砂 (30 : 30) 小混じった状態 (粘土混入)		ソフト
P19g (14層)	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 60) +10Y10/3粘土混入程度9%含有, 10Y10/2粘砂シルト, 砂 (30 : 30)		ソフト
P19h	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 70) C1%, 粘土2%		ソフト やや密
P19i	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 70)		ソフト やや密
P19j	10Y10/3	にぶい黄褐色	粘 10Y10/2粘土混入9%		ソフト やや密
P19k	10Y10/2	黒炭	シルト+砂		
P19l	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 60) +10Y10/3粘土混入, 10Y10/2粘砂シルト, 粘土含有		ソフト やや密
P19m	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 60) +10Y10/3粘土混入程度9%		やや密 ややハード
P19n	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 60)		やや密 ややハード
P19o	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 20) 主層中央部にあり10Y10/3粘土混入		ソフト やや密
P19p	10Y10/2	黒炭	シルト+砂 (30 : 60) 粘土含有		ソフト やや密
P19q	10Y10/1	黒炭	シルト+砂 (30 : 70)		密 ややソフト

表9 遺構土層観察表

表層部調査区	層	土層	土質	土質	土質
a	10Y10/1	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量, 現場色1/ソフト少量		ハード
b	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトロームアロク多量		ハード
c	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状程度		ややハード
d	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトロームアロク多量		ハード
e	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトロームアロク多量		ややハード
f	10Y10/1	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量		ややハード
g	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状程度		ややソフト
h	10Y10/1	黒炭	シルト		ややソフト
i	10Y10/1	黒炭	シルト ソフトローム状少量, C少量		ややソフト
j	10Y10/2	黒炭	シルト やや粘りあり, ソフトロームアロク多量		ややハード
k	10Y10/1	黒炭	シルト 現場色1/ソフト少量, ソフトローム状程度		ややハード
l	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量		ややソフト
m	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトロームアロク多量, 自然充填		ソフト
n	10Y10/2	黒炭	シルト C少量, ソフトローム状程度		ハード
o	10Y10/1	黒炭	シルト 白色ソフトローム少量, ソフトローム状程度, C少量		ややハード
p	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量		ややハード
q	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状少量, C少量		ハード
r	10Y10/1	黒炭	シルト		ハード
s	10Y10/1	黒炭	シルト C少量		ややソフト
t	10Y10/1	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量		ややソフト
u	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状少量, C少量		ややソフト
v	10Y10/2	黒炭	シルト ソフトローム状少量		ハード
w	10Y10/1	黒炭	シルト		ハード
x	10Y10/1	黒炭	シルト ソフトローム状程度, C少量, 現場色1/ソフト少量		ハード
y	10Y10/2	黒炭	シルト 粘りありあり ソフトローム状程度		ハード

表10 遺構土層観察表

66	1P12/2	原周	シルト C 少量、ソフトローム少量	中やハード
67	1P12/1	原周	シルト ソフトローム少量	中やソフト
67	1P12/2	原周	シルト わずかに粘質あり、C 少量、ソフトローム少量、自然堆積	ハード
68	1P12/1	原周	シルト 粘質あり、ソフトローム少量、自然堆積	中やハード
68	1P12/2	原周	シルト	中やソフト
68	1P12/1	原周	シルト 白色ソフトローム少量	中やハード
68	1P12/2	原周	シルト	ソフト
68	1P12/1	原周	シルト C 少量	中やソフト
69	1P12/1	原	シルト 粘質わずかにあり	ソフト
69	1P12/2	原周	シルト 粘質わずかにあり、ソフトローム少量	中やハード
69	1P12/1	原周	シルト ソフトローム少量	ソフト
69	1P12/1	原周	シルト C 少量	ソフト
69	1P12/2	原周	シルト 粘質あり、ソフトローム少量、先行するP2	ソフト
69	1P12/1	原周	シルト 粘質あり、自然堆積	ソフト
69	1P12/2	原周	シルト中に細砂少量、ソフトローム少量、粘質あり、自然堆積	中やソフト
69	1P12/2	原周	シルト 粘質あり、ソフトローム少量	ソフト
P56-a	1P12/2	原周	細砂 ソフトローム少量、先行するP2	中やソフト
P56-b	1P12/1	原	細砂 ソフトローム少量、先行するP2	中やソフト
P56-c	1P12/1	原周	細砂 先行するP2	ソフト
P56-d	1P12/1	原周	シルト中に細砂少量 ソフトローム少量 先行するP2	中やハード
観測調査区 壁穴埋物①				
1	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック、C 少量	中やハード
2	1P12/2	原周	シルト中に細砂少量、白色粘土ブロック少量	ハード
3	1P12/1	原周	細砂 黄色土、白色粘土ブロック少量	中やソフト
4	1P12/1	原	シルト中に細砂少量、白色粘土ブロック少量	ソフト
5	1P12/2	原周	シルト 白色粘土厚層(シルト 100 層)	中やハード
6	1P12/1	原	シルト 白色粘土ブロック少量	中やソフト
7	1P12/1	原	細砂、粘質土、白色粘土ブロック少量	中やソフト
8	1P12/2	原周	細砂、黄色土ブロック少量	ソフト
9	1P12/2	原周	シルト中に細砂少量、粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やソフト
10	1P12/1	原	シルト中に細砂少量、粘質あり、白色粘土少量	中やソフト
11	1P12/2	原周	シルト 白色粘土少量	中やハード
12	1P12/1	原	シルト 白色粘土ブロック少量	中やハード
13	1P12/1	原	シルト 白色粘土ブロック少量、黄砂の混在り	中やソフト
14	1P12/1	原	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やソフト
15	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	中やハード
16	1P12/1	原周	シルト中に細砂少量、粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
17	1P12/1	原周	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やソフト
18	1P12/2	原周	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
19	1P12/1	原	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
20	1P12/1	原周	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
21	1P12/1	原	シルト中に、細砂少量、水分多量に含む、C 少量	中やソフト
22	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
23	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
24	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
25	1P12/2	原周	細砂、黄色土ブロック少量、白色粘土ブロック少量	ハード
26	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
27	1P12/2	原周	シルト中に細砂少量、黄砂約5%、C 少量	中やソフト
28	1P12/2	原周	細砂、白色粘土少量	中やハード
29	1P12/1	原	細砂、粘質土、白色粘土ブロック少量	中やソフト
30	1P12/2	原周	細砂	ソフト
31	1P12/1	原周	シルト中に細砂少量、白色粘土ブロック少量	ハード
32	1P12/1	原周	細砂、黄色土ブロック少量、白色粘土ブロック少量	中やハード
33	1P12/1	原	シルト 白色粘土ブロック少量、C 少量	ハード
34	1P12/2	原周	シルト	ハード
35	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
36	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
37	1P12/2	原周	シルト中に細砂少量、黄砂約5%、白色粘土ブロック少量	中やハード
38	1P12/2	原周	細砂、黄色土約20%、白色粘土ブロック少量	中やソフト
39	1P12/2	原周	細砂、黄色土約20%、白色粘土ブロック少量	中やソフト
40	1P12/1	原	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やソフト
41	1P12/1	原周	シルト中に細砂少量、粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
42	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
43	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、C 少量	ハード
44	1P12/1	原周	シルト 白色粘土少量	ハード
45	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
46	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、C 少量、黄砂約5%	ハード
47	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、C 少量	ハード
48	1P12/1	原	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
49	1P12/2	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
50	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、黄色土ブロック少量	ハード
51	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、黄色土約10%	中やハード
52	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量、黄砂約10%	ハード
53	1P12/1	原	シルト中に細砂少量、粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
54	1P12/1	原	シルト 粘質あり、白色粘土ブロック少量	中やハード
55	1P12/1	原周	シルト中に細砂少量	中やソフト
56	1P12/1	原周	細砂、黄色土約40%、白色粘土ブロック少量	中やソフト
57	1P12/1	原周	シルト 白色粘土ブロック少量	ハード
58	1P12/2	原周	黄砂、黄砂約10%、粘土	ソフト
観測調査区 土層①				
6	1P12/2	原周	粘質土、粘質土	中やソフト

表11 遺構土層観察表

b	MYR1/2	土壌・腐植	粘土	ソフト
c	MYR5/2	土壌	シルト中に微細砂少量	ソフト
d	MYR1/2	土壌	シルト中に微細砂少量	ソフト
第11調査区 壁中・柱脚部				
a	MYR5/2	土壌	細砂・少量	ソフト
b	MYR5/2	土壌	細砂・少量・砂少量	ソフト
c	FAYR5/2	焼瓦類	細砂・焼土層	ソフト
d	FAYR5/1	瓦	細砂・C層・焼土層	ソフト
e	FAYR5/2	土壌	細砂・焼土層	ソフト
f	MYR5/2	土壌	細砂	ソフト
g	MYR1/1	瓦	細砂・瓦層	ソフト
h	FAYR5/1	瓦	細砂・C層・焼土層	ソフト
i	MYR5/2	土壌	細砂・焼土層	ソフト

2. 遺物の概要 今回の調査で出土した遺物は陶磁器が5941点、土器が205点、金属製品が286点など総点数6552点である。なお集計には第50調査区で出土した一括の捺文土器は含まれていない。

出土した中世に属する遺物は全部で251点で青磁、白磁、珠洲、古瀬戸製品が見られる。

第12図1～9は青磁である。調査では片切り掘りによる幅の広い蓮弁文を持つ碗、見込みに花文を施す碗、鐙反りの碗、皿が見られる。二次被熱しているものも見受けられる。

第12図10～15は白磁の皿である。掲載したものはすべて、高台に挟り込みを持つ皿か、あるいは同種のもので挟り込みを持たない皿である。今回の調査で出土した白磁はほとんどが砂館神社西の砂丘に設定した第20調査区付近からの出土である。また細片のため掲載していないが第57調査区から八角坏と鐙反碗が出土している。

第12図16～18は古瀬戸製品である。調査では主に古瀬戸後期と考えられるものが出土している。出土位置は砂館神社西の砂丘以外の平地に設定した調査区から1片ないしは2片ずつ出土している。16の瓶子は二次的に被熱している。

第12図19～第13図25は珠洲である。すり鉢と甕が出土している。すり鉢の見込み付近は全く卸目の確認できないほど摩耗している。19、20は第IV期に相当するものと考えられる。21～25は第V期～VI期相当すると思われる。

第14図26～第15図45は肥前系の製品である。肥前系の磁器は18世紀から19世紀のものが中心であり、17世紀前半から中葉にかけて生産されたのいわゆる初期伊万里はほとんど見られない。

第15図46～第16図52は唐津、あるいは唐津系と考えられるものである。調査で出土したものは第15図46のような内面に銅線軸を施し、蛇の目に軸を掻き取る皿や第15図45以下のような全体に鉄軸を施すすり鉢、白土の刷毛目を波状に施す大鉢や甕類が主なものである。唐津も18世紀以降のものがほとんどである。

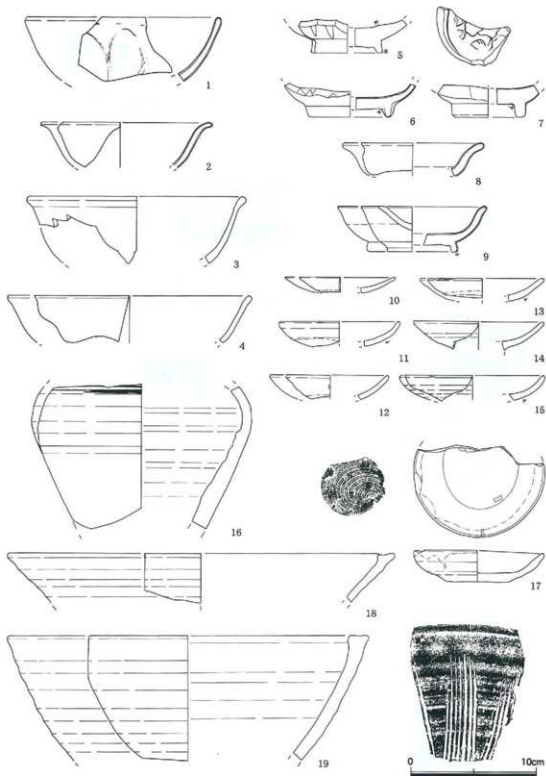
第17図55～59は明治時代に属すると考えられる遺物である。第8調査区付近ではこのほかに摺絵の碗、皿が大量に出土している。

第22図136は捺文土器の高坏である。外面には縦方向に刷毛目の調整痕が残る。底面には○の中に十文字の刻印が施される。

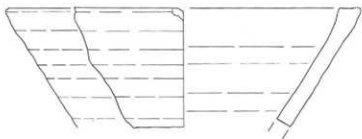
第50調査区では最下層で捺文土器の深鉢が数個体出土している。これらの捺文土器は来年度刊行予定の報告書にて報告する予定である。

第22図137～142は土師器の坏である。すべてロクロ成形であり、底面が残るものには回転糸切り痕が残る。140、141は内面を黒色処理する。140は付高台であり、高台内に回転糸切り痕が残る。第22図142は須恵器の坏である。底面に十文字の火樽の跡と回転糸切り痕が残る。須恵器は掲載したものの他に甕が出土している。

第18図は銅銭である。今回の調査では開元通宝(初鑄年621年)から新寛永通宝(初鑄年1697年)までなど合計で113枚の銅銭が出土しているがその内の約73%が第50調査区で出土している。また第50調査区では銭摺が出土した。細い木材に約30枚の銅銭を通していた。銅銭は腐食が激しく銭名は判然とせず、無文銭と考えられる。(三浦英俊)



第12図 調査区出土遺物



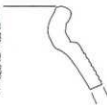
20



21



22



24



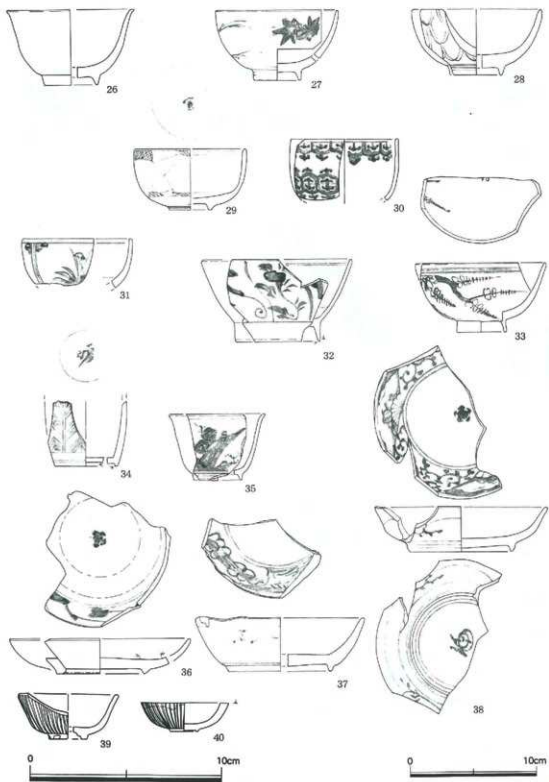
23



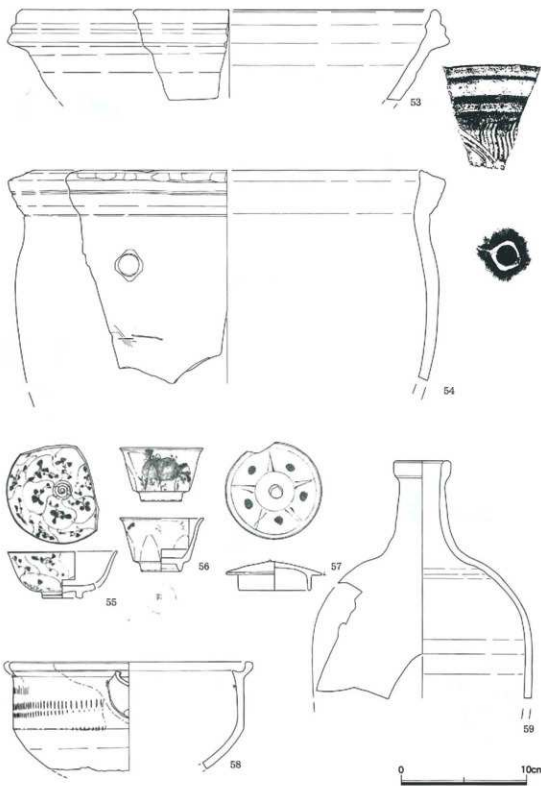
25



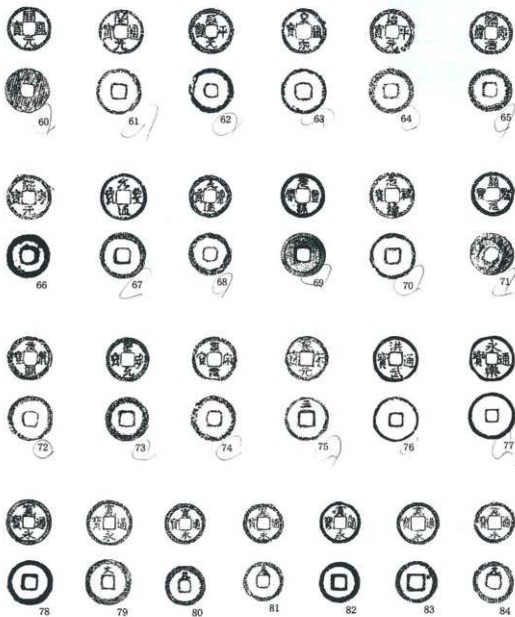
第13図 調査区出土遺物



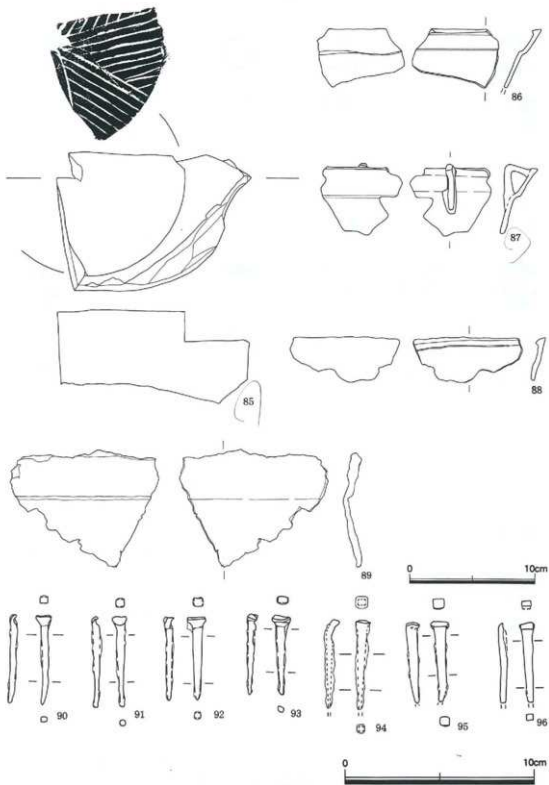
第14図 調査区出土遺物



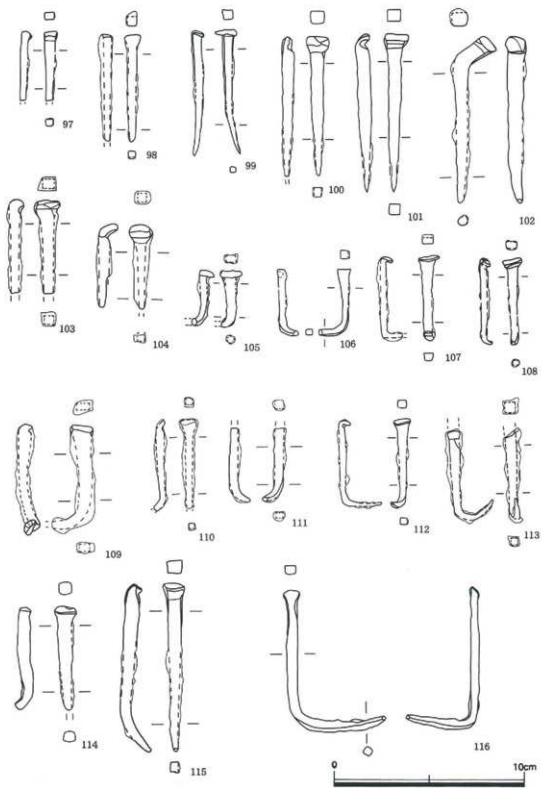
第17図 調査区出土遺物



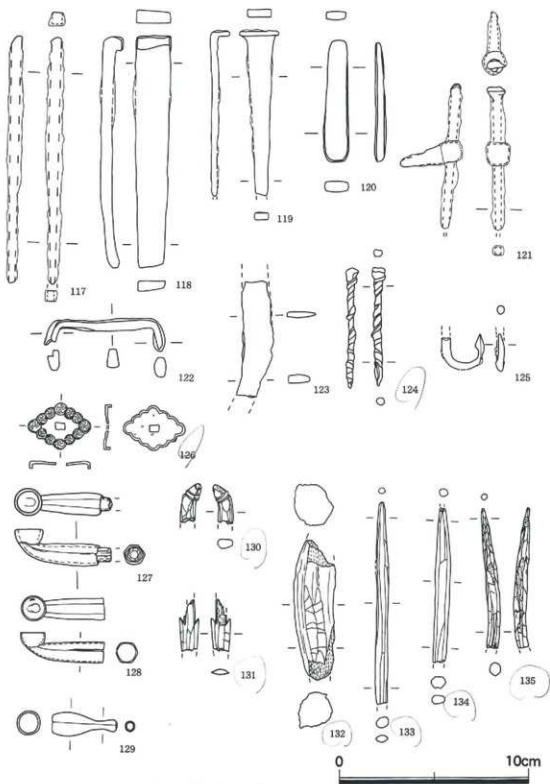
第18図 調査区出土遺物



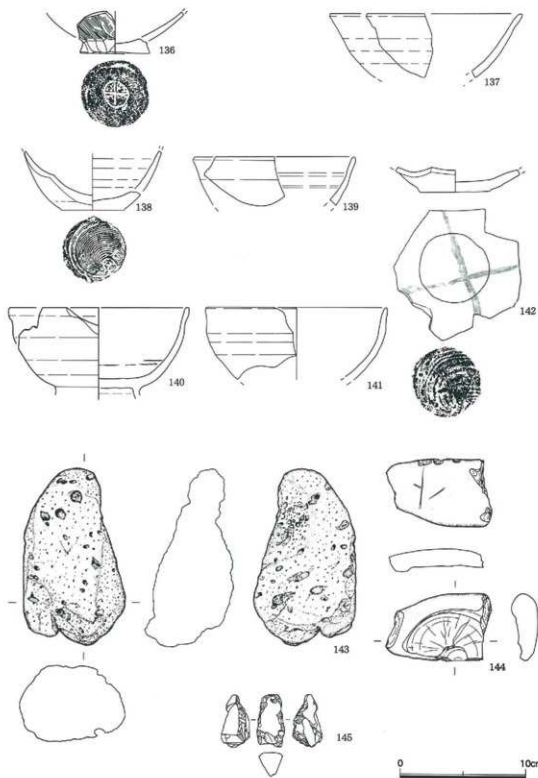
第19図 調査区出土遺物



第20図 調査区出土遺物



第21図 調査区出土遺物



0 10cm

第22図 調査区出土遺物

表12 遺構土壌選別表

(単位: g)

区別	種別	第50調査区							第57調査区					第63調査区		
		堅穴建物跡1	土壇1	焼土1	焼土2	焼土3	焼土9	焼土11	炭化物範囲1	炭化物範囲2	溝1	焼土1	焼土2	土壇1	焼土1	焼土2
植物性遺物	木炭	6.5							0.4							
	米	2.4	0.1				0.4		0.7	0.3	0.4	0.3	0.1	0.2		
	タカノメ	9.5				0.6			1.9				0.4	0.2	0.6	
	小豆	0.6	0.7						0.5				0.2			
	ぶどう	1.2												0.3		
	茅材								0.4							
	炭化樹皮	13.2						0.5					1.4			
	不明種子	22.7	0.6		0.6		0.9	0.8	0.7	0.3	0.3	0.5	0.9	0.3		
木片	2.4															
動物性遺物	魚骨(鯉骨・小)	1.5		1.1	0.2			0.3	0.2				0.2	0.2	0.6	
	魚骨(耳骨)	0.7						0.5								
	歯・爪	1.3	0.2		0.2			0.3		0.2			0.4	0.5		
	不明骨(大)	56.1	2.7							1.9			1.4			
	不明骨(小)	131.7	2.6	1.1	1.6	1.1	1.1	10.8	64.0	2.3		2.6	1.1	0.5		
	焼骨		1.3													
	虫	0.2														
その他	不明溶解物(粒状)	249.0	7.1	0.2	0.5	0.3	0.2	2.5	8.8	1.9	1.5	1.9	0.8	7.4	0.2	
	鍛造剥片	49.3														
	磁器石	112.0	58.8			0.9			1.2	0.5		12.7	0.9	18.5		
	焼土塊	218.8		1.3	1.4	0.8	11.5	12.2	3.1	103.8		996.1		7.7		
	鏝	5.3														
	玉砂利	208.7									9.8					2.1
	不明炭化物	249.5			0.6			0.2	0.5	0.5		21.6	0.4	1.0		0.1
	炭	486.0	42.7	0.5	1.3	2.0	1.2	9.7	13.1	10.8	187.2	5.6	15.5	104.9	13.6	0.5
	鉄製品	275.6	1.9	3.1			0.4	10.5	11.5	5.3			0.5			
	銅製品	63.3														0.2
	骨角器	31.3				1.9		7.5			0.7				1.1	
	土器	22.2	13.8						3.2							
	石器	12.7	5.4						0.9	2.4						
	採取土量(kg)	7092	352.7	2.3	4.4	6.8	13.8	43.8	89	4.5	87.7	24.1	16.4	124.9	16.1	6.8

表13 出土遺物観察表(陶磁器)

図録番号	種類	器種	胎土	胎土色調	備考	地区	層位	口径mm	器高mm	底径mm
第13001	青磁	瓶	明るい緑褐色	明るい灰	片切り彫りによる彫の深い蓮弁文を施す。	28	II上	118(4)		
第13002	青磁	瓶	明るい緑褐色	明るい灰		49	II	118(4)		
第13003	青磁	瓶	明るい緑褐色	明るい灰	二次焼成あり。	50	型穴I	170(1)		
第13004	青磁	瓶	明るい緑褐色	明るい灰		52	II	128(3)		
第13005	青磁	瓶	明るい緑褐色	灰	墨付き。高台内には無紋。見込み彫の日輪筋あり。	20	IV			(88)
第13006	青磁	瓶	オリーブ灰	灰白	全面無紋後、高台内縁を削り。	22	I			(82)
第13007	青磁	瓶	明るい緑褐色	灰白	全面無紋後、高台内縁を削り。見込みに花文。	26	II			(84)
第13008	青磁	皿	明るい緑褐色	灰白		49	III	114(1)		
第13009	青磁	皿	黄緑灰	灰白	全面無紋後、高台内縁を削り。	20	II	120(1)	26	(70)
第13010	白磁	皿	白	明るい灰灰		20	III	90(1)		
第13011	白磁	皿	白	明るい灰灰		26	III	90(1)		
第13012	白磁	皿	白	灰白		22	II	90(1)		
第13013	白磁	皿	白	明るい灰灰		20	IV	90(1)		
第13014	白磁	皿	白	白		22	II	104(1)		
第13015	白磁	皿	白	白		22	III	114(1)		
第13016	古瀬戸	瓶子	明るいオリーブ灰	灰	外面に灰層を施す。二次焼成を受ける。	32	II上			
第13017	古瀬戸	緑釉小皿	オリーブ灰	明るい灰	堅く焼附まる。	48, 30	IV	100(1)	28	(50)
第13018	古瀬戸	経舟付大皿	オリーブ灰	灰白	全面に灰層を施す。	50	III	131(1)		
第13019	珠洲	すり鉢	うすオリーブ	明るい灰	幅2.5cm、7角一辺の器形。	37	II上	120(1)		
第13020	珠洲	すり鉢	灰	灰	幅2.7cm、7角一辺の器形。	37	II上	130(1)		
第13021	珠洲	すり鉢	灰	灰	3cm当たり10条の器形。口縁部に灰文。	22	II	130(1)		
第13022	珠洲	すり鉢	明るい灰灰	灰	口縁部に灰文がめぐる。3cm当たり10条の器形。	21, 22	I、II			
第13023	珠洲	すり鉢	明るい灰灰	灰	底面に停止糸切り痕が残る。器形同前より。3cm当たり10条の器形。	20	III			(144)
第13024	珠洲	壺	灰	灰	外面に3cm当たり7条の器形。	48	III			
第13025	珠洲	壺	灰	灰白	3cm当たり8条の器形。	50	III			
第13026	肥前	瓶	青褐色	白	蓮花の白磁模。	36	II	102(1)	90	(42)
第13027	肥前	瓶	青褐色	白	外面に藍染文とコンニャク印判による紅染文。	35	I、II上	98(1)	56	38
第13028	肥前	瓶	青褐色	明るい灰	外面に藍染文とコンニャク印判による紅染文。	7	I	104(1)	41	(23)
第13029	肥前	瓶	青褐色	白	外面に藍染文。	6	I	100(1)	40	(24)
第13030	肥前	瓶	青褐色	白	内外面に漆絵模印文。	37	I	90(1)		
第13031	肥前	瓶	青褐色	白		8	I	87(1)		
第13032	肥前	広口瓶	青褐色	白	外面に藍染文。	6	I	130(1)	66	(68)
第13033	肥前	瓶	白	白		8	I	104(1)	56	(28)
第13034	肥前	そば煎口	青褐色	白	外面に藍染文。他の目付型高台。	8	I			(48)
第13035	肥前	そば煎口	青褐色	白		52	I	75(1)	53	(28)
第13036	肥前	瓶	青褐色	白	見込みにコンニャク印判による五弁花文。	4	I	146(1)	28	(70)
第13037	肥前	瓶	青褐色	明るい灰		8	I	135(1)	43	(32)
第13038	肥前	瓶	灰白	明るい灰	外面に藍染文と筋文。	6	I	128(1)	36	(30)
第13039	肥前	紅瓶?	青褐色	白		6	I	133(1)	24	(30)
第13040	肥前	紅瓶	青褐色	白	型打ちによる灰印。	7	I	46	15	14
第13041	肥前	瓶	青褐色	灰白	見込みにコンニャク印判による五弁花文。高台内に無紋文。	3	I	140(1)	37	(78)
第13042	肥前	瓶	白	白	見込みに山水文。	8	I			50
第13043	肥前	瓶	青褐色	白	見込みに山水文。他の目付型高台。	7	I			(80)
第13044	肥前	瓶	青褐色	白	高台内面にハリ文入後。	8	I	130(1)	44	(18)
第13045	肥前	瓶	青褐色	白	見込みに花文。	8	I			(142)
第13046	唐津	瓶	灰褐色	明るい灰	見込み彫の日輪筋あり。	8	I			46
第13047	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり16条の器形。	3	I、II	100(1)		
第13048	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり12条の器形。	8	I	130(1)		
第13049	唐津	すり鉢	緑い青黄	うす茶	3cm当たり7条の器形。	8	I			
第13050	唐津	すり鉢	緑い青黄	にぶいぐあい	3cm当たり13条の器形。	8	I			
第13051	唐津	すり鉢	灰茶黒	明るい灰	3cm当たり10条の器形。	4	I			
第13052	唐津	すり鉢	茶黒	うす茶	3cm当たり9条の器形。	5	I			
第13053	唐津	すり鉢	灰白	灰白	3cm当たり9条の器形。	50	II上	130(1)		
第13054	越前	壺	灰茶黒	うす茶	内外面に鬼眼を施す。器面にスタンプを捺す。	5	I	101(1)		
第13055	越前・石川	壺	白	白		5	I	98(1)	37	32
第13056	肥前?	壺	白	白		5	I	65	43	32
第13057	肥前系	土瓶蓋	青褐色	明るい灰灰		5	I	77		37
第13058	肥前系	雪平鍋	黄褐色	うす黄だいたい		5	I	98(1)		
第13059	東北系	壺形	黄褐色	灰		8	I	40		
第13060	土師土器	杯		うす黄黄	底面に○に十のへら書きあり。	50	V			94
第13061	土師土器	杯		明るい黄だいたい	口の成形。	37	V	116(1)		
第13062	土師土器	杯		うす黄だいたい	口の成形。器縁赤切り痕あり。	37	V			(80)
第13063	土師土器	杯		茶白		52	VI	120(1)		
第13064	土師土器	杯		茶白	口の成形。内底土跡。	37	V	142(1)		
第13065	土師土器	杯		うす黄だいたい	口の成形。内底土跡。	37	IV、V	146(1)		
第13066	須恵系	杯		明るい灰	器縁一帯部にかけて十文字の火だすきの痕跡あり。口の成形。器縁赤切り痕あり。	37	III			86

表14 出土遺物観察表(鉄製品他)

調査番号	品名	備考	地区	層位	長さmm	厚さmm	幅mm	重量g
第190595	茶臼		20	Ⅱ				
第190596	鉄線	1層部分。	26	Ⅱ	47	7	66	40.7
第190597	内耳鏡		47	Ⅱ	94.0	99.5	4.9	40.4
第190598	鉄線	口縁部分。	50	層位C	42	7	68	43
第190599	鉄線	口縁部分。	50	土層D	91	9.5	119	120.7
第190600	何右	一寸五分	50	Ⅱ	65	4	4	2.2
第190601	何右	一寸五分	50	Ⅱ	67	4.9	6	3.4
第190602	何右	一寸五分	50	Ⅱ	43.5	5	4	2.5
第190603	何右	先端部欠損。一寸五分	50	土層D	42	7	3.5	2
第190604	何右	一寸五分。	50	層位C	47.5	5	7	2.5
第190605	何右	先端部欠損。	50	V	42.5	6.0	6.5	4.0
第190606	何右	胴部の一部と先端部を欠損。	50	Ⅱ	40	5	9	3.4
第200597	何右	先端部欠損。	50	層位C	96	6	4	3.5
第200598	何右	一寸五分	50	層位C	96	6.5	7.5	4.4
第200599	何右	先端部がやや湾曲する。	51	土層D	65	5.5	4.5	3.9
第200600	何右	二寸	50	Ⅱ	73	7	6	10.6
第200601	何右	三寸	50	Ⅱ	80	7.5	6.5	15
第200602	何右	三寸。胴部から20mmのところまで欠ける。	50	層位C	88	10	10	20.4
第200603	何右	先端部を欠損。	50	層位C	80	9	10	9.6
第200604	何右	先端部を欠損。	50	層位D	64	13	12.5	5.7
第200605	何右	胴部から2.5cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅱ	29.0	10.0	4.5	2.7
第200606	何右	胴部から3.5cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅱ	34.3	8.5	4.5	2.6
第200607	何右	胴部から4cmのところまで90°曲がる。	50	土層D	45	5	4	3.9
第200608	何右	先端から8mmのところまで欠ける。	50	Ⅱ	45.2	6.5	5.0	3.0
第200609	何右	二寸。先端から20mmのところまで欠ける。	50	層位C	57.5	8.5	12	9.4
第200610	何右	先端部欠損。胴部から4.5cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅱ	47.5	8.5	5.0	3.7
第200611	何右	胴部を欠損。先端から3.5cmのところまで90°曲がる。	50	層位C	41	6	6	2.8
第200612	何右	胴部から4cmのところまで90°曲がる。	50	Ⅱ	45	5	3	2.6
第200613	何右	胴部から4.5cmのところまでやや上方に向かって曲がる。	50	土層D	45.5	9	7	6.3
第200614	何右	一寸五分。先端部が曲がる。	50	層位C	55	6	8.5	7.3
第200615	何右	三寸。先端から20mmのところまで欠ける。	50	層位C	89	9	7	14.1
第200616	何右	四寸。先端から5.5cmのところまで90°曲がる。	57	Ⅱ	79	4.5	6	14.2
第210517	何右?		57	Ⅱ	131	9	9	20.1
第210518	平釘	四寸	50	Ⅱ	122	19	6	37.4
第210519	平釘	三寸	50	覆瓦	87	13	4	16.2
第210520	平釘	胴部を欠損。	56	Ⅱ	64	6	13.5	13.7
第210521	何右と鍔金	二寸。鍔金に何右を通す。	57	Ⅱ	79	14	20	11
第210522	鍔		36	層位C	64	6	16	19.7
第210523	刀子	先端と柄を欠損。	42	Ⅰ	61.5	18	4	12.1
第210524	火ばし	全体に錆が入る。火ばしの先端部。	50	Ⅱ	43	4	4	3.6
第210525	釣り釘	全体が湾曲し、先端にかえしがつく。	50	土層D	14	3.5	4.5	1.3
第210526	金糸	原形をほとんど残される金糸片。	39	層位C	35	24	1.5	4.8
第210527	樽管	樽首部。柄の一部が残る。	57	Ⅱ	45	12	11	31.2
第210528	樽管	樽首部。	57	層位C	44.5	10	12	7.1
第210529	樽管	樽口部。	43	Ⅰ	43.5	10	10	5.4
第210530	骨角部		39	Ⅱ	30	5	8	
第210531	骨角部・鍔		50	土層D	27	3	10	
第210532	骨角部	鍔の角を加工。未成品中。	52	層位C	73	21	22	
第210533	骨角部・中柄	一部欠損。	39	Ⅱ	18	5.5	7	
第210534	骨角部・中柄	一部欠損。	39	焼土層D	26	6	8	
第210535	骨角部・中柄	一部欠損。焼土する。	50	土層D	74	6	7	
第220543	石碇		52	層位C				
第220544	石碇		44	Ⅰ	85	14	24	
第220545	石碇		52	Ⅰ	47	19	18	

表15 鉄製品集計表

品名	破片数	重量g
何右	30	444.7
平釘	7	134.6
釣釘	1	1.3
刀子	7	49.7
火箸	2	7.2
内耳鏡	3	61.2
鍔	26	1059.5
鍔金	2	14.8
鍔部	21	1599.3
スワッグ	4	136.6
鍔	1	92.8
火釘	41	135.0
ねじ	1	2.4
不明	52	836.4
合計	259	4674.3

表16 出土遺物集計表(銅銭)他

品名	調査区	調査区															
		3	20	21	27	41	42	44	49	50	51	52	55	57	58	62	
銅元通宝		621	2						3		1					6	
淳化元宝		990							2							2	
咸平元宝		995							1							1	
阜成通宝		1059							3				1	4			
嘉祐元宝		1066							1								
出平元宝		1068							1							1	
神皇元宝		1068							3							3	
元豊通宝		1073							2	1	1					4	
元祐通宝		1086											1	1			
紹聖元宝		1094												1	1		
元符通宝		1095							1							1	
聖宗元宝		1101							4							4	
皇祐元宝		1253												3	1		
崇寧通宝		1269															
永樂通宝		1403							1							1	
寛永通宝(古)		1636	1					1	1	2			3	1	4	30	
寛永通宝(新)		1697				1	1	1	1	1	2	16	3	1	4	30	
不明・その他				2							43					47	
合計			3	2	1	1	1	1	1	2	1	26	1	5	1	115	

表17 出土遺物観察表(銅銭)

図録番号	品名	初出年	地区	層位	備考
第14600	開元通宝	621	30	土層II	
第14601	開元通宝	621	30	堅穴遺物跡I	
第14602	咸平元宝	998	30	堅穴遺物跡I	
第14603	皇宋通宝	1108	30	堅穴遺物跡I	
第14604	治平元宝	1064	30	30	
第14605	崇寧元宝	1108	30	30	
第14606	崇寧元宝	1108	30	7H24	
第14607	元龜通宝	1078	31	31	
第14608	元龜通宝	1078	32	32	
第14609	元龜通宝	1078	33	跡土	
第14610	元龜通宝	1086	37	I	
第14611	紹聖元宝	1104	37	跡土	
第14612	元符通宝	1108	30	30	
第14613	聖宗元宝	1101	30	30	
第14614	聖宗元宝	1101	30	30	
第14615	皇寧元宝	1253	37	II	背面に三の字
第14616	阜成通宝	1308	37	37	
第14617	阜成通宝	1433	30	堅穴遺物跡I	
第14618	寛永通宝(背)	1606	30	30	
第14619	寛永通宝(新)	1606	5	土層III	文銭
第14620	寛永通宝(新)	1697	49	I	背面に元の字
第14621	寛永通宝(新)	1697	30	跡土	背面に星の字
第14622	寛永通宝(新)	1697	50	I	
第14623	寛永通宝(新)	1697	52	跡土	裏に星
第14624	寛永通宝(新)	1697	52	跡土	裏に元の字

Ⅲ 小 括

ここでは今回の調査で検出した中世の銅銭の出土傾向について概観したい。

今回の調査は分布調査であり、ごく限られた範囲での部分的な調査であるからここで結論を出すというわけにはいかない。しかし限られた調査範囲であるのにも関わらず中世銅銭の分布に明らかな偏りが見られ、また過去に発見された多量の銅銭との関わりも考えられる。

今回の調査で出土した銅銭で寛永通宝と不明・その他を除く33枚のうち26枚が第50調査区で出土している。また残りの銅銭も第50調査区よりも旧日名川に近い調査区で出土している。第50調査区を中心として旧日名川の付近に分布しているといえる。

これらの銅銭が出土した調査区は「I 調査の概要」で述べた約2500枚の銅銭が発見された地点とは約100m離れた位置にある。この距離と第41調査区など銅銭や中世遺物が出土していない地点を挟んでいるのでいささか疑問の余地はあるが第50調査区で出土した銅銭と全く関係がないわけではないであろう。

15世紀の道南地方において貨幣経済がどれほど浸透していたかが問題であるが、この場において

貨幣を媒体にした交易が行われていたと考えても不自然ではないであろう。15世紀の時点で当調査範囲がどのような位置におかれていたかがわからない現段階では憶測に過ぎないが、第50調査区付近で行われた交易のために先に発見された銅銭が一時的に貯蔵されていたとも考えられる。

交易が行われていたとすれば具体的に誰がどんな交易を行っていたかが問題になる。第50調査区における鉄製品の出土重量が全調査区での出土重量の62%を占めること、堅穴遺物跡の周囲に焼土や炭化物範囲が多いことなどにそのヒントが隠されているのかもしれない。

ごく狭い範囲の調査にも関わらず、遺物や遺構がはっきり確認できる地点とほとんど全く確認できない地点や、遺物が確認できたとしてもその中の種別構成に大きな変化が見られる調査範囲があるなどトレンチとテストピットのみでの調査では今後解明すべき多くの点を残すのみとなってしまった。来年度においても堅穴遺物跡を検出した第50、第51調査区や第52、57調査区周辺において調査を行う予定である。昨年度、今年度の調査で明らかにし得なかった洲崎館跡の実像について更なる調査、検証を続けていきたい。(三浦英俊)

IV まとめ

2カ年にわたり、洲崎館跡の広がり、構造把握のため、館内外の調査を行ってきたが、当初予想したことは大幅に違っていた。調査区を概観すると、(以下調査区については附図1、第2回参照)第1～3区の土塁と目されていた箇所の調査では、この土塁の上面、及び斜面での人為的な構築の痕跡が全くないこと。薄く堆積しているⅡ層、Ⅲ層面の遺構、遺物が皆無なこと、その下の砂層はⅣ層であり極めて厚い堆積であることから中世以前に発達した砂丘であることがわかった。またこの土塁から砂館神社西側の砂丘は当初連続していたものと考えられる。すなわち、神社西側が砂丘、東側はこの土塁状の砂丘となっており、拝殿横の第38、39区の土塁堆積ではⅠ層の下部にⅡ層及びKo-d、Ⅲ層がなくⅣ層のみであること。後方部の本殿も周辺地形から1m以上開平している。このことは「…安永戊戌七…冬十二月西部上國毘舍門堂₁拝殿災。女奈邑長自殺。」(福山秘府)。さらに砂館神社棟札には「安永七_歳年 奉建立毘沙門天王假殿成就所」、「安永八_巳年 奉建立毘沙門天王本殿一字成就所」とあり、1778年に焼失後翌年本殿が再建されており、文献とも符合してくる。またこの土塁状砂丘はさらに第53、54区まで連続して東側に延び、神社西側砂丘と同一のものと考えられる。また神社北側の砂丘の調査も行った。第32～37区である。ここは毘舍門堂があった場所との言い伝えがあるところであるが、遺物、遺構は確認されていない。文献では「建立天河之洲崎之館之北於毘舍門堂仰承此毘舍門天王現來之縁起寛正三年夏有天河館之西海運沖夜々光物…」(新羅之記録)、「寛正三年壬午松前年代記、是歲夏、圓僧院秀延阿闍梨抓、落得二毘舍門金像。因僧広造₁立堂於上國天河。」(福山秘府)とあり、福山秘府ではその位置は上國天河の記述のみであり、新羅之記録では洲崎館の北に毘舍門堂を建てるとあり、明確な位置を示している。しかしこの洲崎館の実際の中心位置が不明であり今後の課題である。第4～8区で調査前、空堀の存在を想定したが、確認されなかった。中近世遺物もなく、近代に至るまで人為的痕跡はない。尚第31区土層堆積により、海岸へ至る道はⅠ層からの掘りこみを持つ近現代の道であることが判明した。

一方神社西側の砂丘の頂部である第20～28区では青磁、白磁や茶臼が出土し、焼土も検出されている。しかし柱穴は検出されず、また遺物数も少なく生活痕跡があまり感じられない。これらの砂丘地帯では遺物、遺構が皆無か、あっても遺物がわずかという状況である。一方第46区～52区、第57区、第63区は中世遺物が少ないながらも、柱穴、土壇、竪穴建物跡が検出し、生活の痕跡が見える。第50区では中世生活面であるⅢ層で2回、Ⅳ層で1回の時期の柱穴群が確認できた。Ⅲ層後半時期の柱穴は柱痕が4寸～5寸であり、密集しているのに対し、Ⅲ層前半、Ⅳ層では密集度は低いが、柱痕が8寸程と大きい。建物の種類によるのか、規模によるのか不明である。またⅢ層前半期にて竪穴建物跡が検出された。その規模も大きい。町道を挟んだ砂館神社の向かいの畑地内の第52区、第57区でもⅡ層～Ⅴ層の遺構、遺物が検出された。人為的痕跡が50区と同様濃厚な地区である。両区とも西側部分では神社西側からの砂丘の張り出しにより、砂層の堆積はやや厚いが、基本的に第50区、第52、57区付近ではその堆積は極めて薄い。第55、56区からも中世遺物が出土している。これらから見るとその居住空間は砂丘地帯ではなく北西や西の季節風をさえぎる砂丘のかげである第50、52、57区を中心とした平地部分であるといえる。また第63区からも柱穴や土壇、青磁、白磁が検出されている。当初、洲崎館を中心とした町場の広がりには向浜地区の可能性が濃厚と考えていたが、このことからこれら中世の遺構や遺物の広がりにはさらに東側に延びていくと考えられる。そしてそれは町道の左右に広がりを持ちながら国道228号線付近あるいはそれを超えて延びて行く可能性がある。一方第52、57、55区は町道の南側に並走している昭和20年代まであった旧目名河に沿っている。目名河から天の川河口部、海まで数分の距離であること、砂丘が北西風をさえぎってくれること、さらには天の川河口部が現位置より接近していた可能性もあり、絶好の交易空間であった可能性も考えられる。来年度第50区周辺を平面的に調査する予定であり、そのことによりこの地区の全容が見え、性格付けが出来ると考えられる。

(斉藤邦典)

比石館跡内外分布調査

I 調査の概要

1. 調査の経緯

道南12館のひとつである比石館跡は15世紀の半ばに渡道したと伝えられている厚谷将監重政が築いたとされる館跡である。上之国勝山館跡から直線距離にして約13kmほど南の宇崎地区を流れる石崎川の河口に突き出た長さ幅300m、幅約60m、標高約20mの岬に位置する。

比石館の成立や内部の様子は記録に残されておらず、不明である。

長禄元年(1456)年、コシヤマイン戦の際に攻められた比石館は陥落し、手傷を負った重政も石崎川の急流に身を投じたと伝えられている。その後の比石館がどうなったかは不明であるが、成立から終末までそれほど長い期間存続していたわけではないようである。一方、厚谷家は永正11年(1514年)に蛸崎光広が松前大館に移った際に一緒に移り、代々松前藩の中堅の家臣として仕えたと伝えられている。

現在の比石館跡には岬の中央に守護神である経津主命を祀る館神社があり、地元の人に「館神さん」と呼ばれて親しまれている。館神社の後方には石崎灯台が建つ。また石崎川河口に突き出た形の岬によって囲まれた場所は港としても良好であり、昭和9年には岬にトンネルを開け、東洋唯一のトンネル式漁港として竣工した。現在の石崎漁港は防波堤が整備されており、トンネルは使用されていないが残されている。また日本海側の断崖は乾く、暴風雨などによって削られることがある。

調査対象となる岬は比石館跡と伝えられてきており、16世紀台の陶磁器も表面採取によって得られていた。また岬の先端に通じる道路がもっとも細くなる地点は元来は窪んでいたが現在は石積みがされている。上辺の幅11m、深さ3m50cm程度の規模を持つ堀跡ではないかと考えられている。しかし、過去に発掘調査が行われたことはなく、実際の比石館の姿は捉えられなかった。そこでトレンチとテストピットによる分布調査を行って実際の比石館を確認することとした。

2. 調査の方法

遺跡内の任意の箇所に1~2m×3~4m程度のトレンチ、あるいは1~2m四方程度のテストピットを設定し、必要に応じて拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2調査区、...とした。調査は遺構を確認しつつ可能な限り掘り下げ、土層堆積状況や遺構等を実測、写真撮影によって記録した。土壌、焼土などの遺構の覆土はできるだけ全量採取し、後日フローテーションをおこなって選別した。遺物はI層のものは一括して取り上げ、II層以下のものは層位ごとに平板で取り上げた。

3. 調査の経過

平成12年7月27日 調査開始。第1調査区を設定。
平成12年8月24日 第5調査区で礎石を確認する。礎石の全容を確認するために調査区範囲を拡大したところ土壌2基を確認する。後の調査で土層墓であることが判明する。
平成12年9月5日 第5調査区で火葬墓1基を確認する。
平成12年9月11日 第14調査区で空壕を確認する。
平成12年9月22日 第14調査区で空壕の西側の延長を確認するために第16調査区を設定するも空壕を確認できず。
平成12年9月30日 現地説明会を開催する。
平成12年10月2日 全地区を埋め戻して調査を終了する。

4. 基本層序

- I層 10YR2/3暗褐色 シルト 表土層
- II層 黒褐色土 駒ヶ岳D火山灰(Ko-d)を含む層である。
- III層 褐色 中世末期頃とみられるの整地層がある。
- IV層 黒褐色~暗褐色 シルト
- V層 10YR3/3暗褐色
- VI層 ソフトローム層
- VII層 ハードローム層~基礎礫 (三浦英後)

II 調査

1. 調査区

第1調査区(第23図) 館神社の北側に設定したトレンチである。崖崩れ防止のための防護ネットによる工事で若干の擾乱が見られたが個平された様子もなく、遺構の保存状況は良好である。Ko-dを含んでいるII層以下から柱穴、焼土、溝跡を検出した。調査可能な範囲の関係上、明確な建物跡を検出することはできなかった。唐津焼の碗や、瀬戸・大窯の天目茶碗がわずかに検出されている。

第4調査区(第24図) 岬の南に広がる平坦地に長さ約60mの調査区を設定し、3ヶ所に分けてそれぞれ東から第2調査区、第3調査区、第4調査区とした。第2調査区ではII層を確認することができず、表土の直下にIV層が広がっていたので多少の削平を受けたことが考えられる。第3、第4調査区ではKo-dを平面上で斑点状に確認できたので削平などの改変は無いようである。しかし、遺物、遺構は検出しなかったので当地における土地利用はなされなかったようである。

第5調査区(第25図) 岬の根本に当たる部分に設定した調査区である。Ko-dの直下から砂利敷きの礎石建物跡と考えられる礎群と土葬墓2基、火葬墓1基を検出した。土葬墓、火葬墓ともにマウンド状の封土や墓標などの墓の存在を知らしめる施設は確認できなかった。調査範囲外にも土壌墓群が広がる可能性がある。本調査区では礎石建物跡に伴う砂利の上と火葬墓内以外はKo-dは残存していなかったが後世の掘削などはないようである。遺物は土葬墓、火葬墓内で検出した陶磁器、鉄釘、銅銭のみである。

(1) 礎石建物跡(第27図) 第5調査区内やや北寄りに位置する。縦横約30～50cm程度の板石を縦横4枚づつ並べて方形をなす。さらに北側の辺に一回り小さい板石を5枚並べる。このような配石状況から北側が正面と考えられる。方形に並べた板石の内外に砂利を敷くが内側と外側で使用される砂利は大きさが異なっている。外側に敷く砂利は1～3cm程度の比較的小さいものを使用し、外側はそれより一回り大きなものを使用している。外側の砂利の範囲は南北約2.8m、東西約3.6mである。

外側の砂利敷きの直上に比較的多量のKo-dを

被っており、1640年の時点で砂利敷きが地表に露出していたことが伺える。また内側の砂利敷きと板石にはKo-dはみられなかったので1640年時点には何らかの建造物が建っていたと考えられる。この遺構に伴う遺物は検出していない。

(2) 土壌1(第25図) 礎石建物跡の南西に位置する土葬墓である。長軸132cm、短軸76cmの長方形で、深さは47cmである。マウンド状の封土、ないしは墓標などの施設は確認できなかった。出土遺物は瀬戸・大窯の端反皿と青花の皿、政和通宝1枚、判読不明のもの4枚であり、2枚ないしは3枚に重なって出土した。なお人骨は検出していない。

(3) 土壌2(第25図) 礎石建物跡の北東に位置する。土壌の一部は礎石建物跡の板石や砂利敷きと重複しており、礎石建物に先行する。長軸116cm、短軸71cmの長方形で、深さは43cmである。判読不可能な銅銭が7枚と至道通宝が1枚であり、2枚ないしは3枚重なって出土した。また銅銭と重なるようにして木片が残っており、この土葬墓が木棺墓であることが伺える。なお人骨は検出していない。

(4) 土壌3(第26図) 礎石建物跡の南西に位置する。長軸140cm、短軸108cmのやや丸みを帯びた方形であり、深さは50cmである。祥符通宝かと思われるものが1枚、嘉祐通宝1枚、聖宋通宝1枚、洪武通宝3枚、永樂通宝1枚、判読不明のもの14枚など銅銭21枚が出土している。土壌1と同じく封土や墓標は見られず、砂利がわずかに敷かれていた。本土壌は他の2基の土壌とは違い火葬墓である。検出面上から細かく砕けた焼骨、炭化物、焼けた糠が露出して、火葬施設を兼ねていたと考えられる。また土壌の底面付近からKo-dを検出しており、本地区で検出した遺構の中でもっとも新しい遺構であるといえる。

第11調査区(第23図) 館神社の北側、今回の調査でもっとも岬の先端に近い位置に設定した地区である。本地区には当初から一辺6～7m程度の方形の窪みがあり、周辺で表面採集によって縄文土器片が得られていた。また地元の人話では以前は人頭大の石を方形の窪みの壁にそって組み上げた施設が露出していたが、何のためのものかわ

からないとのことであった。

トレンチによる調査ではKo-dを切って窪みを造り、壁際にそって人頭大、あるいはそれ以上の大きさの礫を積み上げていることが確認できた。積み上げた礫の間などから江戸時代末期～明治時代の陶磁器が出土しており、この窪みも19世紀後半頃に作られたものと考えられる。

(三浦英俊)

第6調査区(第23図、附図2)

館神社に至る御代参道路に直交して調査区を設定した。ほぼ平坦部であり、建物跡等の遺構の検出が予想された。土層堆積図によると、Ⅲ、Ⅳ層掘りこみによる柱穴が確認されている。遺物は唐津、16世紀末～17世紀初頭美濃鉄釉碗出土。

第7調査区(第24図、附図2)

館神社正面の御代参道路は神社前に来ると道路を中心にして擋鉢状となっている。そのため道路中央部はやや削平されているのではないかの想定で、道路よりやや東側に調査区を設定した。その結果、十数基の柱穴、土壌が検出された。柱穴はⅢ層面からの掘りこみであり、柱の太さは3寸と5寸の2種類がある。土層堆積ではSPA～A'ではⅡ、Ⅲ層が削平されているがⅣ層、Ⅴ層のみであるが、SPB～B'ではⅡ層が土の保存状態は良好であった。遺物は美濃灰釉皿、青花等16世紀遺物出土。

第7調査区土壌1(第24図)

220cm×150cm、深さ70cmである。Ⅲ層掘りこみ。中央部、覆土から骨角器の中柄、永楽通宝、嘉祐通宝、煙管、鉄製品、青磁椀花皿が出土している。高フローテーションにより直径8mm、厚さ5.5mm、中央部直径2.8mmの穿孔がある明るい青の色調を持つ玉が3点、直径3mm、厚さ3mmで中央部に1.5mmの穿孔があり、色調は暗い青紫の玉1点、直径4mm、厚さ2.8mm、中央部に1.5mmの穿孔がある暗い紫の玉1点が検出されている。

尚、四隅に直径10cm程の柱が内側に打ちこまれている痕跡有り。

第8調査区(第24図、附図2)

土層堆積から見るとⅠ層以下は7.5YR4/3～4/4褐シルトに白色微小礫が含まれる比較的密な土壌であり、プライマリーな土層堆積ではない。そのため土層観察面及び平面で2つの溝及び柱穴が確認されているが、時間的な把握ができない状況で

ある。遺物も溝2覆土から石器1点のみ。

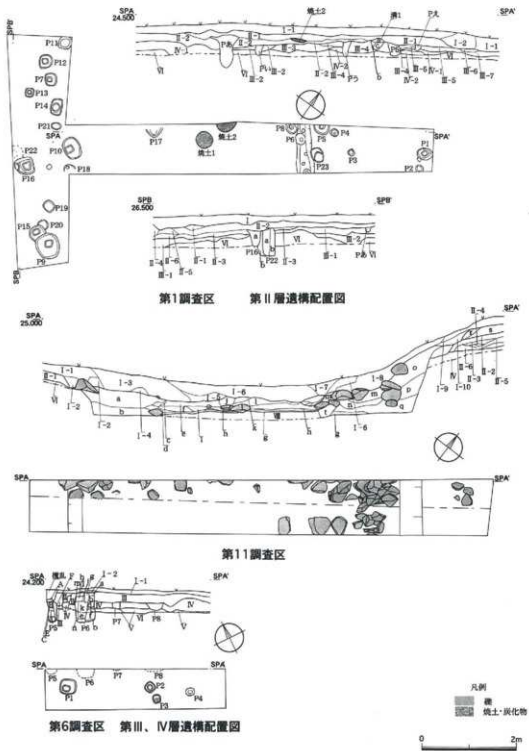
第14調査区(第24図、附図2)

館神社へ至る途中、ほぼ中間地点で、車1台がやっと通行できるほどの道幅が極めて狭くなる箇所がある。空壕があったと考えられている箇所である。現在この箇所は道路左右の崖部分には表面がコンクリートで塗り固められており、調査不可能の状態になっている。そのためこの箇所を過ぎ緩斜面を上りきった東側の平坦部及び緩斜面に調査区を設定した。この狭くなった箇所に空壕があるのなら、それに伴う防衛的な施設が存在、あるいは建物跡があっても良いのではないかと考えた。やはり道路中央部は削平されていると考えられたため道路よりやや東側に調査区を設定した。

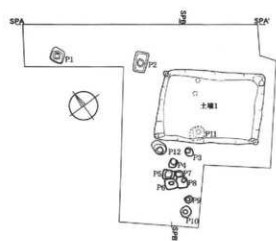
当初調査区内の南東側P1、P2付近に1m×2mの調査区を設定したところP2のような柱痕が約42cm×24cmの大型柱穴が検出されたため、建物跡あるいは門の可能性が考えられた。そのため、急遽調査区を北西側に約1.5mの幅で拡張していったところ、柱穴のほか空壕が確認された。そのため調査区を今度は北西の海側である道路中央部方向へ拡大していった。その結果、空壕、溝、20基ほどの柱穴が確認された。空壕は南東から北西へ伸びており、中央の御代参道路に直交してこの台地を横断する方向に伸びている。空壕は南東側で幅2.2m、深さ1.1mである。壁面の上から下へ至る中間部分がやや張り出す。底部は平坦であり、箱葉研砕状となる。北西に行くに従い、幅は狭くなり、深さもなくなる。土層堆積を見ると、SPA～A'では溝1はⅢ層掘りこみであるがさらにその下に、この溝1に埋められているP15がある。空壕覆土の堆積状況はややソフトな層とハードな層が交互に堆積している状況であり、さらに下部の空壕覆土ヒにKo-dの混入があること。これは壁面に付着したKo-dが壁面の崩壊とともに含有されたものであると考えられる。またⅣ層掘りこみの溝1の覆土底面にはKo-d均一層があることから自然埋没と考えられる。さらに空壕覆土上面からの掘りこみを有する柱穴P6や溝1よりも古いP15があることから、時間的には2時期以上が考えられる。遺物は溝1から青花出土。

第15調査区(第24図、附図2)

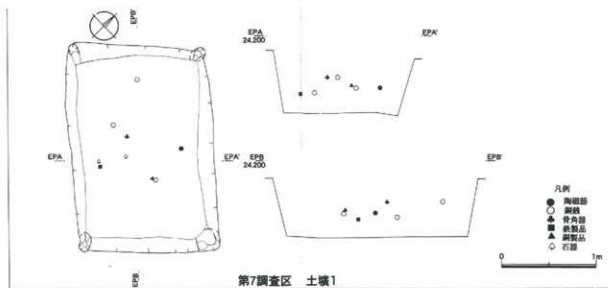
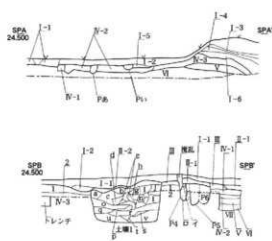
14区よりさらに北側15m、緩斜面を上りきった中央部御代参道路東側に4.8m×1.1mの調査区を



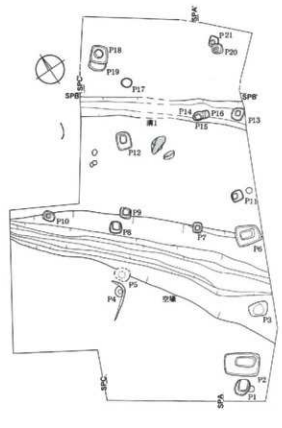
第23図 調査区土層堆積面



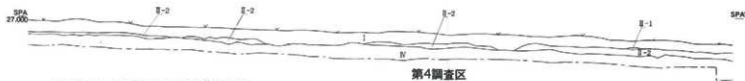
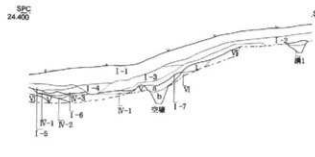
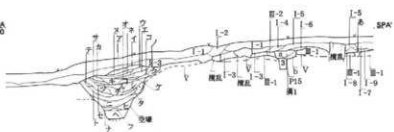
第7調査区



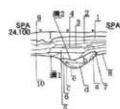
第7調査区 土壕1



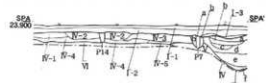
第14調査区



第24図 調査区土層堆積図他



第6調査区



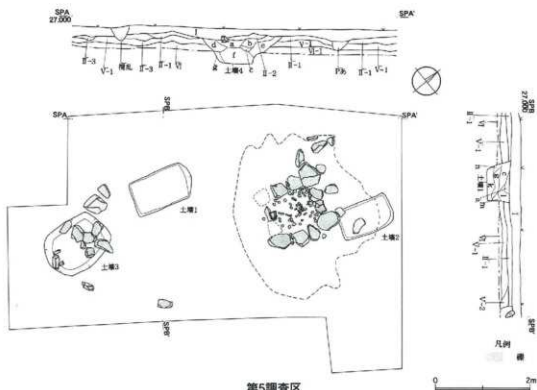
第IV層-②遺構配置図



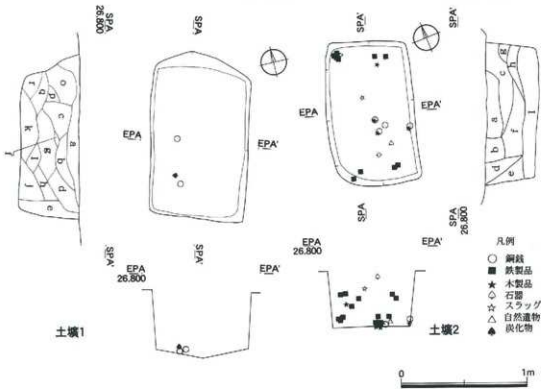
第IV層-①遺構配置図



第15調査区

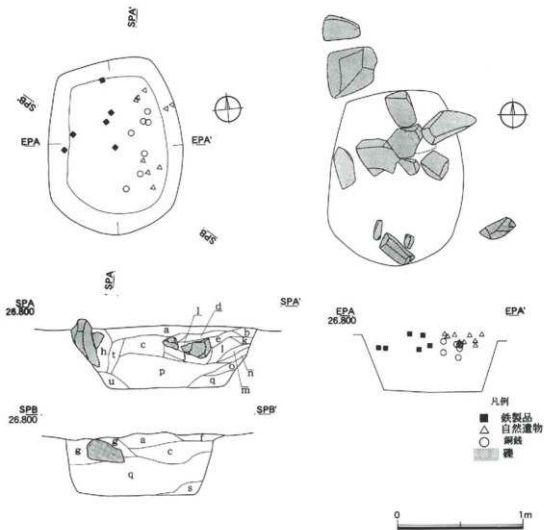


第5調査区



- 凡例
- 銅銭
 - 鉄製品
 - ★ 木製品
 - ◇ 石器
 - ☆ スラッグ
 - △ 自然遺物
 - ◆ 炭化物

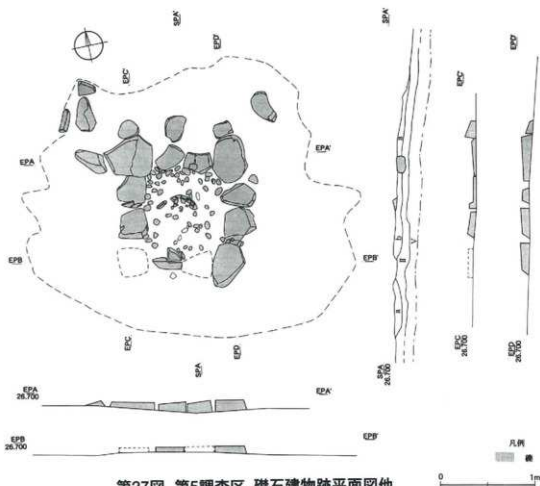
第25図 第5調査区土層堆積図他



第26図 第5調査区 土壌3平面図他

設定した。土層堆積ではⅡ、Ⅲ層がなくⅠ層の下はすぐⅣ層になっている。このⅣ層面に多数の柱穴、溝が確認された。溝1覆土上面からP7が掘りこまれていることから、時期的には上からⅣ-1とⅣ-2の最低2時期あると考えられる。遺物

はⅣ-1層面のP1覆土掘り方から美濃鉄軸碗、唐津碗、青花碗等が一括出土している。いずれも17世紀初頭である。その他Ⅳ層面から青花、硯、銅製品等も出土している。(齊藤邦典)



第27図 第5調査区 礎石建物跡平面図他

表19 調査区土層観察表

表1 調査区 南北セクション調査 (SPA-EPA')			
1-1	10YR4/4	褐色	シルト中に細砂 少量 灰土層
1-3	10YR3/4	暗褐色	シルト
2-1	10YR2/2	黒褐色	シルト C少量 近所中頃以降
2-2	10YR2/2	黒褐色	シルト B-4ブロック層末 近所前期
3-1			灰
3-2	10YR4/4	暗褐色	シルト B-1ブロック少量 中世以降の整地層
3-3	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト B-1ブロック層末 中世以前の整地層
3-4	10YR4/6	黄	シルト B-1ブロック層末 中世以降の整地層
3-5	10YR4/6	黄	シルト 鉄分も多く含む、B-1ブロック少量 中世以前の整地層
3-6	10YR3/4	暗褐色	シルト 黄土も多く含む 中世以降の整地層
3-7	10YR4/4	黄	シルト B-1ブロック少量 中世以前の整地層
3-1	10YR4/4	黄	シルト ソフトローム
3-2	10YR4/6	黄褐色	シルト ソフトローム
4	10YR4/4	黄	シルト 砂質がやや強い 基盤層
4a	10YR3/2	暗褐色	シルト 機土粒多量
4b	10YR3/2	暗褐色	シルト B-1ブロック少量
4c	10YR3/2	暗褐色	シルト B-1ブロック少量
4d	10YR3/4	暗褐色	シルト B-1ブロック少量
調査区	10YR3/3	暗褐色	シルト C少量
調査区	10YR3/2	暗褐色	シルト
調査区	10YR3/2	暗褐色	シルト 機土粒多量
表2 調査区 東西セクション調査 (EPB-EPB')			
1	10YR2/4	暗褐色	シルト 赤土や褐色 粘土少量
2-1	10YR2/2	黒褐色	シルト C少量
2-2	10YR2/2	黒褐色	シルト C少量
2-3	10YR2/2	黒褐色	シルト
2-4	10YR2/2	黒褐色	シルト 機土粒多量
2-5	10YR2/2	黒褐色	シルト C少量
2-6	10YR2/2	黒褐色	シルト中に細砂多量
2-1	10YR2/2	黒褐色	シルト ロームブロック少量
2-2	10YR4/3	にがい黄褐色	シルト B層ブロック少量
4	10YR4/4	褐色	シルト 基盤層
4a	10YR3/2	暗褐色	シルト中に細砂少量 ロームブロック層末
4b	10YR2/2	黒褐色	シルト ロームブロック少量 C少量

表20 調査区土層観察表

I-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	ロームブロック主体 (少量 K ₂ O-炭素)	ゾフト
I-2	10YR3/2	黒褐色	シルト		ゾフト
第4調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA)					
I	10YR3/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂混在 筋作り	ややゾフト
I-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	K ₂ O-炭素少量混在に1-3の上よじ筋あり	ややハード
I-2	10YR3/2	黒褐色	シルト	シルト中に細砂混在	ややハード
II	10YR3/4	黒	シルト	ゾフトローム	ハード
第5調査区 南北セクション南壁 (SPA-SPA)					
I	10YR3/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂、多量、互層状、粗面	ゾフト
I-1	10YR3/2	黒褐色	シルト	シルト中に細砂混在	ややゾフト
I-2	10YR3/2	暗褐色	シルト	互層状多量 筋目の取組跡が見えてきたか	ハード
I-3	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
I-4	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
V	10YR3/4	にがい黄褐色	シルト		ハード
VI	10YR3/4	黒	シルト	ゾフトローム	ハード
VI	10YR3/4	黒	シルト	シルト中に細砂混在	ややゾフト
土層4a	10YR3/2	暗褐色	シルト	Iron-S ₂ O ₃ 粒状の互層状が少量混入	ややゾフト
土層4b	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック混在	ややハード
土層4c	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック混在	ハード
土層4d	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック混在	ややハード
土層4e	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ハード
土層4f	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ハード
土層4g	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ゾフト
土層4h	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ゾフト
土層4i	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ややゾフト
第5調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA)					
I	10YR3/2	暗褐色	シルト	互層状少量	ゾフト
E	10YR3/2	暗褐色	シルト	K ₂ O-炭素混在	ややゾフト
V-1	10YR3/4	暗褐色	シルト		ハード
V-2	10YR3/4	暗褐色	シルト		ややゾフト
VI	10YR3/4	にがい黄褐色	シルト	やや粗面、ゾフトローム	ハード
土層4a	10YR3/2	暗褐色	シルト	Iron-S ₂ O ₃ 粒状の互層状が少量混入	ややゾフト
土層4b	10YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック混在	ハード
土層4c	10YR3/2	暗褐色	シルト	筋目混在、ゾフトロームブロック少量	ハード
土層4d	10YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック混在	ハード
土層4e	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ハード
土層4f	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ハード
土層4g	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ややゾフト
土層4h	10YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量	ややゾフト
第6調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA)					
I-1	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	互層状少量	やや暗
I-2	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ローム塊土層	ハード
E	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	粘土質の筋に少し赤紫に帯びた K ₂ O-炭素	ゾフト
II					
III	10YR3/2	暗褐色	シルト	細砂ブロック	ハード
IV	10YR3/4	黒	シルト	互層状ゾフトローム	ハード
V	10YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトローム	ハード
VI	7.5YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
PA-A	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	ブロック状白色砂粒層 (やや黄褐色混在) 筋り方	ややハード
PA-B	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	ボロボロ、細砂層	やや暗
PA-C	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック層より粗く、筋り方	やや暗
PA-D	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	やや赤紫の筋のものが混在、粗面	筋目 暗めのゾフト
PA-E	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ロームブロック混在 5%~10%、筋り方	やや暗 ややゾフト
PA-F	7.5YR3/4-5/2	暗褐色 粗粒層	シルト	筋り方	
PA-G	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	C ₁ 白色砂粒層2%	暗めのハード
PA-H	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック5% 白色砂粒層3%	暗めのハード
PA-I	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック5%	やや暗
PA-J	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック5%	やや暗
PA-K	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	ゾフトロームブロック少量 筋目ややあり やや粗粒	やや暗 ややハード
PA-L	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	粘土層 (ややカラ)	暗 ややハード
PA-M	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	粘土土層混在 炭化物1% 白色砂粒層約1%混在	ハード
PA-N	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	炭化物約1% 粘土層約1%混在	暗 ややハード
PA-O	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-P	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-Q	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-R	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-S	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-T	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-U	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-V	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-W	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-X	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-Y	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
PA-Z	7.5YR3/2	暗褐色	シルト	シルト	ハード
第7調査区 東西セクション北壁 (SPA-SPA)					
I-1	10YR3/2	暗褐色	シルト		ゾフト
I-2	10YR3/2	暗褐色	シルト		ゾフト
I-3	10YR3/2	暗褐色	シルト	ローム小ブロック少量	ややゾフト
I-4	10YR3/2	暗褐色	シルト		ゾフト
I-5	10YR3/4	暗褐色	シルト		ややゾフト
I-6	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
II-1	10YR3/4	黒	シルト		ハード
II-2	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
II-3	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
V	10YR3/2	暗褐色	シルト		ハード
VI	10YR3/4	黒	シルト	ゾフトローム	ハード
第7調査区 南北セクション北壁 (SPA-SPA)					
I-1	10YR3/2-10YR3/4	にがい黄褐色-黒	シルト		
I-2	10YR3/2-10YR3/4	にがい黄褐色-にがい黄褐色	シルト	白色砂粒層混在	ややハード
II-1	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	粘土質の筋が0.5%混在 (黒*に)	
II-2	10YR3/2	暗褐色	シルト		

表21 調査区土層観察表

	1	10YR5/4	泥	微小白色砂多量	ハード
	2	10YR5/2	泥	シルト 粘土ブロックかき入り、ブロック状 砂粒（土層厚15cm間）	ややハード
	3	10YR5/2	硬地	白色微小砂粒	ハード
	4	10YR5/2	硬地	シルト 中や軽微あり	ややハード
	5	10YR5/4	泥	シルト マットローム	泥 ハード
	6	10YR5/2	硬地	シルト 微小粘土粒1%, Cl% 微土粒2%	やや硬
	7	10YR5/2	泥	Cl% 微土粒2%	やや硬
	8	10YR5/2-10YR5/3	泥	白色微小砂粒 灰白、灰白、微土粒2%	泥 ハード
	9	10YR5/2	硬地	シルト Cl% 粘土粒がほぼ 微土粒2%	泥
	10	10YR5/2	泥	シルト 灰白砂 微土粒	泥
	11	10YR5/2	硬地	シルト 砂状	やや硬
	12	10YR5/2-10YR5/2	硬地+灰地	シルト質ブロック	泥、泥 マット、ハード
	13	10YR5/3+10YR5/5	硬地	シルト質ブロック Cl% Cl 微土粒1%	やや硬 ハード
	14	10YR5/2	硬地	シルト 多量砂（微小粒）	やや硬
	15	10YR5/2	硬地	シルト 多量砂より多量	泥
	16	10YR5/2	硬地	シルト	やや硬
	17	10YR5/2	硬地	シルト 粘土 硬地	ハード
	18	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% 微土粒2%	やや硬
	19	10YR5/3	硬地	シルトブロック層 灰白砂、黄色砂質、微の戻し土	ハード
	20	10YR5/3	泥	シルト ロームブロック 微の戻し土	泥
	21	10YR5/2	硬地	シルト ロームブロック 微の戻し土	ハード
	22	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	やや硬
	23	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	24	10YR5/2-10YR5/2	灰地 硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	やや硬
	25	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	26	10YR5/2-10YR5/2	灰地 硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	27	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	やや硬 ハード
	28	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	29	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	30	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	31	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	32	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	33	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	34	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	35	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	36	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	37	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	38	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	39	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	40	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	41	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	42	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	43	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	44	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	45	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	46	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	47	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	48	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	49	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	50	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	51	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	52	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	53	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	54	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	55	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	56	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	57	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	58	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	59	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	60	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	61	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	62	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	63	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	64	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	65	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	66	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	67	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	68	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	69	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	70	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	71	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	72	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	73	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	74	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	75	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	76	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	77	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	78	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	79	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	80	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	81	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	82	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	83	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	84	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	85	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	86	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	87	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	88	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	89	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	90	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	91	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	92	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	93	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	94	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	95	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	96	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	97	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	98	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	99	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード
	100	10YR5/2	硬地	シルト K ₂ O2% Cl% 微土粒1%	ハード

表22 調査区土層観察表

第14調査区 南北ケタシオン西線 (SPA-SPA')

1-1	T3YH4/6	堆	シルト	中砂層	ソフト	中砂層
1-2	T3YH4/2	灰層	シルト		中砂層	中砂ハード
1-3	T3YH4/2	灰層	シルト	砂層	中砂層	ソフト
1-4	T3YH3/2	砂層	シルト	砂層	中砂層	ソフト
1-5	T3YH3/2	砂層	シルト	砂層	1-5より均一	
1-6	T3YH3/2	砂層	シルト	中砂中に粗砂層あり	堆	ソフト
1-8	10YH2/4	砂層	シルト	ロームブロック少量	中砂ハード	
1-9	10YH2/2	砂層	シルト		中砂ハード	
1-10	T3YH4/2	灰層	シルト		中砂層	中砂ハード
1-11	T3YH4/2	灰層	シルト	均一	ソフト	均一
1-12	T3YH4/2	灰層	シルト	下部にCo-d均一層	堆	ソフト
1-13	T3YH4/2	灰層	シルト	14E均一	堆	ソフト
1-14	T3YH4/2	灰層	シルト		中砂ソフト	
1-15	T3YH3/2	砂層	シルト		中砂層	中砂ハード
1-16	T3YH3/2	砂層	シルト		中砂層	ソフト
1-17	T3YH4/3	堆	シルト	灰化物	中砂層	ソフト
1-18	T3YH4/3	堆	シルト	灰化率1%	堆	ハード
1-19	T3YH4/2	堆	細小白色層1%		堆	ハード
1-20	T3YH4/2	堆	シルト	粗粒小白色層含有	極めてハード	
1-21	T3YH4/2	堆	シルト	粗小白色層含有	中砂層	ハード
1-22	T3YH3/2	砂層	シルト	10YH3/2にC多い薄緑色泥2mm-3mm大2%	中砂層	ハード
1-23	T3YH3/2	砂層	10YH3/2にC多い黄緑シルト含少量1mm-2mm大7%	10YH3/2にシルトの入るところ見られる		よりハード
1-24	T3YH3/2	砂層	10YH3/2にC多い黄緑シルト含少量ソフト		中砂層	ソフト
1-25	T3YH3/2	砂層	10YH3/2にC多い黄緑シルトが多少に含有するがその場所が砂層、全体としてソフト		ソフト	均一
1-26	T3YH3/2	砂層	堆小白色層10YH3/2にシルトアロク含有15%		ハード	均一
1-27	T3YH3/2	砂層	シルト	10YH3/4ロームブロック含有15%	ハード	均一
1-28	T3YH3/2	砂層	シルト	10YH3/2にC多い黄緑シルト10YH3/2シルトの入るところは濃く見まる	ハード	均一
1-29	T3YH3/2	砂層	堆小白色層1%		ソフト	均一
1-30	T3YH3/4	砂層	シルト	10YH3/2にC多い黄緑シルトソフト15%	中砂層	中ソフト
1-31	T3YH4/3	堆	10YH3/2にC多い黄緑シルトソフト含有		ハード	均一
1-32	T3YH4/3	堆	シルト	10YH3/3-10YH3/2にC多い黄緑ブロック含有0-15% 砂性強い	ハード	均一
1-33	T3YH4/2	灰層	10YH3/4-10YH3/4ロームブロック含有0% 10YH3/2にC多い	砂性強い	ソフト	均一
1-34	T3YH3/2	堆	T3YH3/2砂層ソフトロームブロック (稀発している) これが発化して10YH3/2になる		中ソフト	均一
1-35	T3YH3/2	砂層	シルト	17E(均一)	中ソフト	均一
1-36	T3YH3/2	砂層	シルト	堆小白色層1%	中ソフト	均一
1-37	T3YH3/2	堆	シルト		堆	ハード
1-38	T3YH4/3	堆	T3YH3/4にシルトソフトローム15%を主体とした粗粒化層 R0-d<1%混入、濃性		ハード	均一
1-39	T3YH4/3	堆	シルト	T3YH3/4にシルトローム含有15%、堆小白色層1%-5%含有、均性	中砂層	中砂ハード
1-40	T3YH4/4	砂層	シルト	T3YH3/4にシルトソフトローム15%、堆小白色層15mm大	中砂層	中ソフト、均一

第14調査区 南北ケタシオン西線 (SPA-SPA')

1-1	T3YH4/6	堆	シルト	中砂層		極めてソフト	
1-2	T3YH4/2-2YH4/2	灰層	堆	堆層	ロームブロック1%	堆	ソフト
3	10YH2/4	砂層	シルト			堆	ソフト

第14調査区 南北ケタシオン西線 (SPC-SPC')

1-1	T3YH4/4	堆	シルト			堆	ソフト
1-2	T3YH4/2-2YH4/2	灰層	堆	ロームブロック		堆	ソフト
1-3	10YH2/2	C多い泥層	シルト	小片層	C少量	堆	ソフト
1-4	10YH3/2	砂層	シルト	粗砂層とソフト状に割れる		ハード	
1-5	10YH3/2	砂層	シルト			ソフト	
1-6	10YH3/4	砂層	シルト			ハード	
1-7	10YH3/4	砂層	シルト	中に堆の少量		ハード	
1-8	10YH3/2	砂層	シルト	高砂層少量		ハード	
1-9	T3YH3/4	砂層	シルト	C少量		中ソフト	
1-10	T3YH3/2	堆	シルト	高砂ブロック少量		ハード	
1-11	10YH3/2	砂層	シルト	中砂層、粗粒色ブロック少量、厚層粒少量		ハード	
1-12	10YH3/4	堆	シルト	中に粗粒砂層、C少量、高砂粒少量、下部にCo-dアロク		ハード	

第14調査区 南北ケタシオン西線 (SPA-SPA')

1-1	10YH2/2	砂層	シルト	砂層	中砂層	ソフト	
1-2	10YH3/2	砂層	シルト	小片層少量		中ソフト	
1-3	10YH3/2	砂層	シルト			ハード	
1-4	10YH3/2	砂層	シルト	中砂層、ロームブロック少量、厚層粒少量		ハード	
1-5	10YH3/2	砂層	シルト	粗粒層とソフト状に割れる		ハード	
1-6	10YH2/2	砂層	堆	堆上C少量、厚層		ハード	
1-7	10YH3/2	砂層	シルト	ローム小ブロック少量 R-2		ハード	
1-8	10YH3/2	C多い泥層	シルト	ローム小ブロック少量 R-3		ハード	
1-9	10YH4/4	堆	シルト	中砂層		ハード	
1-10	10YH3/4	砂層	シルト	粗粒あり ソフトローム		ハード	
1-11	10YH3/4	砂層	シルト			ソフト	
1-12	10YH3/4	砂層	シルト	ロームブロック少量		ハード	
1-13	10YH3/2	砂層	シルト	C少量		ハード	
1-14	10YH3/2	砂層	堆			中ソフト	
1-15	10YH2/2	砂層	シルト	ローム小ブロック少量		中ソフト	
1-16	10YH3/2	砂層	シルト			ハード	
1-17	10YH3/4	砂層	シルト	ローム粗粒層		ハード	
1-18	10YH3/4	砂層	シルト	ローム粗粒層		ハード	
1-19	10YH3/2	砂層	シルト	ローム粗粒層		ハード	
1-20	10YH3/2	砂層	シルト	ローム粗粒層、上部にC少量		ハード	

表23 遺構土層観察表

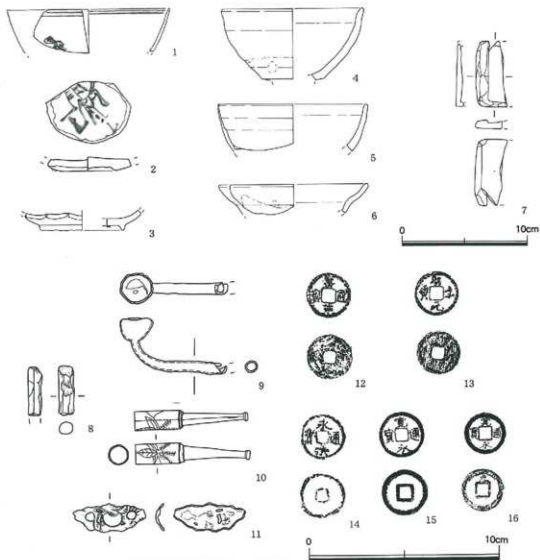
第1調査区 土層1						
a	MFY32/3	黒炭	シルト	1mm~3mm程度の玉砂利が多量に入		ややソフト
b	MFY32/3	黒炭	シルト	3mm~8mm程度の玉砂利が多量に入		ややソフト
c	MFY32/3	暗褐色	シルト	C層		ハード
d	MFY32/3	黒炭	シルト	ソフトロームブロック多量		ハード
e	MFY32/3	灰青褐色	シルト	ソフトロームブロック多量		ハード
f	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフトロームブロック多量, K ₀ d散見		ハード
g	MFY34/4	黒	シルト	ソフトロームブロック多量		ハード
h	MFY32/3	暗褐色	シルト	ソフトロームブロック多量		ややハード
i	MFY32/3	暗褐色	シルト	軟質強い, ソフトロームブロック少量		ハード
j	MFY34/7	灰青褐色	シルト	軟質強い, ソフトロームブロック多量		ややハード
k	MFY32/2	暗褐色	シルト	ソフトロームブロック少量		ハード
l	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフトロームブロック多量		ややハード
m	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフトロームブロック少量		ハード
n	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフトロームブロック多量		ややソフト
o	MFY32/2	暗褐色	シルト	ソフトロームブロック多量, C層		ややソフト
p	MFY32/2	黒炭	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ハード
q	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフトロームブロック少量		ややソフト
r	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
s	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	ソフト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
t	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
u	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
v	MFY32/2	黒炭	シルト	ソフト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
w	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	ソフト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
x	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	軟質強い, ロームブロック少量		ややソフト
第2調査区 土層2						
a	MFY32/3	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややハード
b	MFY34/2	にがい黄褐色	シルト	ロームブロック少量		ハード
c	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややソフト
d	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややハード
e	MFY32/2	黒炭	シルト	ロームブロック少量		ややソフト
f	MFY32/2	黒炭	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
g	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	軟質強い		ややハード
h	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
i	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	軟質強い, ロームブロック少量		ややソフト
第3調査区 土層3						
a	MFY32/3	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量, 焼土粒散見		ややソフト
b	MFY32/3	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, C層, 焼土粒少量		ややハード
c	MFY32/3	暗褐色	シルト	C少量, ロームブロック少量, 焼土粒散見		ややソフト
d	MFY32/2	暗褐色	シルト	C少量, ロームブロック少量, 焼土粒少量		ややソフト
e	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, C少量, ロームブロック少量, 焼土あり, 焼骨少量		ソフト
f	MFY32/2	暗褐色	シルト	C層, 焼土粒散見		ややハード
g	MFY32/2	暗褐色	シルト	C少量, 焼土粒散見		ややハード
h	MFY32/3	暗褐色	シルト	焼土粒散見		ややハード
i	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト	ロームブロック少量		ハード
j	MFY34/2	灰青褐色	シルト	軟土, 焼骨少量		ソフト
k	MFY34/2	灰青褐色	シルト	シルト中に細砂散見, C層		ソフト
l	MFY32/2	暗褐色	シルト	やや軟質, ロームブロック少量		ややソフト
m	MFY32/2	暗褐色	シルト	C層, ロームブロック少量		ややハード
n	MFY32/2	黒炭	シルト	シルト		ややソフト
o	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややソフト
p	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややソフト
q	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
r	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
s	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
t	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, ロームブロック少量		ややソフト
u	MFY32/2	暗褐色	シルト	シルト中に細砂散見, K ₀ d散見		ややソフト
v	MFY32/4	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややハード
w						
x	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量		ややハード
y	MFY32/2	暗褐色	シルト	ロームブロック少量, C少量		ややハード
z	MFY34/4	黒	シルト	ロームブロック少量		ハード
第4調査区 硬質物層						
a	MFY32/2	黒炭	シルト	1mm~3mm程度の玉砂利が多量に入		ややソフト
b	MFY32/2	黒炭	シルト	3mm~8mm程度の玉砂利が多量に入		ややソフト
c	MFY32/2	黒炭	シルト	シルト中に細砂散見		ややソフト
d	MFY34/3	にがい黄褐色	シルト			ハード

表24 出土遺物観察表(陶磁器)

採取番号	種類	形状	釉薬	胎土色調	備考	地区	層位	口径mm	径mm	底径mm
第20021	青瓦	筒	黄褐色	白		15	P1	(130)		
第20022	青瓦	瓦	黄褐色	明るい茶色	表面乾, 二次焼成。	15	II			44
第20023	大甕	丸蓋	緑褐色	明るい茶色	全面に灰物を施す。高台内にトナシの跡あり。	15	P1d			(66)
第20024	瀬戸大甕	天目赤銅	黄赤	明るい茶色	体面下半は黒鉛。	15	P1	(124)		
第20025	漆津	碗	オリーブ灰	明るい茶色		15	P1	(120)		
第20026	漆津	盆	明るいオリーブ灰	明るい茶色		7	II	(118)		

表25 出土遺物観察表(銅製品他)

採取番号	形状	備考	地区	層位	長さmm	厚mm	幅mm	重さg
第20027	鏡		15	II	2.2	7	6.3	
第20028	鏡背	短直式。	1	P1d				
第20029	鏡背	短直式, 縁部を施す。	10	I	60	10	30	6.8
第20030	縁部金具?		7	土層II	27.5	1	34	2.6
第20031	骨角部		7	土層II	30	6	7	



第28図 調査区出土遺物

表26 出土遺物集計表（銅銭）

銭種	時期年	調査区				総計
		1	3	4	7	
志道元宝	996		1		1	
保寿通宝小	1030			1	1	
應永通宝	1056		1	1	2	
應永通宝	1101		1	1	2	
政和通宝	1111		1		1	
洪武通宝	1368		3		3	
永樂通宝	1406			1	1	
寛永通宝(古)	1637	1			1	
寛永通宝(新)	1720		1		1	
無文銭?				2	2	
不明			22	1	23	
総計		1	1	32	34	

表27 出土遺物観察表（銅銭）

調査番号	銭種	枚数	地区	所在地	備考
第28区12	高橋通宝	1066	7	土塚1	
第28区13	聖永通宝	1101	6	土塚3	
第28区14	太常通宝	1400	7	土塚1	
第28区15	寛永通宝(古)	1637	1	II	
第28区16	寛永通宝(新)	1720	3	I	貨幣に「元」の文字。鉄銭。

表28 出土遺物集計表（鉄製品）

種類	枚数	重量g
針釘	28	103.9
鉄錐	3	134.4
平釘	1	23.3
丸釘	3	24.4
針金	3	11.6
小刀	21	630
総計	70	945.6

表29 遺構土壌選別表

区画	埋藏	第1調査区		第5調査区			第7調査区		第10調査区	第14調査区
		検出1	検出2	土層1	土層2	土層3	土層1	土層1	土層1	
植物性遺物	木炭			3.6			1.3			
	米			0.4				2.8		0.2
	タネミ							1.1		
	小豆						0.4	0.6		
	アヒナ							0.4		
	芋粒									0.5
	炭化種子			0.8	1.8	1.4	3.3	3.8		0.7
動物性遺物	魚骨(椎骨-小)							0.7	0.5	0.4
	魚骨(耳骨)							0.2		
	骨・爪						0.4	0.9	0.3	0.2
	不明骨(大)									
	不明骨(小)	0.3	0.5	0.5				17.0	1.7	0.3
	貝			0.4				0.4		
	焼骨						1029.9			
その他	不明遺骸物(粒状)		0.4			0.5		83.6		0.3
	鏡遺残片							9.3		
	磁器石							3.9		
	焼土塊	9.4	8.6				340.7	170.6	23.4	5.5
	スラップ							0.6		
	鉄製品			1.4	0.5	22.4		158.0		
	銅製品					1.8		1.0		
	土器							133.9		
	石器						0.3	30.2		2.7
	燧石							23.5		
	玉砂利							74.9		1.9
	不明炭化物							39.8		
	灰	0.1	0.4		3.4	15.5		196.4	0.3	7.4
	採取土量(kg)	10.2	1.8	640.8	484.7	902.8		1902.3	23.1	130.3

表30 出土遺物集計表(陶磁器等)

風区		原磁	青磁	大甕	唐津	肥前	豊前	近代以降	骨角器	石製品	銅製品	漆文	縄文	石器	不明	合計
1	I				1					2						3
	II		2	1	2											5
	IVa													1		1
	焼土		2		2											4
2	I							3								3
	焼土			1												1
4	I				1			4								5
	焼土															1
7	I				3											3
	II		4	2	3			1					3			12
	土層1	1	1	2					1		1		1	3		10
	焼土		1		1									4	1	7
8	II															1
	IV												4	5		9
10	I						1			1						2
	II				3								1			4
	IVa														1	1
	土層2													3		3
	焼土		1		1											2
11	I					2		2								4
	焼土					2		3		7						17
12	I							1								1
	II															1
14	I			1	2			3								11
	II			3		4									1	7
	焼1		1													1
	焼2											47	16			62
15	II		1	3	1	1			3	1	1		3			13
	IV			1									1			2
	IVa		4	5	20											29
	焼1														1	1
16	I														1	1
	焼1														1	1
合計		1	20	17	27	10	1	23	1	3	12	1	37	51	1	235

2. 出土遺物 今回の調査では合計301点の遺物が出土している。そのうち陶磁器は106点、土器は58点、石器は51点、銅銭37点である。

陶磁器は岬の地区で出土している。岬の先端付近の第1調査区や第7調査区といった館社周囲や第14調査区や第15調査区付近で出土する傾向があるようである。第7調査区土壌1で出土した青磁の椀が唯一の15世紀台の遺物であるがその他は16世紀から17世紀初頭にかけてのものである。

器種別に見ると碗皿が中心であるが第1、6、

15調査区では天目茶碗が出土している。過去には茶臼が表面採取されている。また第15調査区では甕が出土している。

銅銭は大半が第5調査区の土壌墓から出土している。第5調査区では至道通宝(初鑄年995年)から永樂通宝(初鑄年1408年)まで見られるが、寛永通宝(初鑄年1637年)は見られない。不明としたものには割れたものなどがあるが、無文銭と考えるもの2枚を含む。(三浦英俊)

III 小 括

ここでは第5調査区で検出した土葬墓、火葬墓、礎石建物跡について考察したい。

土葬墓 今回の調査では2基の土葬墓を検出した。いずれの土葬墓もやや北東寄りに長軸を持ち、似通った規模である。土壌1の時期については覆土から瀬戸・大窯の皿などが出土しているところから16世紀前葉以後であると考えられる。土壌2についても時期を積極的に決定する根拠に乏しいが、Ko-dを被った礎石建物跡に伴う砂利敷きの直下であり、砂利敷きと土壌2の間に堆積土がほとんど見られないことから、土壌1と大きく時期を違えることはないと思う。

土壌2からは薄い板状の木片が出土しており、また鉄釘の分布状況からいっても木棺が取められていたことは間違いないであろう。一方土壌1については土壌2とは対照的に木片や鉄釘などの木棺の存在を裏付ける確証はない。鉄釘を使わない木棺の使用も考えられなくはないが、直に埋葬した可能性も考えられるだろう。

また土壌2の直上に礎石建物に伴う砂利敷きが認められることから埋葬された当初から墳丘を作っていなかったと考えられる。もしも埋葬した当初は墳丘を作っていたならば礎石建物を建てる際に墳丘を完全に削平したことになり、両者の時間差があまりないことからいっても墳墓を破壊するという行為は考えがたいところである。また墓標の痕跡も認められず、直接墓の位置を示すものは無いといえる。土壌1についても墳丘や墓標を立てた形跡が見られず、土壌2と同様に墓の位置を示していなかったと考えられる。

火葬墓 土壌3は火葬墓である。副葬品と見られる銅銭や人骨片を検出したことから火葬墓とし

たが検出面から炭化物や焼土、焼けてもろくなった礫が認められ、火葬墓である前に火葬施設であるといえよう。土壌内の礫は墓標の役割を果たすというよりは火の廻りをよくするためのものである。

炭化物の堆積層中から炭化した木片が付着した鉄釘が出土しており被葬者は木棺に取められた状態で火葬されたと考えられる。火葬した後に改めて取骨したかどうかは判然としない。

土壌3について問題になるのはその構造である。土壌1、2よりもやや大きめの土壌を掘っているが、半分ほど埋め戻している。このときにはおそらく何も埋葬していないと考えられる。すなわち火葬跡より下の層では人骨をはじめとして木片、鉄釘や銅銭などの埋葬の痕跡と見られる確証は得られず、また土壌3や他の土壌の遺物の出土状況から考えても土壌3下層にあった遺物だけが失われたとは考えにくい。何も埋葬せずに埋め戻したうえで礫を並べるなど火葬のための準備をし、火葬したという状況が考えられる。

追葬、あるいは後世のものが偶然重なった可能性もないではないがそうした切り合い関係は平面においても断面においても確認することはできなかった。

また土壌3の底面付近で検出したKo-dも解釈しづらいところである。もしも下層に木棺などによる埋葬の痕跡が認められれば埋葬の後に降下したKo-dが木棺が土圧によって潰された際に一緒に落ち込んだということも考えられるが、前述した通り先に埋葬がなされていたとは考えにくい。とすれば墓標を掘り上げて何も手を加えないうちに丁度よく駒ヶ岳の爆發が起こって火山灰が降っ

てきたことになるのであろうか。

いずれにしても土壙3において火葬が行われたのはKo-d降下後であることは確実であり、他の2つの土葬墓や礎石建物跡よりも後のことである。

結語 今回の調査で検出した土壙墓群は古文書などの文献資料には全く現れておらず、またもともと背の高い雑草が生い茂っていた当地を調査区を設定するために草刈りを実施した後でも墳丘のような地形の変化は見られず、発掘を始めて初めて土壙墓群の存在が明らかになるという、全く予想外の成果であった。被葬者がどのような人物であるかは将来の調査に期待したいところであるが現在の石崎集落近辺に暮らすなど、何らかの関わりを持つ人物であることは間違いないところであろう。

土葬墓と火葬墓の間で比較的長期間の時期差が考えられることも見逃せない。前述した通り墳丘や墓標といった個々の墓の位置を示すものがないにもかかわらず、長期にわたって墓地として認

知されていたことになる。恐らくは墓標の役割を果たしていたのが礎石の上に建っていたであろう建造物であろう。この建造物が何であるかは更なる調査と検討が必要であり、ここで断定することはできないが平安時代末期に成立したとされる「鉄鬼草子」のなかの墓地の様子を表した場面では墳丘の上などに卒塔婆や五輪塔を設置しているものがあり、当地にも同様の施設があったのであろうか。なお今年度調査した夷王山墳墓群でも同様の礎石を検出しており、報告書を参照されたい。

分布調査という調査目的のため調査範囲をあまり拡大せず3基のみの検出となったが、恐らく墓地としての広がりはまだであると考える。今回の調査で検出した墓地と15世紀半ばに生きた厚谷将監重政や比石館跡といかほどの関係があるかは不明なところであるが、今後本格的な調査が行われればさらにはっきりとした事が判明するだろう。

(三浦英俊)

IV まとめ

第14区(第24回、附図2)にて空壕、柱穴、溝、土壙が確認された。調査により2時期以上あることが確認された。基本的には、P6がⅢ層面、空壕覆土上面からの掘りこみであり、空壕より北側の調査内の大多数の柱穴がⅢ層面である。空壕は溝1よりも古い時期のⅣ、Ⅴ層面を掘りこみとしている。空壕周辺では、Ⅱ、Ⅲ層が全く堆積しておらず、削平されている。Ⅱ層がないことからⅡ層以後の削平と考えられる。従って空壕と同様Ⅴ層面から掘りこんでいる同時期のP58、10も同様に削平を受けている。これらのピットは空壕と同時期であり、これを渡る橋のような施設と考えられる。空壕も西側の幅が狭く、上端部分が欠失し浅くなっている。これも近現代の削平あるいは崩落現象かと考えられる。また溝1覆土の下にはP15が掘りこまれており、また溝1覆土上面から掘りこまれている柱穴はない。このことからこの地区では溝1が一番新しい。しかし覆土内にKo-d均一層があることからKo-d以前の時期であり、覆土の遺物から16世紀末～17世紀初頭と思われる。この溝については布掘のように内部に小ピットを持たないため、その性格は不明である。一方第15区においても溝が検出された。溝は調査区北端で

あり、電柱等の障害物に阻まれ、幅すら明確に確認出来なかったが、推定幅1.8m、深さ60cmほどあり、底部はやや幅を持ち小型の空壕のようである。やはり14区と同様この調査区でも最低2時期確認されているが、地層であるⅢ層は堆積しておらず、いずれもⅣ層中世面からの掘りこみの柱穴群である。上面のⅣ層-1のP1から16世紀末～17世紀初頭の遺物群が出土しており、この面は16世紀末～17世紀初頭である。またⅣ層-2からの遺物は若干古くなるが、16世紀内に納まるものであり、15世紀まで上がらない。さらに中央部の道を挟んだ第16調査区において空壕の延長部を探したが、削平あるいは崩落によるものか不明であるが、土が殆ど削平されており、確認出来なかった。一方第8区においても2基の溝が確認されたが、いずれも南北方向に走っており第14区とはほぼ直交する形となるが、中間部が未調査のためその関係は明瞭ではない。第7調査区において土壙、柱穴群が検出された。土壙は大型の方形であり、覆土から永楽通宝等の銭3点、青磁、煙管、玉5点が出土した。フローテーション(表23)により玉のほか覆土から小札、小柄、和釘の小破片が多数、不明溶解物、炭化物、焼土塊が多数に検出されてい

る。表23によると植物性や動物性の遺物に比べ、鉄製品や焼土塊、磁着しないが、金属かガラス質のものが高温により溶けた状態のもので、表面が気泡状の穴を有している不明溶解物が圧倒的に多い。またこの土壌Ⅰは四隅に柱が打ちこまれており、上部構造の存在を窺わせる。覆土内からの遺物出土傾向から食物残渣廃棄等の土壌ではないこと。玉、陶磁器等も検出されているが、小破片であり、銭が3枚と非常に少ないことから墓の可能性は低いように思われる。むしろ150gを超える小札や和釘、小柄の鉄製品の破片、炭化物、焼土塊等の多量の検出、また鍛造剥片も見られることから、鍛冶関係の遺構と考えたほうが妥当ではないだろうか。尚覆土は下部がロームブロックが入り、やや埋め戻しているようである。尚下部底面近くの覆土にKo-dが入り、覆土より上の層にII層が自然堆積することからKo-d以前の遺構である。また覆土上面から柱穴が掘りこまれており、この地区ではやはり第15区と同様2回の時期が考えられ、この土壌は古い方の時期と考えられる。この土壌に類似したものとしては青森県浪岡城跡の発掘調査にて検出されているSX31があるが、ここでは墓塚としている。これらのことから11区、14区、15区と同様2回の時期が確認されており、この比石館跡では中世面が少なくとも2回あったと考えられる。古い時期は遺物から16世紀代であり、もう一つのやや新しい時期は遺構から出土する遺物や遺構外出土遺物から16世紀末～17世紀初頭、Ko-d以前の時代とすることができる。一方文献では「…長祿元年五月十四日夷狄蜂起來而攻撃志濃里之館小林太郎左衛門尉良景…其後攻落…比石之館主島山之末孫厚谷右近將監重政所々重鎮…」(新羅之記録)とあり15世紀代に比石館が機能しているとしている。またその後の記録としては

「天文15 丙午 奉 下国安東尋季、出羽国河北郡深浦の森山館主飛騨季定の反乱鎮圧のため本拠地の同郡檜山より発向。3月15日森山館陥落、季定自尽。時に嶋崎季広は尋季により厚谷季政らの士卒84人を従えて海路小泊に渡り3月5日森山到着、搦手の大将として森山館の攻撃に参加」(新北海道史年表)。とあり、その後福山醫府、新北海道史年表には「寛永十四年の福山火災の折寺社町奉行酒井伊兵衛広種とともに厚谷四郎兵衛貞政が松前公広を救った」との意味の記述があり、厚谷家記によると前の代の季貞の時に松前藩家臣となっていたとの意味の記述もある。しかし初代重政からこの間の2、3代目がどこに住んでいたか不明である。長祿元年(1456)からこの寛永14年(1637)の間の時期であり、遺物からみるとこの比石館からこの時期の遺物が出土しており、ここに住んでいた可能性がある。この地区をすべて調査したわけではないが、基本的に15世紀代の遺物が1点も出土しないことから、コシヤミンの戦い当時の比石館はこの場所ではなく別の場所であった可能性も考えられる(附図2)。現石崎川は東の下方を流れているが、宇石崎地区は石崎川の扇状地であり、この上に市街地が発達している。従って、15世紀末の時代、川筋形態も蛇行しながら流れていたと考えられ、川の位置がこの石崎市街地一帯のどこかであったと考えられる。となると、記録にみえる比石館は別の場所でも差し支えなく、東側の舌状に緩斜面をもつ石崎八幡宮の裏山が、あるいは宇石崎地区市街地の入り口の海岸に張り出した舌状の平坦部を持つ丘陵の可能性もある。2～3年後、石崎市街地の分布調査に入る予定であるが、その際この2つの丘陵にもトレンチを入れ、その確認を行いたい。

(齊藤邦典)

字向浜地区分布調査

I. 調査の概要

1. 調査の経緯

上ノ国町字向浜地区は上ノ国町の北部を流れる天ノ川の左岸に形成された砂丘上に位置する戸数30軒ほどの集落である。

対岸には平成9年度に詳細分布調査が行われた上ノ国町字上ノ国地区を望む。さらに南西には上ノ国勝山館跡、南には上ノ国花沢館跡が見える。北東には洲崎館跡と推される丘陵地帯が連なっている。当地区のほぼ中央に位置する川裾神社は天保2年(1831年)創立と伝えられ、伊邪耶岐(いざなぎ)命を祀る。

当地区を東西に走る町道は松前から江差へ抜ける福山街道の名残であり、天の川を隔てた字上ノ国との間には少なくとも江戸時代には渡し舟が通されていたことが記録に残っている。この渡し舟は戦前頃まで続き、両地区の行き来に利用されていた。

また当集落の南東に隣接する空地は河川改修された旧目名川の跡地である。太平洋戦争直後に撮影された航空写真には新旧2本の目名川が写っており、旧目名川は自然に消滅していったようである。

当地区の成立についてははっきりしないが、大正年間の記録には戸数35軒を数える集落であった。また明治時代には天ノ川上流の字湯ノ岱地区で切り出され、流送してきた材木を貯めておく土場という施設があり、土場に関わる柚夫たちと柚夫を相手に商売をする人たちにぎわっていたという。

当地区では表面採集によって明治時代の陶磁器を得ることができるが、本格的な調査はなされていなかった。また当地区は洲崎館跡と隣接しているため洲崎館との関連性も考えられる。そこでこうした状況をふまえて詳細道跡分布調査をおこなひ、字向浜地区の成り立ちについて探ることとなった。

1. 調査の方法

字向浜地区において地権者の理解と同意が得られた地点について調査をおこなった。地区設定は1~2m×4~5m程度のトレンチ、あるいは一辺1~2m程度のテストピットを基本とし、状況に応じて拡大した。調査区名は調査に着手した順に第1調査区、第2調査区...とした。

調査は遺構を確認しつつ可能なかぎり掘り下げた。遺物はI層については一括で取り上げ、II層以下については層位ごとに平板によって取り上げた。遺構覆土についてはできるだけ全量採取し、後日フローティングにより選別して計量した。

2. 調査の経過

平成12年5月10日 調査開始 第1調査区、第2調査区で木製品を検出する。

平成12年5月16日 第4調査区において溝を検出。

平成12年5月29日 第9調査区に移る。以後第9~13調査区において多量の陶磁器を検出。

平成12年7月6日 調査終了

3. 基本層序

第1~8調査区と第9~第13調査区では層位の形成過程が全く異なっており、一概に述べることはできないがおおむね次の通りである。

I層 近代以降の整地層、あるいは堆積土層。

II層 近世以降の堆積土層。第1~8調査区では当該時期に古い目名川が流れていたことがわかっており、さらに細分される。

・II 1層 江戸時代末期、明治時代の堆積土層。

・II 2層 江戸時代の堆積土層。駒ヶ岳D火山灰(Ko-d)を含む層である。

・II 3層 江戸時代初期までの堆積層。目名川の流路の変化で、粘土層と砂層が交互に重なっている。

III層 2.5Y3/3オリーブ褐色~10YR4/3にぶい黄褐色 細砂

IV層 砂層 (三浦英俊)

II 調査

第1調査区、第6調査区(第29図)旧河川跡と考えられる草地に設定した調査区である。本地区を含む旧河川跡で行った調査では湧水が豊しく、遺物の有無を確認しきれなかった箇所がある。

本地区の土層の状態は自然堆積した粘土質であり、旧河川の流れてに伴って堆積したものと考えられる。II層の中ほどにKo-dが少量ながら確認でき、第1調査区ではKo-dよりも下層から木製品、自然木が出土したが陶磁器など時代の特定ができる遺物は出土していない。

第4調査区、第5調査区(第29図)旧河川跡と考えられる草地に設定した調査区である。第1調査区、第6調査区と同じく土層の状態は自然に堆積した粘土質である。ただし、II3層以下は砂層と粘土層が交互に重なって堆積しており、旧河川の水の流れの状態の差が砂を堆積させるか粘土を堆積させるかの違いにつながったと考えられる。II3層からは杭や板材などの木製品が出土したが未成品、あるいは木屑と考えられるものも多く含まれている。

(1) 溝1、溝2(第29図) Ko-dを含んでいるII2層の下で溝跡を2本検出した。溝1、溝2ともに幅70~80cmで、深さは約20cmである。溝1は第4調査区、第5調査区にまたがって検出している。溝2がつくられて以降は砂層が形成されていないので旧河川の流れに何らかの影響を及ぼす施設の一部と考えられる。遺物は板状の木製品などが出土している。(三浦英俊)

第9調査区(第30図、附図1)

国道228号線から町道がほぼ西方向に砂館神社の前を通りすぎて、字向浜地区を縦断し、さらには現天の川河口付近まで伸びている。この町道を洲崎館跡から天の川河口に向かって約900m行った地点の向浜の集落のほぼ中央部で、町道に沿って海側に6m×6mの調査区を設定した。III層面から柱穴、小ピット、炭化物が薄く分布する箇所を検出した。時期的には近世末期である。

堆積土層はII、III層ともシルトが若干混じった細砂であるがIV層はシルトを含まない粗砂であり、粒子が大きく、川砂様である。遺物は近世瀬戸、美濃のほか肥前、唐津

第10、11区(第30図、附図1)

第9調査区に隣接して調査区を設定した。第10調査区土層堆積図によると、II層面とIII層面2時期からの柱穴の掘りこみあり。11区では主にII層からの掘りこみが多い。柱穴、土壌、炭化物範囲が検出された。遺物は9区と同様の傾向を示す。

第12調査区(第30図、附図1)

10区に隣接して調査区を設定した。II層から60基の柱穴、10基の土壌、その他小ピットが検出された。土壌、柱穴は調査区内北側に集中する。土層堆積は土壌、柱穴ともII層掘りこみの近代初頭からであり、以下の層からの掘りこみは見当たらない。柱穴、土壌がかなり錯綜しており、数度の建物の建て替えが行われている。尚土層堆積で見る限り土層はII層面、柱穴はII-2やII-4層面からの掘りこみであり、若干の時期差がある。しかし平面図では土壌が柱穴に切られているものもあり、土壌と柱穴がセット関係になる可能性が高い。II層はシルトが若干混じった細砂であり、非常に遺物層面が濃い状態である。またSPA-A'のII-4層やSPB-B'のII-6層では炭化物の多量堆積がある。このような層的な炭化物の堆積は昭和40年代以前にも火災があったことを物語っている。尚図示していないが、SPA-A'間には幅30cm程のトレンチを土層断面に並行して入れており、P60~P80までの平面は図示していない。

土壌1(第31図、30図)

約90cm×90cm、深さ30cmのほぼ方形の土壌である。底部には残存厚さ2~4cmほどの板材が同一方向にびっしりと敷き詰められている。覆土は上面にロームブロックが入る層もあるが、全体に小玉砂利が入りやや粗の状態である。また図にあるように覆土内から90点余の多量の木質付着の丸釘が検出されている。底部の木質から若干レベル差の有る状態で、覆土中央部に木質が存在することから、この土壌は釘の打たれた箱状のものが埋まった状態と考えられるが、土壌覆土に掘り方覆土がないため埋め込み状とも考えられる。

土壌8(第31図、30図)

覆土上面に20cm大の礫で覆われている土壌である。155cm×90cm、深さ20cmの不整形円形。中央部

が80cmの幅で底部が15cmほど深くなる。覆土にはロームブロックがほぼ全体に含有し、ハードなことから埋め戻しの状況である。

土壌3、4、5（第31図、30図）

土壌3は75cm×70cm、深さ33cm、土壌4は95cm×80cm、深さ20cmの不整形円形であり、覆土は土壌3は粗砂主体、土壌4はシルト主体に粗砂が若干である。いずれも底部には小玉砂利が入る。自然埋没である。

土壌9（第31図、30図）

97cm×80cm、覆土上面は削平されたが、推定深さ20cm程で浅い。自然埋没である。

第13調査区（第32図、30図）

第12調査区と第9調査区との間に位置する。4.7m×7.5mの調査区。7基の土壌、49基の柱穴、炭化物集積範囲が検出された。Ⅱ層とⅢ層の時期があり、Ⅱ層に多く分布する。土層堆積は土壌13、P1、P6等Ⅲ層面からの掘りこみが多い。Ⅲ層面では土壌が中心であり、Ⅱ層面では柱穴と土壌となるが、土壌はほとんど柱穴に切られている。この場所で、最初は土壌を作る空間で、のちには建物空間へと変化していったことがわかる。遺物は近世肥前、唐津のほか近代以降が他地区と同様多い。

土壌1（第32図、第30図）

70cm×80cmの不整形円形。深さ12cm程と浅い。フローテーションにより、鉄製品が134gと多量に出土している。

土壌5、8（第32図、第30図）

土壌5は75cm×65cm、深さ25cm。土壌8は70cm×65cm、深さ20cmと浅い。

土壌3（第33図、30図）

70cm×94cmの不整形円形、深さ48cm。壁面が急傾斜で立ち上がる。下端は約40cmのややゆがんだ方形をなす。四隅には直径6cm程の杭が打ち込まれ、その外側には高さ15～20cmの板材が横に立てられる。3面にしかこれらの板材は残存していないが、本来は4面にあったと思われる。フローテーションの結果、38.7gの鉄製品が検出され、その殆どが小型の釘であった。

土壌2（第34図、30図）

80cm×80cmのほぼ円形。深さは32cm。壁面の立ち上がりは急である。P36と重複しており、P36は土壌2が自然埋没していく過程で掘りこまれている。覆土は上部1～4はシルト主体であるが、下部では粗砂となる。

土壌7（第34図、30図）

70×75cmの不整形円形、深さ12cmと浅い。壁面の立ち上がりはやや急である。覆土は細砂～粗砂で自然埋没である。

土壌6、14（第34図、30図）

土壌6は80cm×67cmの不整形円形。深さは24cmで、壁面の立ち上がりは緩やかである。土壌14は深さ20cm、壁面の立ち上がりは急である。2基とも自然埋没である。

土壌12（第34図、30図）

50cm×58cmの不整形円形。深さ15cmで壁面の立ち上がりは緩やかである。

土壌10、11（第34図、30図）

土壌10は66cm×66cmの円形。深さ17cm程で浅いが、壁面の立ち上がりは緩やかである。土壌11は38cm×48cm、深さは8cmと浅い。

土壌9（第33図、30図）

77cm×53cmの不整形形。深さ21cm。第13調査区での土壌は13基ほど検出しているが、フローテーション等の結果によると、殆どの土壌で種子等は微量であり、主に鉄製品、陶磁器片が多量に検出された。

第14調査区（第29図、30図）

川裾神社境内。第9～13調査区から200m程洲崎館跡方向へ町道を戻った海側に川裾神社がある。調査区はこの神社の境内の町道よりの箇所である。この神社北西側の海浜に面した神社裏側は小高い砂丘となっており、季節風の当たらない地域である。遺構は確認できなかったが、中世白磁1点が出土した。土層堆積は、I層の地積は厚いが、所謂、洲崎館跡や比石館跡、勝山館跡に見られるII層があり、Ko-dの自然堆積が見られた。第9～13調査区とは違う土層堆積であった。

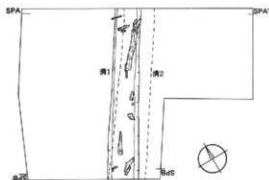
（齊藤邦典）



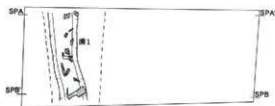
第1調査区



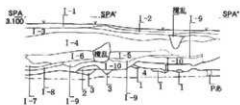
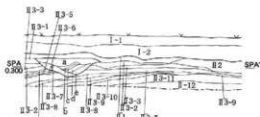
第6調査区



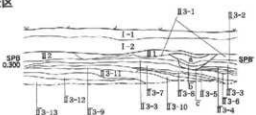
第4調査区



第5調査区



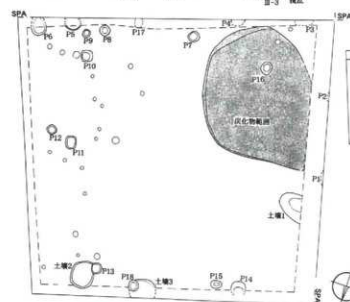
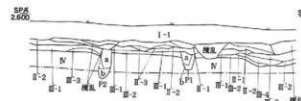
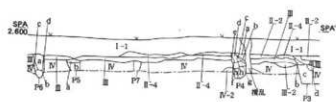
第14調査区



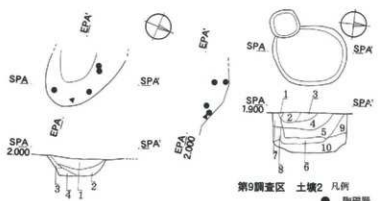
凡例
木製品

第29図 調査区土層堆積図他



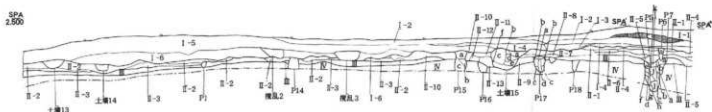


第9調査区 第III層遺構配置図

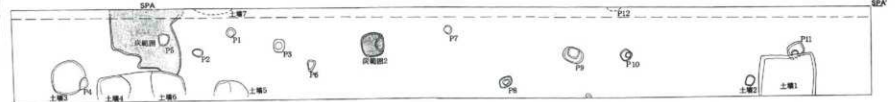
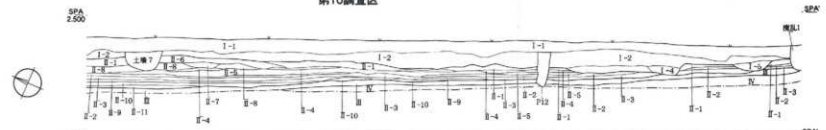


第9調査区 土壇1

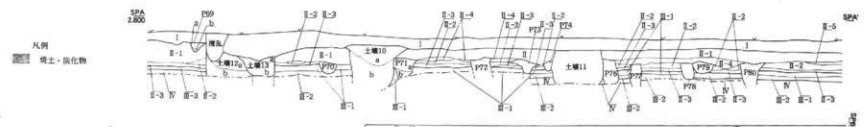
凡例
 ● 陶器
 ▲ 耐製品
 0 50cm



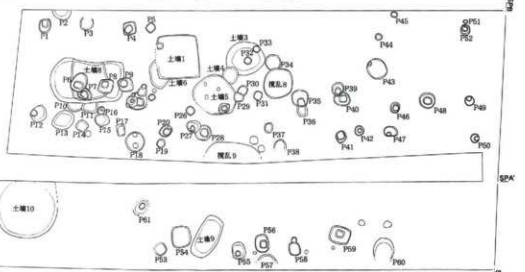
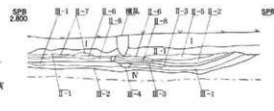
第10調査区



第11調査区 第II層遺構配置図



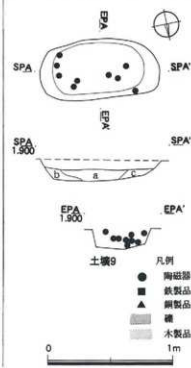
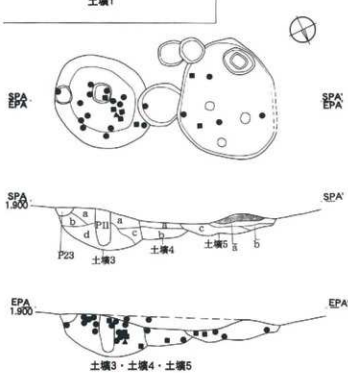
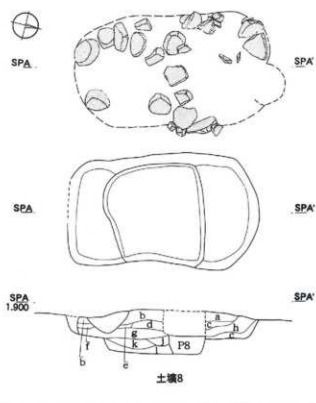
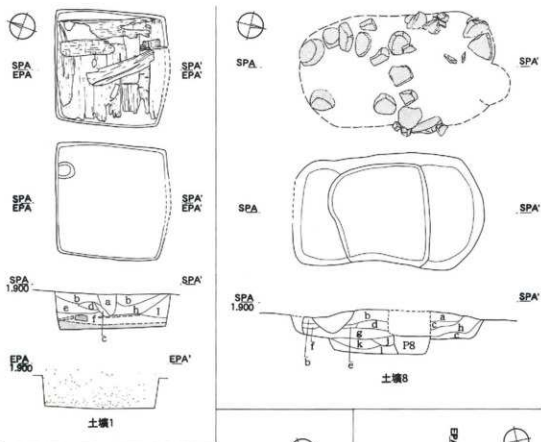
凡例
 固土 灰化土



第12調査区 第II層遺構配置図

第30図 調査区土層堆積図他

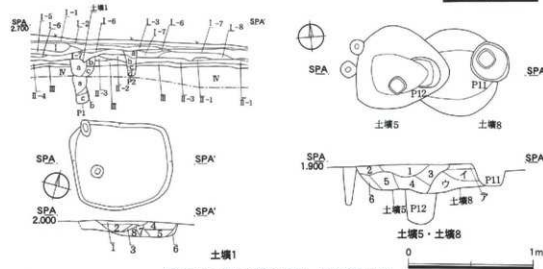
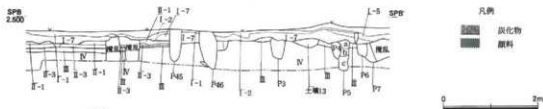
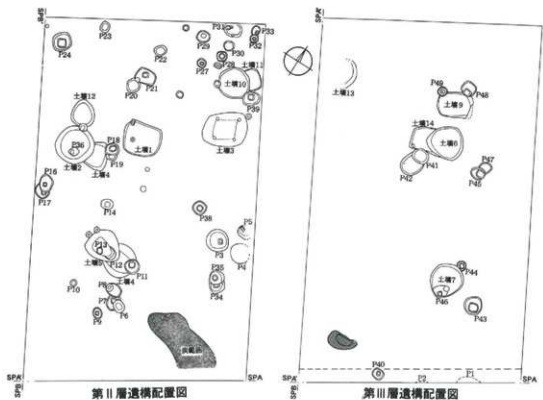
0 2m



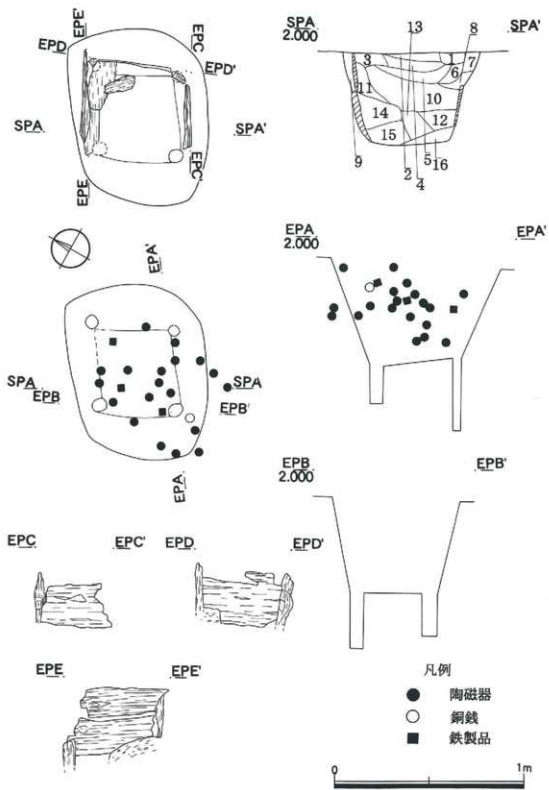
- 凡例
- 陶磁器
 - 鉄製品
 - ▲ 銅製品
 - 礎
 - 木製品



第31図 第12調査区遺構平面図他



第32図 第13調査区土層堆積図他



第33圖 第13調查區 土壤3平面図他

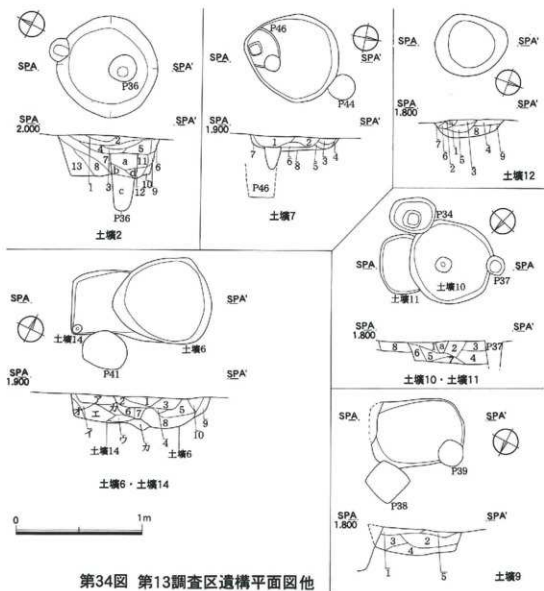


表31 調査区土層観察表

第1調査区 南北セクション断面 (SPA-SPA')

1-1	10YR8/4	雉	シムト		中骨ハープ
1-2	2.5Y4/3	オリーブ層	シムト	鉄分中多い、鉄質多い	中骨ハープ
2-1	2.5Y4/3	畑放棄	粘土	K ₂ O減少	中骨ソフツ
2-2	2.5Y4/2	畑放棄	粘土	水方、自然赤を多く含む	ソフツ
2-3	2.5Y4/1	赤沢	細砂		ソフツ
2	2Y4/1	区	細砂		ソフツ

第4調査区 東西セクション断面 (SPA-SPA')

1-1	10YR8/4	雉	シムト		中骨ハープ
1-2	2.5Y4/3	オリーブ層	シムト	鉄分多い、鉄質多い	中骨ハープ
2-1	2.5Y4/3	畑放棄	シムト	やや粘土質、K ₂ O減少	中骨ハープ
2-2	2.5Y4/2	畑放棄	粘土	やや砂質	中骨ソフツ
2-3	6Y3/2	オリーブ層	粘土		ソフツ
2-4	2.5Y3/2	畑放棄	細砂	2.5Y3/2層オリーブ層細砂90%	ソフツ
2-4	5Y4/1	区	細砂		ややソフツ
2-5	2Y4/1	区	細砂		中骨ソフツ
2-6	5Y4/2	区	細砂		ソフツ
2-7	2.5Y3/2	赤土	粘土		ソフツ
2-8	2Y4/1	区	細砂		ソフツ
2-9	2.5Y3/2	赤土	粘土		ソフツ
2	2Y4/1	区	細砂		ソフツ

表32 調査区土層観察表

観1-a	19YR5/2	赤褐色	粘土	ソフト
観1-b	2.5Y3/1	赤褐色	粘土	ソフト
観1-c	2.5Y4/1	暗赤褐色	粘土中に細砂少+	ソフト
第4調査区 東側カクシオン地帯 (SPA-SPA')				
1-1	10YR6/4	黄	シルト	ややハード
1-2	1.5Y4/1	オレンジ	シルト 粘質微い、黄化多い	ややハード
2-2	1.5Y4/2	暗赤褐色	シルト やや粘質あり、K ₂ O ₂ 程少+	ややハード
2-3	2.5Y4/2	暗赤褐色	粘土 やや粘質	ややソフト
2-4	5Y3/2	オレンジ	粘土	ソフト
2-5	1.5Y3/1	暗赤褐色	シルト 粘質 \geq 5%以上、粘質 \geq 5%以上	ソフト
2-6	5Y4/1	黄	細砂	ややソフト
2-6	5Y4/2	黄	細砂	ソフト
2-7	2.5Y3/2	赤褐色	粘土	ソフト
2-8	5Y4/1	黄	細砂	ソフト
2-9	1.5Y4/1	赤褐色	粘土	ソフト
2-10	5Y4/1	黄	細砂	ソフト
2-11	5Y4/1	黄	細砂	ソフト
2-12	5Y3/2	赤褐色	粘土	ソフト
2-13	1.5Y4/2	暗赤褐色	シルト	ややハード
観1-a	10YR5/2	赤褐色	粘土	ソフト
観1-b	2.5Y3/2	赤褐色	粘土	ソフト
観1-c	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土	ソフト
観1-d	1.5Y4/2	暗赤褐色	粘土中に細砂少+	ソフト
第5調査区 東側カクシオン地帯 (SPA-SPA')				
1-1	10YR6/8	こげい黄褐色	シルト 粘分少なめの砂に含む	ハード
1-2	1.5Y4/2	暗赤褐色	シルト やや粘質あり、粘分多く含む	ハード
2-2	1.5Y4/1	暗赤褐色	シルト 粘質微い	ハード
2-3	1.5Y3/1	赤褐色	シルト 粘質微い、K ₂ O ₂ 程少+	ハード
2-4	1.5Y3/2	赤褐色	細砂+シルト (50:50)	ややハード
2-5	1.5Y3/1	赤褐色	細砂	ややソフト
2-6	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (70:30) 粘土と細砂が層状に異なる	ややソフト
2-7	1.5Y4/1	暗赤褐色	細砂	ソフト
2-8	1.5Y3/1	赤褐色	粘土	ソフト
2-9	1.5Y4/1	暗赤褐色	シルト	ソフト
2-10	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50) 粘土と細砂が層状に異なる	ややソフト
2-11	5Y4/1	黄	細砂	ソフト
2-12	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50) 細砂と粘土が層状に異なる	ややソフト
2-13	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (50:50) 細砂と粘土が層状に異なる	ソフト
2-14	1.5Y3/2	暗赤褐色	細砂、粘質微い	ソフト
観1-a	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (50:50)	ソフト
観1-b	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土	ソフト
観1-c	10YR5/2	赤褐色	粘土	ソフト
観1-d	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土	ソフト
観1-e	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (50:50)	ソフト
観1-f	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50)	ソフト
第6調査区 東側カクシオン地帯 (SPA-SPA')				
1-1	10YR6/8	こげい黄褐色	シルト 粘分少なめの砂に含む	ハード
1-2	1.5Y4/2	暗赤褐色	シルト やや粘質あり、粘分多く含む	ハード
2-2	1.5Y4/1	暗赤褐色	シルト 粘質微い	ハード
2-3	1.5Y3/1	赤褐色	シルト 粘質微い、K ₂ O ₂ 程少+	ハード
2-4	1.5Y3/2	暗赤褐色	細砂+シルト (50:50)	ややハード
2-5	1.5Y3/1	赤褐色	細砂	ややソフト
2-6	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (70:30) 粘土と細砂が層状に異なる	ややソフト
2-7	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土	ソフト
2-8	1.5Y3/1	赤褐色	シルト	ソフト
2-9	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50) 粘土と細砂が層状に異なる	ややソフト
2-10	5Y4/1	黄	細砂	ソフト
2-11	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50)	ややソフト
2-12	1.5Y3/2	暗赤褐色	細砂+粘土 (70:30) 細砂と粘土が層状に異なる	ややハード
2-13	1.5Y3/1	赤褐色	粘土+細砂 (50:50) 細砂と粘土が層状に異なる	ソフト
2-14	1.5Y3/2	暗赤褐色	細砂、粘質微い	ソフト
観1-a	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土	ソフト
観1-b	10YR5/2	赤褐色	粘土	ソフト
観1-c	1.5Y3/2	暗赤褐色	粘土+細砂 (50:50)	ソフト
第7調査区 東側カクシオン地帯 (SPA-SPA')				
1-1	10YR6/8	黄	シルト 黄褐色	ハード
1-2	1.5Y3/2	暗赤褐色	シルト 粘分多量まで入る	ハード
1-3	1.5Y3/1	赤褐色	シルト 粘分多量まで入る、粘質微	ハード
1-4	1.5Y3/2	暗赤褐色	シルト+粘 細砂、粘質微	ハード
1-5				
1-6	1.5Y3/1	暗赤褐色	粘土質 黄化微、粘性、粘性あり	ソフト
1-7	1.5Y3/1	暗赤褐色	粘土、粘質微い、黄分少+	ソフト
2-1	10YR6/4	黄	粘土、粘分多量まで入る、粘質微	ハード
2-2	10YR5/2	赤褐色	粘土 黄褐色、粘質 \geq 4%	ハード
2-3	10YR5/2	赤褐色	粘土	ハード
2-4	10YR5/2	赤褐色	粘土、黄より粘質多+	ハード
2-5	1.5Y4/1	暗赤褐色	硬質に細砂入る	ハード
2-6	10YR5/2	赤褐色	粘土	ハード
2-7	1.5Y4/1	暗赤褐色	粘土	ハード
2-8	1.5Y4/1	暗赤褐色	細砂 (50:50) 粘質多量	やや粘
2-9	1.5Y4/1	暗赤褐色	細砂 (50:50) 粘質多量	やや粘
第8調査区 東側カクシオン地帯 (SPA-SPA')				
1-1	10YR6/8	こげい黄褐色	シルト 粘分多量まで入る	やや粘
1-2	1.5Y3/2	暗赤褐色	細砂 (シルト% \geq 5%以上含む)、粘質多量含有	やや粘
1-3	10YR6/8	こげい黄褐色	細砂	やや粘
1-4	10YR6/8	こげい黄褐色	細砂	やや粘
1-5	10YR6/8	こげい黄褐色	細砂+シルト シルト含有率多+	やや粘
1-6	10YR6/8	こげい黄褐色	細砂 シルト粘質微い、粘質多量含有	やや粘

表33 調査区土層観察表

層	土質	観察内容	特徴	備考
2-1	2Y1/3	硬オリーブ層	細砂 炭化物	中硬
2-2	2Y1/4	炭質砂	細砂	硬
2-3	2Y1/3	硬砂	細砂 シルト10%	中硬
2-4	2Y1/4	硬砂	細砂 ロームプロット1%	中硬
2	2Y1/2	オリーブ層	細砂 硬砂等、主として粒が大きい。	硬
2Y-1	2Y1/2	硬オリーブ層	細砂-硬砂	中硬
2Y-2	2Y1/2	硬炭質	硬砂-硬砂、硬砂の割合がやや多い層もある	中硬
2Y-3	2Y1/4	硬	細砂+シルト(5~7%) 炭化物%	中硬
2Y-4	2Y1/3	硬砂	細砂 シルト12%、粘土質の割合が若干	中硬
2Y-5	2Y1/2+2Y1/3	硬砂	シルト+硬砂	中硬
2Y-6	2Y1/4+2Y1/3	炭質砂	細砂-硬砂、炭に富み、量よりも中硬	中硬
2Y-7	2Y1/4+2Y1/3	炭質砂	細砂 炭化物%	中硬
2Y-8	2Y1/2	オリーブ層	細砂(粘砂)0.5%、2Y1/3/4に多い炭質シルト層	中硬
2Y-9	2Y1/4	硬砂	シルト+硬砂	硬、ハード
2Y-10	2Y1/2	硬砂	硬砂	中硬
2Y-11	2Y1/4+2Y1/3	炭質砂	細砂 シルト5%	硬(ふよみ紙)
2Y-12	2Y1/3	硬砂	細砂 シルト層	硬、ハード
2Y-13	2Y1/4+2Y1/3	炭質砂	細砂 シルト層	中硬
2Y-14	2Y1/3	硬砂	細砂	硬
2Y-15	2Y1/2	硬オリーブ層	細砂 2Y1/3/4/粘質シルト層もある	中硬
2Y-16	2Y1/2	炭質砂	細砂 シルト10%、表面は3mmを越す	硬、ハード
2Y-17	2Y1/2	硬オリーブ層	細砂	中硬
2Y-18	2Y1/2	硬炭質	細砂	中硬
2Y-19	2Y1/3	硬砂	細砂 炭小砂	中硬
2Y-20	2Y1/3	硬砂	細砂	硬、ハード
※1土質調査 調査区土層観察表 (SPA-SPA)				
1-1	1Y1/2	硬砂	細砂+粘砂(粘砂-粘砂 20%)+シルト+シルト層(炭化物%)、主砂層は4mm以下、土層厚	硬
1-2	1Y1/3	炭質砂	細砂、主砂層	硬
1-3	1Y1/4	硬砂	シルト+細砂、ローム質、ロームプロット(粘砂+炭)10%	ハード 粘土として中硬
1-4	1Y1/3	炭質砂	シルト+細砂(10~20) 炭層+3mm大主砂層10%	中硬
1-5	1Y1/3	硬砂	シルト+細砂(50~60) 炭化物7%、主砂層3mm-20mm10%	中硬
1-6	1Y1/3	硬砂	シルト+細砂(50~60) 炭化物7%、主砂層3mm-20mm10%	中硬
1-7	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(40~60) 主砂層3mm、3mm以下	中硬
1-8	1Y1/4+1Y1/3	硬	硬砂+シルト(60~80) ロームプロット10%	中硬
1-9	1Y1/3	硬砂	硬砂	硬
1-10	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 主砂層3mm大7%、炭化物%	ハード 硬
1-11	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 炭化物10%、炭小砂(炭化物?)	ハード 硬
1-12	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60) 炭化物10%、ロームプロット若干、主砂層3mm-10mm大中硬の中心	ハード 硬
1-13	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60~80) 炭化物10%、ロームプロット若干	中硬
1-14	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) Eより炭質粘砂、主砂層3mm大10%	中硬
1-15	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60~80) 炭化物10%、炭小砂層	中硬
1-16	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 中硬の硬砂、粘砂%主砂層	中硬
1-17	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト	中硬
1-18	1Y1/3	硬砂	硬砂、シルト+炭質粘土	中硬
1-19	1Y1/4	硬砂	硬砂+シルト(60~80)	中硬
1	1Y1/4	硬砂	硬砂 炭化物層	硬、ハード
1	2Y1/4	オリーブ層	硬砂-硬砂	中硬
1Y-1	1Y1/3	硬砂	硬砂	中硬
1Y-2	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(5%)	中硬
1Y-3	1Y1/4	硬砂	硬砂+シルト 炭化物1%	中硬
1Y-4	1Y1/4	硬砂	炭化物%	中硬
1Y-5	1Y1/3	硬砂	細砂 ロームプロット2%	中硬
1Y-6	1Y1/3	硬砂	細砂 ロームプロット10%	中硬
1Y-7	1Y1/4	硬	細砂	中硬
1Y-1	1Y1/4	硬	砂+シルト(60~80)、炭化物1%、ロームプロット20%	中硬
1Y-1	1Y1/4	硬	細砂、炭化物1%、ロームプロット2%	中硬
1Y-1	1Y1/3	硬砂	硬砂	中硬
1Y-1	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト 主砂層10%	中硬
1Y-2	1Y1/4	硬砂	硬砂-硬砂、ロームプロット2%、3.2mm以下	ハード
1Y-3	1Y1/3	硬砂	硬砂	中硬
1Y-4	1Y1/3	硬砂	硬砂 シルト10%、1-3mm炭%	中硬
1Y-5	1Y1/4	硬砂	硬砂	中硬
1Y-6	1Y1/4	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 厚層や中層	中硬
1Y-7	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 炭化物1%、炭小砂層、厚層	中硬
1Y-8	1Y1/3	硬砂	硬砂 シルト2%、6の厚シルト層	中硬
1Y-9				
1Y-10	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト	中硬
1Y-11	1Y1/4	硬砂	硬砂 炭層	中硬
1Y-12	1Y1/3	硬砂	硬砂、シルト+2Y1/4/主砂層の割合	中硬
1Y-13	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト 主砂層10%	硬
1Y-14	1Y1/4	硬砂	硬砂+シルト 炭質品上	中硬
1Y-15	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 3mm-6mm主砂層	中硬
1Y-16	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50~60) 炭化物10%、炭小砂層、主砂層3mm大	硬、ハード
1Y-17	1Y1/4	硬砂	硬砂+シルト(60~80) ロームプロット10%、炭化物1%、1mm-3mm大主砂層10%	硬、ハード
1Y-18	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60~80) ロームプロット2%	中硬
1Y-19	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60~80) ロームプロット2%	中硬
1Y-20	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(60~80) ロームプロット2%、粘砂層がロームプロットやや多い	中硬
1Y-21	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト(50%)炭層	硬
※2土質調査 調査区土層観察表 (SPA-SPA)				
1-1	1Y1/3	硬砂	細砂 主砂層多数、炭化物多数(最近の火事によるもの)、炭小砂も多数	ソフト
1-2	1Y1/3	硬砂	細砂 主砂層多数、炭化物多数、炭小砂も多数	中ソフト
1-3	1Y1/3	硬砂	細砂 炭化物多数、主砂層少数	ソフト
1-4	1Y1/3	硬砂	硬砂+シルト+粘砂、主砂層少数	ソフト
1-5	1Y1/3	硬砂	細砂 E-主砂層	ソフト
1-1	1Y1/3	硬砂	細砂 炭化物層	中ソフト
1-2	1Y1/4	硬	シルト中に硬砂層	ハード
1-3	1Y1/3	硬砂	細砂	中ソフト

表34 調査区土層観察表

E-4	HY35/2	泥質	細砂	中～細砂
E-5	HY35/2	泥質	細砂	中～細砂
E-6	HY35/2	泥質	細砂	ソフト
E-7	HY35/2	泥質	細砂 シルト15%、1-2mm大砂	ハード
E-8	HY35/2	泥質	細砂	中～細砂
E-9	E35/E-1	泥質	細砂	ハード
E-10	HY35/1	泥質	細砂 細砂	ソフト
E-11	HY35/2	泥質	細砂 細砂	ソフト
E	HY35/2	泥質	細砂中にシルト少量、多少粗まる	中～ソフト
E-1	HY35/2	泥質	細砂中に粗砂少量、細砂	中～ソフト
土層1	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物、ビニール袋少量	ソフト
F12	HY35/2	泥質	細砂中にシルト少量、2-5mm大砂、炭化植物	中～ソフト
第12調査区 産業カクシオン層 (SPA-SPA) 産業カクシオン層 (SPA-SPA)				
F11	HY35/2	泥質	細砂 HY35/4層と同様土層を含む、小玉砂粒多量、炭化植物多量、大砂を多く含む	ハード
F-3	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量、炭化植物多量、小玉砂粒少量、最上から一層目の最上層	ハード
E-8	HY35/4	泥質	細砂	ソフト
E-1	HY35/4	泥質	細砂	中～ソフト
E-4	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物多量、小玉砂粒多量、最上層の土層層数が多い	中～ソフト
E-5	HY35/2	泥質	細砂	中～ソフト
E-6	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量、炭化植物多量	中～ハード
E-8	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量	ハード
E-1	HY35/2	泥質	細砂	ソフト
E-2	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂多量	ソフト
E-3	HY35/2	泥質	細砂	中～ハード
E-4	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物多量	中～ソフト
E				
F99-a	HY35/1	泥質	シルト ビニール袋あり	中～ソフト
F99-b	HY35/2	泥質	細砂、ビニール袋あり	ソフト
F99	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量、小玉砂粒多量	ソフト
F76	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物多量	中～ソフト
F77a	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物少量	ソフト
F77	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物多量、大砂多量	ソフト
F78	HY35/2	泥質	シルト 炭化植物多量、粘土少量	ソフト
F98	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量、炭化植物少量、褐色粘土多量	中～ソフト
F79	HY35/2	泥質	シルト中に粗砂少量、炭化植物多量、小玉砂粒多量	中～ソフト
F78	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物少量	ソフト
F79	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物多量	ソフト
F98	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物少量、褐色粘土プロット少量	ソフト
F99	HY35/2	泥質	細砂 炭化植物少量、褐色粘土プロット少量	ソフト
第13調査区 産業カクシオン層 (SPA-SPA) 産業カクシオン層 (SPA-SPA)				
I-1	HY35/2	泥質	シルト	
I-2			炭化植物 本層数が多くあり(後の代層(昭和46年代))	
I-3	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 5%) 実砂10mm-2mm大砂	
I-4	HY35/4	泥質	ローム 実砂約5%	ローム層
I-5	HY35/4	泥質	ローム 実砂+HY35/2層(細砂)層入る (2%)	ローム層
I-6	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	硬
I-7 (表土1)	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%) 実砂約3mm-1mm大砂	中～軟 ソフト
I-8	HY35/2	泥質	シルト+細砂 (約 40%) 実砂10%, 炭化物7%	中～軟 ハード
E-1	HY35/2	泥質	細砂+シルト シルト量多し、細砂多しや中程度	硬
E-2	HY35/2	泥質	シルト+細砂 (約 30%) 炭化物1%, 小砂粒 (最大) 1-3%	中～軟
E-3	HY35/2	泥質	シルト+細砂 (約 15-20%)	中～軟
E-4	HY35/2	泥質	シルト+細砂 (約 15-20%) 下部に炭化植物 (塊状含む)	
E	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
E-1	E35/E-1	泥質	細砂	中～軟
土層1a	HY35/2	泥質	細砂 (互層と層と区別) や中程度の炭化物を含む、粗砂HY35/2層(細砂)シルト	硬
土層1b	HY35/2	泥質	細砂+シルト、シルト多量 (約 15%) 炭化物1%	中～軟
土層1c	HY35/2	泥質	細砂 (互層の砂子が多い)	中～軟
P1-a	HY35/2	泥質	細砂+シルト+2.5mm大砂(炭化植物)一層の砂よりやや炭化多	中～軟
P1-b	E35/E-1	泥質	層の砂よりやや炭化多	硬
P1-c	HY35/2	泥質	細砂+シルト+2.5mm大砂(炭化植物)一層の砂よりやや炭化多	中～軟
P1-d	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 30%) 炭化物1%、実砂約1-3mm大砂少量	中～軟
P1-e	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 40%) 実砂約1-3mm大砂	中～軟
P1-f	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 40%) 実砂約1%	中～軟
P1-g	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 20%)	中～軟
P1-h	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-i	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-j	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-k	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-l	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-m	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-n	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-o	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-p	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-q	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-r	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-s	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-t	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-u	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-v	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-w	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-x	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-y	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
P1-z	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15-20%)	中～軟
第14調査区 産業カクシオン層 (SPA-SPA) 産業カクシオン層 (SPA-SPA)				
I-1	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15%) 炭化土	中～軟
I-2	HY35/2	泥質	シルト 炭土	中～軟
I-3	HY35/2	泥質	細砂+シルト 互層ベースの硬層	硬
I-4	E35/E-1	泥質	細砂+シルト HY35/2層(細砂)シルト2% (プロット含む)、互層ベースの硬層	中～軟
I-5	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 15%) 炭化土シルト2%含む、[I-6]に近し中～中程度の硬さ、互層ベースの硬層	硬
I-6	E35/E-1	泥質	細砂+シルト 硬層	硬
I-7	HY35/2+2.5mm/6	泥質	細砂+シルト+シルト+炭化物 (約 40%)	中～軟
I-8	HY35/2+2.5mm/7	泥質	細砂+シルト (約 30%) まがら炭土を含む。	中～軟
I-9	HY35/2	泥質	細砂+シルト (約 30%) 炭化土	中～軟
I-10	HY35/2	泥質	シルト+炭化物 (約 5%) 炭化土	中～軟 ハード
I-11	HY35/2	泥質	シルト、褐色粘土プロット層 互層	中～ハード
I-12	HY35/2	泥質	細砂+シルト HY35/2層(細砂)シルトプロット層入	中～軟
I-13	HY35/2	泥質	細砂+シルト HY35/2層(細砂)シルト 白色粘土含む約5%	中～軟
I-14	HY35/2	泥質	細砂+シルト HY35/2層(細砂)シルト	中～軟
I-15	E35/E-1	泥質	細砂+互層 炭土を含む	中～軟 中～ハード
I-16	HY35/2	泥質	シルト+細砂 (約40%ない) 炭質、炭質	中～軟

表35 遺構土層観察表

第1調査区 土層1				
1	JY103/4	雑草	細砂 シルト+5mm大玉砂利15%	中～中弱 黄
2	JY104/3	にべい遺構	粗砂+細砂 30mm大玉砂利	中～中弱
3	JY104/2	にべい遺構	粗砂+細砂 5mm以下	中～中弱
4	JY104/2	にべい遺構	粗砂 30mm-30mm大玉砂利5%	黄
第2調査区 土層2				
1	JY103/3	雑草	細砂 シルト+底砂15-18%、平層から見た形と影となる	中～中弱
2	JY103/4	雑草	細砂 シルト12-15%	中～中弱
3	JY104/3	にべい遺構	細砂	中～中弱
4	JY104/2	雑草	細砂 小玉砂利少量	中～中弱
5	JY104/3	にべい遺構	細砂 シルト12-15%	中～中弱
6	JY104/2	瓦葺遺構	細砂+細砂 シルト12-15%	中～中弱
7	JY104/3	オリーブ苑	細砂	中～中弱
8	JY104/3	オリーブ苑	細砂	中～中弱
9	JY104/2	雑草+ロープ苑	細砂 シルト12-15%	中～中弱
10	JY104/2	雑草	細砂 シルト12-15%	
第3調査区 土層1				
a	JY104/4	雑	シルト 雑草+ロープ苑ロケット多量	中～中弱
b	JY103/3	雑草	シルト 小玉砂利少量	中～中弱
c	JY103/2	雑草	細砂 小玉砂利少量	中～中弱
d	JY104/3	雑草	細砂 小玉砂利少量	中～中弱
e	JY103/2	雑草	シルト中に細砂少量 小玉砂利少量	中～中弱
f	JY103/3	雑草	シルト 小玉砂利少量 炭化物少量	中～中弱
g	JY103/2	雑草	シルト中に細砂少量 小玉砂利少量	中～中弱
h	JY104/2	瓦葺遺構	細砂	ソフト
第4調査区 土層1				
a	JY103/3	雑草	細砂 小玉砂利少量 炭化物少量	ソフト
b	JY103/2	雑草	細砂 炭化物少量	ソフト
c	JY104/2	瓦葺遺構	細砂 炭化物少量	中～中弱
d	JY103/2	雑草	細砂 小玉砂利少量	ソフト
第5調査区 土層4				
a	JY104/3	瓦葺	シルト中に細砂少量 炭化物少量	ソフト
b	JY103/4	雑草	細砂	中～中弱
第6調査区 土層1				
a	JY103/2	雑草	細砂 小玉砂利少量	中～中弱
b	JY103/2	雑草	シルト中に細砂少量	中～中弱
c	JY103/2	雑草	シルト中に細砂少量 小玉砂利少量 炭化物少量	中～中弱
F03	JY104/4	雑	シルト中に細砂少量	ソフト
F11	JY103/2	雑草	シルト 小玉砂利少量	中～中弱
第7調査区 土層1				
a	JY104/3	瓦葺遺構	細砂 炭化物少量 土層砂1少量	ソフト
b	JY104/3	にべい遺構	粘土 炭化物少量	ソフト
c	JY103/2	雑草	細砂 炭化物少量	中～中弱
d	JY103/2	瓦葺遺構	細砂 炭化物少量 土層砂1少量	ソフト
e	JY103/2	瓦葺遺構	細砂 炭化物少量 土層砂1少量	ソフト
f	JY103/1	雑草	細砂 アラスカ 炭化物少量	ソフト
g	JY103/2	雑草	細砂中に粘土少量 炭化物少量	ソフト
h	JY103/2	雑草	細砂 土層砂1少量 炭化物少量	
i	JY103/1	雑草	細砂	中～中弱
j	JY103/1	雑草	細砂 土層砂1少量 炭化物少量	中～中弱
k	JY103/2	雑草	細砂	中～中弱
l	JY103/2	雑草	細砂	中～中弱
第8調査区 土層1				
a	JY103/3	雑草	細砂 小玉砂利少量 炭化物少量	ソフト
b	JY103/2	雑草	細砂 炭化物少量	ソフト
c	JY103/2	雑草	細砂 炭化物少量	ソフト
第9調査区 土層1				
1	JY103/3	雑草+ロープ苑	細砂	
2	JY103/2	雑草+ロープ苑	細砂	上より黄
3	JY104/2	オリーブ苑	細砂+シルト	黄
4	JY103/3	雑草	シルト+粗 細砂	中～中弱
5	JY103/3	雑草+ロープ苑	細砂	中～中弱
6	JY104/4	オリーブ苑	細砂	黄
7	JY104/3	オリーブ苑	細砂	黄
8	JY104/3	雑草+ロープ苑	3mm大玉砂利	中～中弱
9	JY104/4	雑	シルト+2mm大玉砂利+雑草+ロープ苑細砂	中～中弱
第10調査区 土層1				
1	JY103/4	雑草	シルト+粗砂(砂質シルト)	黄
2	JY103/3	雑草	シルト+粗 1-3mm大玉砂利15%	黄
3	JY103/3	雑草	シルト+粗(砂) シルト少量 黄小玉砂利	中～中弱
4	JY103/3	雑草	シルト+粗砂/2mm炭化物細砂 層の下にシルトあり中間は細砂、粘土15%程度、炭化物1%	中～中弱
5	JY103/3	雑草	細砂	黄
6	JY103/3	雑草	細砂 (ロープ苑)シルト15-18%	ソフト
7	JY103/3	にべい遺構	細砂 JY103/3に似た、土層砂1-3%	中～中弱
8	JY103/3	雑草+ロープ苑	細砂のA	中～中弱
9	JY104/2	雑草	細砂のA	黄
10	JY103/2	雑草+ロープ苑	粗砂+ロープ苑ロケット	中～中弱
11	JY104/3	にべい遺構	細砂 シルト15%程度	中～中弱
12	JY104/2	にべい遺構	細砂 シルト15% 土層砂1%	中～中弱
13				
14	JY104/3	にべい遺構	細砂 ロープ苑ロケット	ソフト 中～中弱
15	JY104/2	にべい遺構	細砂 シルト15%以内	中～中弱
16	JY104/2	にべい遺構	粗砂+細砂 シルト1% 砂1層立	中～中弱
17	JY104/3	にべい遺構	細砂	
第11調査区 土層1				
1	JY103/3	雑草	細砂+シルト+炭質 瓦葺向階 ロープ苑ロケット、炭化物少量	中～中弱
2	JY103/2	雑草	粗砂+シルト+炭質 瓦葺向階 土層砂1%	上より黄+中～中弱
3	JY103/2	雑草	粗砂+シルト+炭質 瓦葺向階 炭化物	中～中弱
4	JY103/2	雑草	細砂+シルト、炭質、アラスカ含有 炭化物 シルト1-3より多い	ソフト
5	JY104/3	にべい遺構	細砂	中～中弱
6	JY104/2	瓦葺遺構	細砂+シルト(粗)10% 炭化物1%	中～中弱
7	JY103/2	にべい遺構	細砂+シルト(粗)1%	ソフト

表36 遺構土層観察表

8	10YR5/2	灰褐色	細砂+シルト(約1:2)	ロームアブロッタ互砂り跡	
9	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂		肌
10	10YR3/2	灰褐色	細砂+互砂り(黒小+3mm大)ノシルト(約1:1:1)		中や黄
11	10YR3/3	灰褐色	細砂+黒小互砂り+シルト(約1:1:1)		中や黄
12	10YR2/7	灰褐色	細砂+黒小互砂り+シルト(約1:1:2)		中や黄
13	10YR5/4	灰褐色	細砂+シルト+黒小互砂り(約1:1:1)		中や黄
14	10YR5/3	灰褐色	細砂+シルト+互砂り(約1:1:1)	黒小互砂り	中や黄
15	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト+互砂り(約1:1:1)	黒小互砂り、炭化物跡	中や黄
16	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト+互砂り	細砂跡	中や黄
第11調査区 土層3					
1	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂(シルト量物多し)		中や黄
2	10YR4/7	灰褐色	細砂(シルト量物多量 炭化物3mm大)		中や黄
3	10YR4/2	灰褐色	細砂(ロームアブロッタ 2mm大互砂り、シルト量中やあり(約1:1))		中や黄
4	10YR5/4	灰褐色	細砂+シルト(シルト量少ない) 炭化物1%		中や黄
5	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト(シルト量多い) 炭化物1%		中や黄
6	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト(シルト量多) 炭化物		中や黄
第11調査区 土層4					
1	10YR5/4+10YR4/3	灰褐色+にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1)+焼砂、互砂り3mm大以上		中や黄
2	10YR5/4	灰褐色	シルト+細砂(約1:2) 本層部の最上層		黄 ハード
3	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂、互砂り3mm大		中や黄
4	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2) 互砂り跡		中や黄
5	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1) 互砂り10%		中や黄
6	10YR5/4	灰褐色+にじみ黄褐色	シルト+細砂(約1:2)+焼砂(約1:2)		中や黄
7	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂		中や黄
8	10YR5/2	灰褐色	細砂+シルト 互砂り3mm+2mm大10%		中や黄
9	10YR4/7	灰褐色	細砂		肌
10	10YR4/2+10YR3/3	灰褐色+灰褐色	中や黄 互砂り10%		中や黄
第11調査区 土層5					
1	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト、中や黄、細砂(約1:1)		肌
2	10YR4/2	灰褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
3	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
4	2.5Y4/3	褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
5	10YR4/2	灰褐色	細砂+細砂+シルト		肌
6	2.5Y2/3	褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
7	2.5Y2/3	褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
8	2.5Y4/7	褐色	細砂+細砂 互砂りの砂子と互砂り		肌
第11調査区 土層6					
7	10YR4/2	灰褐色	細砂、炭化物1%、シルト量 15~10%		中や黄
4	10YR5/3	灰褐色	細砂+シルト 炭化物2%		中や黄
4	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト(シルト量10%) 黒小互砂り10%		中や黄
第11調査区 土層7					
1	10YR3/4	褐色	シルト+細砂(約1:4)、シルト多		ハード
2	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1)		肌
3	10YR4/4	黄	細砂+シルト(約1:1)		肌
4	10YR3/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2)		肌
5	10YR3/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2)		肌
第11調査区 土層8					
1	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト(約1:1) 互砂り1%		中や黄
2	10YR4/2	灰褐色	細砂+シルト(約1:1)		中や黄
3	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト(約1:1)		中や黄
4	10YR3/7	灰褐色	細砂+シルト(約1:1) 互砂り4%中や黄		中や黄
5	10YR3/7	灰褐色	細砂+シルト(約1:1) 炭化物1%		中や黄
6	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト(約1:2)		中や黄
7	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト		中や黄
第11調査区 土層9					
1	10YR3/4	褐色	細砂+互砂り1%		肌
2	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト 互砂り10%		中や黄
第11調査区 土層10					
1	10YR3/4	褐色	細砂+互砂り1%		肌
2	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト 互砂り10%		中や黄
第11調査区 土層11					
1	10YR3/4	褐色	細砂+互砂り1%		肌
2	10YR3/2	灰褐色	細砂+シルト 互砂り10%		中や黄
第11調査区 土層12					
1	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1)		肌
2	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1)		肌
3	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:1) 焼土跡		肌
4	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2)		肌
5	10YR4/7	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2)		肌
6	10YR4/2+10YR4/7	にじみ黄褐色+灰褐色	細砂+シルト(約1:2) 互砂り5%中や黄		肌
7	10YR4/4	黄褐色	細砂+シルト(約1:2)		中や黄
8	10YR3/4	褐色	細砂+シルト(約1:2)		中や黄
第11調査区 土層14					
7	10YR3/4	にじみ黄褐色	細砂+中や黄、互砂りの砂、炭小		中や黄
7	10YR3/4	にじみ黄褐色	細砂+シルト(約1:2) 炭小		中や黄
7	10YR3/4	褐色	細砂+シルト(約1:1)		中や黄
7	10YR3/4	褐色	細砂+シルト(約1:2) イギリス産燐酸肥料少量(シルト量約1:2) 互砂り5%、炭化物		中や黄
7	10YR3/4	褐色	細砂+シルト(約1:1)		中や黄
8					

表37 出土遺物観察表(陶磁器)

発掘番号	種類	器種	材質	胎土色	備考	高さ	口径	底径	底厚
第30001	煎茶	鉢	青灰白	白	一次焼成で欠ける。	13	110、110	108	
第30002	煎茶	鉢	青灰白	白	外壁に海苔文。	13	8	100	47 (40)
第30003	煎茶	鉢	青灰白	白	外壁に文。	12	8	100	
第30004	煎茶	鉢	青灰白	白	外壁に茶葉や山水文。	13	1	100	
第30005	煎茶	三足瓶	青灰白	白	外壁に山水文。	12	10、17	110	60 54
第30006	煎茶	鉢	青灰白	白		12	1	100	64.5 49
第30007	煎茶	鉢	青灰白	白	1層の内側に青海苔文。	13	8	100	60 42
第30008	煎茶	鉢	青灰白	白	煎茶ツバによる層付痕。「ヤマトシヤ」	15	8		
第30009	煎茶	鉢	青灰白	白		12	1	100	60
第30010	煎茶	鉢	青灰白	白	見出し(山水文、紅の自然彫痕)。	13	8	100	60 50
第30011	煎茶	鉢	青灰白	白		8	7	100	60 28
第30012	煎茶	コンツツ鉢	青灰白	白		12	1	25	
第30013	煎茶	鉢	青灰白	白	裏面に紅い印。	15	8		60 58 41
第30014	不明	不明	青灰白	白	3mm径の11層の底面。	13	1	100	
第30015	不明	不明	白	赤土	底面に「三徳主人」	9	2		(75)
第30016	洗心鉢	鉢	青灰白	白	外壁に海苔文	9	8	100	60 30
第30017	洗心鉢	鉢	青灰白	白		9	1	100	60 30

2. 出土遺物の概要 今回の調査で出土した遺物は陶磁器が9416点、木製品が386点など総点数は9916点である。陶磁器の内訳は青磁1点、白磁1点、肥前系が1537点、唐津系が444点、近世の瀬戸と思われるものが267点、近代以降と思われるものが7166点である。ただし、これらの中には産地、時期を比定しきれなかったものも多く、ある程度数量は流動的にならざるを得ないことを付け加えたい。

第35図8は肥前系の皿である。江戸時代末期～明治時代初期のものであろうか。底面は蛇の目凹型高台である。軸の掻き取りをした部分に屋号で「念(やましち)様」とあり、破断面には鉛ガラスによる接合痕が認められる。焼離の際に職人が持ち主の屋号を入れたものと考えられる。

第36図15は産地不明の水差し様の容器である。底面は無軸であるがそこに墨書による文字が書か

れている。ほぼ中央に位置するのは先に書かれた何らかの文字を線を引き消したものと思われる。その右側には「三拾五?入」と書かれており、内面には赤褐色の付着物がある。遺物の形態からすると何らかの液体の容器であることが考えられ、底面の墨書はその内容物と容量が書かれていたと推測できる。

木製品は主に第6調査区以前の調査区で出土している。杭や板材などの完成品の他に未成品や製材の際に出る木屑と考えうるものなどが多く含まれている。これらの多くはKo-d降下以前の層位であるⅡ3層からの出土である。

第37図32は桶の側板である。内側下部に底板がはまると考えられる窪みがある。しかし外面には留め具でかした痕跡がないので、桶として組み立てるまでには至っていないと考えられる。

(三浦英俊)

表38 出土遺物観察表(銅製品他)

図号	品名	形状	長さ	高さ	厚さ	直径	厚さ	重量	備考
第360219	匙	釘頭形	24	1	20	16	6.5	48.4	
第360211	匙		12	1.5	11.4	2	7	4.8	
第360220	銅釘		12	1.5	27.5	4	4	3.3	
第360221	銅釘		12	1.5	28.5	3.5	3.5	1.4	
第360222	銅釘		12	1.5	25	2	2	1.2	
第360223	唐草	唐草型、右側の縁方に釘眼多数あり。	12	3	48.5	15	13.5	11.9	
第360224	唐草	唐草型、右側の縁方に釘眼多数あり、唐草が折れた。	12	1	52	10	11.5	11.2	
第360225	唐草	唐草型、右側の縁方に釘眼多数あり。	12	1	49	11	11	6.6	
第360226	唐草	唐草型、右側の縁方に釘眼多数あり。	12	1.5	38.5	10.5	11.5	8.9	
第370201	板材	片方の端部に線が溝がく。	3	3	32.5	7	16.5		
第370202	板材	板の断面の中心から	4	3.5	62.5	12	58		
第370203	板材	板材の端部を切り取ったもの。	4	3.5	20	11	10.5		
第370204	板材	板材の中心のもの。	4	3.5	17.5	6	35		
第370205	木屑	何らかの製材、あるいは木屑。	2	3	20	10	37		
第380206	皿	水差し、縁部削り込みあり。	4	3.5	87.5	25	52		
第380207	皿	水差し、縁部削り込みあり。	4	3.5	62.5	16	52		
第380208	皿	全体が収まる。	6	3.5	51.5	47	56		
第380209	皿	木の板を削り、空堀を削りに切り取って製材する。	3	3	22.5	26	20		
第380210	皿	木の板を削り、空堀を削りに切り取って製材する。	1	3.5	23.5	21	21		
第380211	皿	縁の先端部。	2	3	18.5	16	20		
第380212	樽取	あるいは板の先端部。	7	3	135	22	22		
第380213	皿	縁の先端部。	1	3.5	7.5	39	40		
第380214	樽取	樽部に穿れ孔あり。此を樽眼に打ち付ける。	2	3	22.5	12	42		
第380215	樽取	樽部に穿れ孔あり。	6	3.5	30.5	13	50		

表39 出土遺物集計表(陶磁器他)

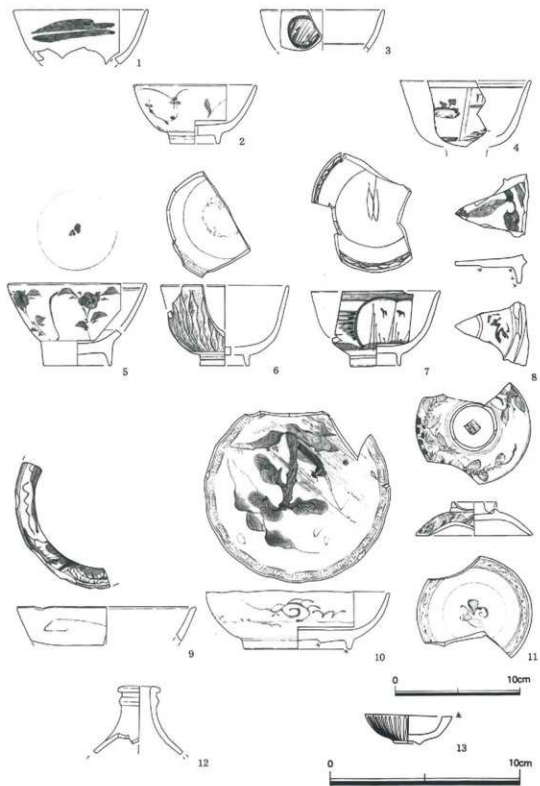
品名	形状	青磁	白磁	肥前	唐津	近世(肥前)	土器	石器	ガラス	鉄	銅	銀	金	鉛	錫	合計
1	遺物															23
2	遺物															10
3	遺物															13
4	遺物															103
5	遺物															81
6	遺物															68
7	遺物															23
8	遺物															17
9	遺物															4
10	遺物															1187
11	遺物															50
12	遺物															224
13	遺物															34
14	遺物															3
15	遺物															150
16	遺物															1241
17	遺物															33
18	遺物															210
19	遺物															3751
20	遺物															432
21	遺物															481
22	遺物															1211
23	遺物															156
24	遺物															85
25	遺物															1
合計		132	144	107	110	110	3	3	7	1	10	44				1021

735

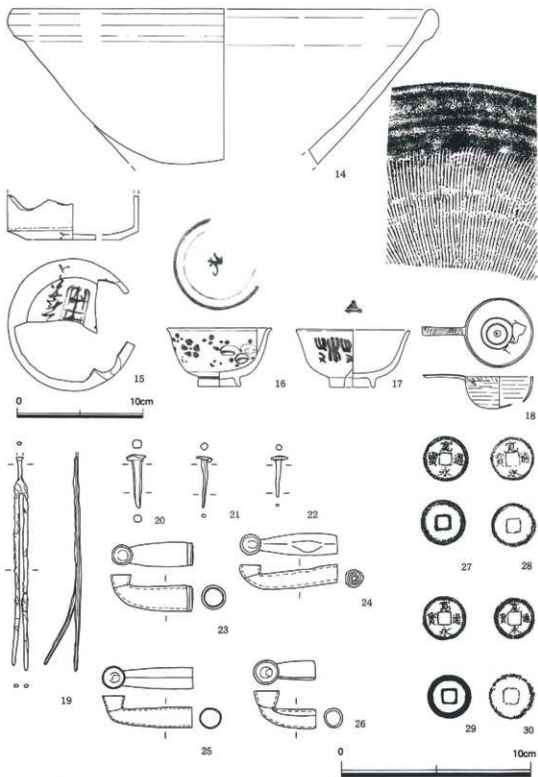
表40 遺構土壌選別表

区別	種類	8区			9区			11区			12区					
		備	土層1	土層2	土層3	土層1	土層2	土層3	土層4	土層5	灰層面	土層1	土層2	土層4	土層5	
植物性遺物	木炭				12.1		0.3	1.3	3.1							
	植物				0.01					0.01						
	米				0.7							0.9				
	タムシ				0.1										0.01	
	小豆				0.1		0.01	0.01			0.01					
	ふどう				0.4											
	芋杖				1.2		13.6	1.9		1.4		0.7				
	炭化煎豆	0.1	0.2	0.7	1.0		0.1	0.2	0.8			0.8	0.8	1.2	0.1	
	不明種子				41.0							94.1			0.1	
	木片															
動物性遺物	鳥骨(鷓鴣-大)									0.2			0.01			
	鳥骨(鷓鴣-小)															
	鳥骨(野骨)														0.01	
	骨・爪															
	不明骨(小)		1.4		3.2			0.01	0.3		1.3	1.9	1.8	0.1	0.1	
	貝				23.8			23.9	67.2		15.6	0.5			6.9	
その他	不明炭化物(粉状)		2.0	0.1						0.2	12.6	15.2	0.0	1.2		
	不明炭化物(繊維状)															
	磁造瓦片														0.6	
	磁葺石				0.6	0.01						0.6	1.1			
	焼土塊				1.8							2.5				
	瓦		0.2		3.7							254.3				
	瓦割れ		35.8		87.5		14.9	28.1	115.7		14.4	28.4	158.4	115.7	60.3	3.3
	不明炭化物		1.2	2.1	5.4					0.8		0.2	0.1	2.3	0.01	187.2
	炭	0.7	26.4	51.9	677.3	161.7	8.6	29.5	82.8	1.9	17.3	266.6	94.9	21.7		22.8
	鉄製品			81.6	126.6	37.1	2.2	17.1	94.4	1.1	17.7	3.2	12.5	39.8		
	銅製品		1.1	6.7	1.3	1.6		0.7					0.01	1.2		
	銅銭		3.7										0.1		2.7	
	瓦		2割	1割	2割							3割	5割		1割	
	土器				4.3			6.0			0.5					
	軽石				5.7				2.9							
	ガラス		0.9													
	石灰				20.0											
	砂				0.3											
	漆				0.3	0.01									0.01	
	イモ跡														2.7	
	採取土量(kg)		18.20	27.20	133.75	216.20	29.05	12.15	39.79	142.05		77.25	273.80	149.45	29.50	83.45

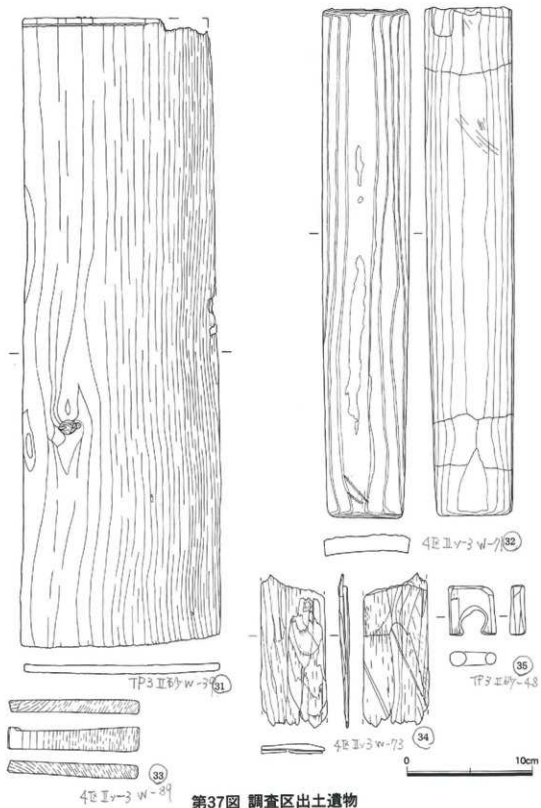
区別	種類	12区					13区					合計					
		土層1	土層2	土層3	土層4	土層5	土層1	土層2	土層3	土層4	土層5						
植物性遺物	木炭		0.4	2.1	0.8					1.9							
	植物					0.01							0.01				
	米																
	タムシ		0.7														
	小豆		2.3	0.1						0.01			0.01				
	ふどう		0.1	0.01	0.3		0.8	0.1	0.01		0.1	0.1	0.01				
	芋杖										0.01		0.01				
	炭化煎豆																
	不明種子	0.1	0.5	0.2	0.5	0.2	0.01	0.1		0.01		0.1	0.02				
	木片																
動物性遺物	鳥骨(鷓鴣-大)					0.1	1.0										
	鳥骨(鷓鴣-小)																
	鳥骨(野骨)																
	骨・爪																
	不明骨(小)		0.4	0.01		1.2	0.1	0.01		0.01		0.01					
	貝		1.5	6.3	12.9			1.2				0.01					
その他	不明炭化物(粉状)		20.2	1.5	0.01	3.5	0.2	2.4	0.7		0.01	0.1	0.01	0.4	1.1		
	不明炭化物(繊維状)														1.0		
	磁造瓦片							0.4									
	磁葺石			6.9													
	焼土塊				1.7												
	スラッグ			3.6		19.5					2.0						
	瓦			55.7	246.5	61.3			229.8	50.9	14.7	41.1	30.8	91.9	11.2		
	瓦割れ		0.4			1.1	1.1	0.1								0.7	
	不明炭化物	187.0	40.3	158.8		71.5	8.9	30.3	3.9	13.4	6.6	19.7	4.1	7.8	1.6		
	炭																
	鉄製品	0.9	4.8	134.0	31.1	20.7	0.3	46.1	1.5	20.9	0.0	19.0	4.9	2.0	1.0		
	銅製品		1.9		0.7	0.1				0.01	0.01						
	銅銭						0.2										
	瓦				0.01												
	石灰		0.7			2.9							0.7		0.01		
	軽石				6.1							1.8		0.7			
	砂				10.5												
	漆				0.01												
	磁料															0.6	
	採取土量(kg)		31.90	45.95	79.20	163.95	161.55	71.55	64.65	31.85	33.90	85.95	42.65	13.30	50.30	6.05	0.01



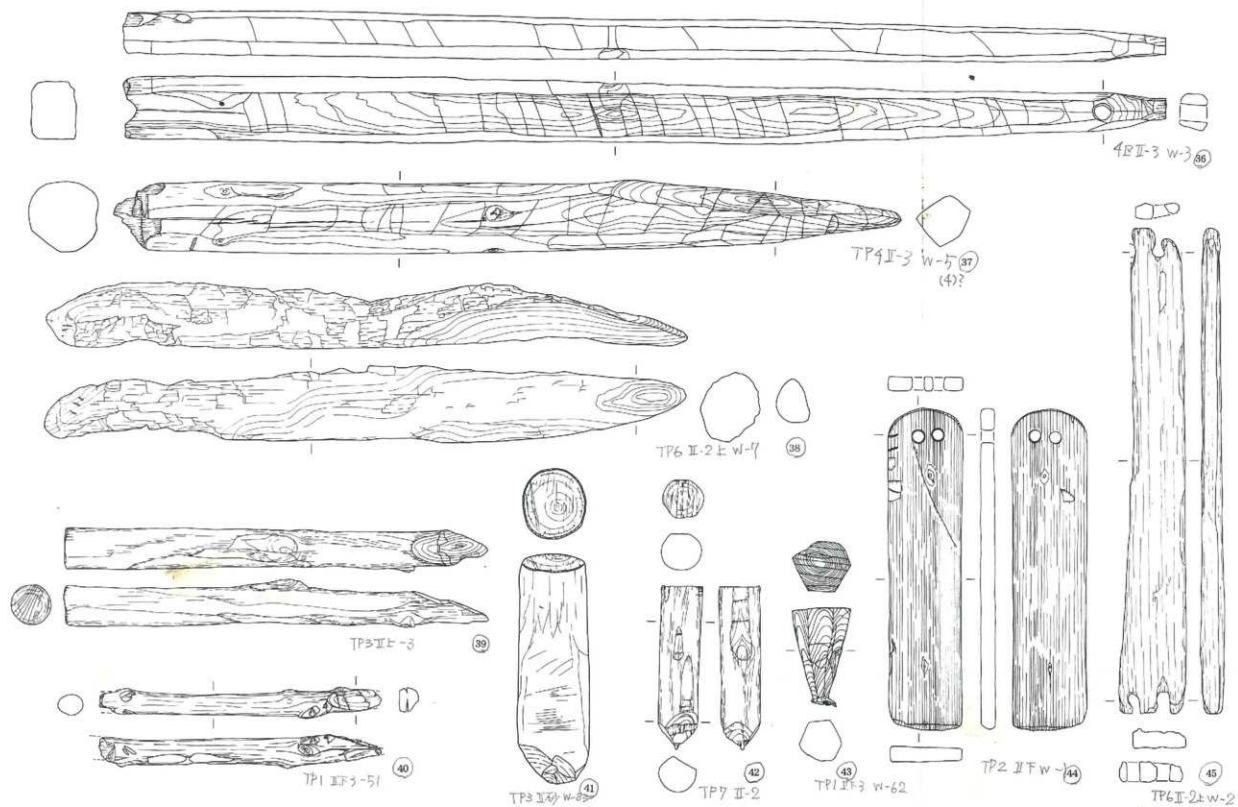
第35図 調査区出土遺物



第36図 調査区出土遺物



第37図 調査区出土遺物



第38図 調査区出土遺物

0 10cm

表41 出土遺物集計表(銅銭)

種類	出土年	調査区				総計
		9	11	12	13	
寛永通宝(古)	1697	2		1	1	4
寛永通宝(新)	1697	8	3	9	3	23
不明	不明	1		2	1	4
総計		11	3	12	5	31

表42 出土遺物観察表(銅銭)

調査区	品名	出土年	地区	層位	備考
第9調査区	寛永通宝(古)	1697		9 B	
第13調査区	寛永通宝(新)	1697		9 B	
第13調査区	寛永通宝(新)	1697	13	F15A	管前に元字
第13調査区	寛永通宝(新)	1697		9 I	

Ⅲ まとめ

上ノ国町字向浜地区は「Ⅰ 調査の概要」でも触れた通り天ノ川河口の左岸に位置し、対岸には多数の中世、近世遺物を包含する字上ノ国地区や国指定史跡上之国勝山館跡、国指定史跡上之国花沢館をのぞむ。また北東には洲崎館跡と考えられる砂丘が隣接している。また松前から江差へ抜ける福山街道沿いに位置する。

字向浜地区の集落としての成立について詳しいことは伝えられてはいないが、集落のほぼ中央にある川裾神社が天保2年(1831年)の創立と伝えられる。

『続上ノ国村史』によれば明治時代、天ノ川の上流の字湯ノ岱地区にあった御料林からの払下材、官行造材や多量の薪が切り出されて天ノ川を下り江差や松前などに売りだされていた。それらの材木は天ノ川の河口に位置する向浜地区に土場と呼ばれる場所を設けて一度集め、それから売りに出された。そのため向浜地区は湯ノ岱地区から材木などを流送し売りに出す柚夫たちが滞在したので柚夫たち相手の酒屋や飲み屋などが繁盛したという。こうした様子は本古内～江差間の鉄道が開通する昭和始め頃まで続いた。

今回の調査で出土した遺物の中でもっとも時代が遡る遺物は第14調査区で出土した白磁の皿と第3調査区で出土した青磁の碗が1片ずつであるが、この2片のみ突出して時代が古く、これは洲崎館跡と結びつけて考えるべきであろう。

また第6調査区以前で出土した木製品はKo-dよりも下の層位からの出土であり、確実に江戸時代初期以前のものである。木製品については前述の通り未成品や木屑が含まれており、例えば加工場のようなものの存在が考えられるが、後述するように目名川の流れて停滞したと考えられるⅡ層以後は木製品の出土量が減少することから上流から流れ着いた可能性も考えられるだろう。

向浜地区の東の範囲で海側の調査を行う機会が得られなかったのにわかに判断することはできないが洲崎館に関連している可能性もある。しかし目名川の河口を塞ぐような形に位置するため護

岸工事が完了するまで何度も洪水に襲われたという当地区において恒常的に生活が営まれていたかは疑問である。

それら以外で時代が遡る遺物は第9調査区～第13調査区で出土する18世紀台の肥前系の陶磁器である。初期伊万里や胎土目、砂目を残す唐津の皿など16世紀後葉から17世紀台の遺物はほとんど出土していない。18世紀台の遺物が陶磁器全体に占める割合は非常に少ないが、恐らくこのころから人が住み始めたと考えられる。19世紀後半以降の遺物は非常に多くなっており、往時のにぎわいを感じさせる。

第4調査区、第5調査区では浅い溝跡を検出した。溝が作られるまでは砂と粘土が交互に重なっており、目名川の流れてによってこのような層位が形成されたと考えられる。しかし溝が作られてからは砂が堆積することが無くなり、粘土のみとなる。また木製品も溝跡の残る層より上の層ではほとんど出土していない。恐らくはKo-dが降下した1640年以前に作られたこの溝跡が当地点における目名川の流れてに何らかの影響を与えたために川の流れてが停滞し、砂の堆積が無くなったと考えられる。この浅い溝跡のみでは目名川の流れてを変化させることは不可能であると思われるが、楕円なども検出されず具体的に何があったかは不明である。

字向浜地区における今年度の調査において、洲崎館と字向浜地区の関連性については薄いと云わざるを得ない結果となった。洲崎館跡については前掲の報告をご覧いただき、将来の分布調査等の調査により実像をつかんでいきたいと考えている。また今回の分布調査では明治時代に最盛期を迎えた集落の成立の様子についてその一端を垣見ることになった。わずか150～100年程度前の出来事ではあるが、不明な点も多く興味は尽きない。両館市の五枚郭など近代遺跡の調査も増えつつあり、当地点で行われた分布調査で得られた資料が今後の近代遺跡の調査の参考になりうるように検討と資料整理を進めていきたい。(三浦英俊)

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはつくつちょうさじぎょうほうこくしょ							
書名	町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ							
副書名								
巻次	4							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	斉藤邦典 三浦英俊							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL. 01395-5-2230							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西崎館跡	上ノ国町 字北村82-11ほか	013625	C-02-25			平成11年7月9日～ 10月26日 平成12年7月9日～ 10月26日	430㎡	町内遺跡 発掘事業
比石館跡	上ノ国町 字館野112ほか	013625	C-02-8			平成12年7月27日～ 10月2日	150㎡	町内遺跡 発掘事業
字向浜	上ノ国町 字向浜121ほか	013625				平成12年5月10日～ 7月6日	300㎡	町内遺跡 発掘事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西崎館跡	遺物包含地	推文 中世 近世	柱穴 土壇 竪穴建物跡	土器・土師器 陶磁器 青磁・白磁・青花 珠洲・瀬戸美濃・肥前 唐津・備前 鉄製品 釘・銅 銅製品 燧管 銅銭				
比石館跡	遺物包含地	中世 近世	柱穴 土壇 土葬墓 火葬墓 礎石建物跡 空堀跡	土器・石器 陶磁器 青磁・青花 瀬戸美濃・唐津・肥前 鉄製品 釘 銅銭				
字向浜地区	遺物包含地	近世 近代	柱穴 土壇	陶磁器 肥前・唐津 木製品				

图 版



洲崎館跡遠景



洲崎館跡近景



砂館神社本殿



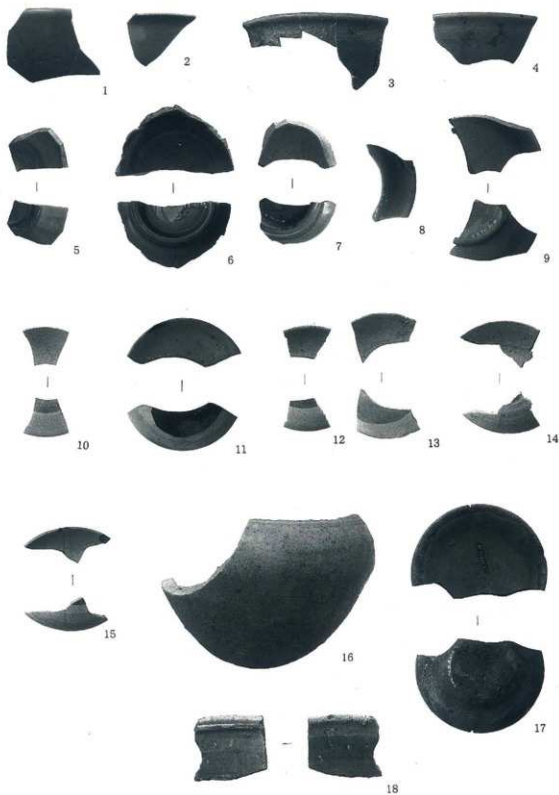
第50調査区 竪穴建物跡



第52調査区 溝跡



第50調査区 銅銭出土状況





19

20

21

22

24

25

23



26



27



28



30



32



35



33



29



34



36



37



38



39



40



42

43

44



46



45



49



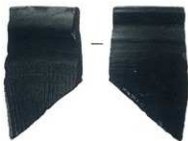
50



47



48



51



52



53



54



55



56



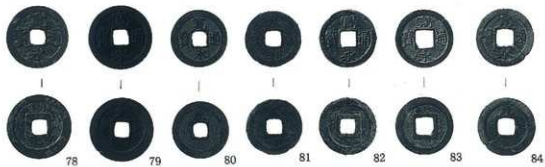
57



59



58





85



87



88



89



90

91

92

93

94



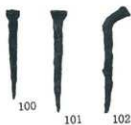
95

96

97

98

99



100

101

102



103

104

105



106



107

108



109



110



111



112

113



114



115

116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



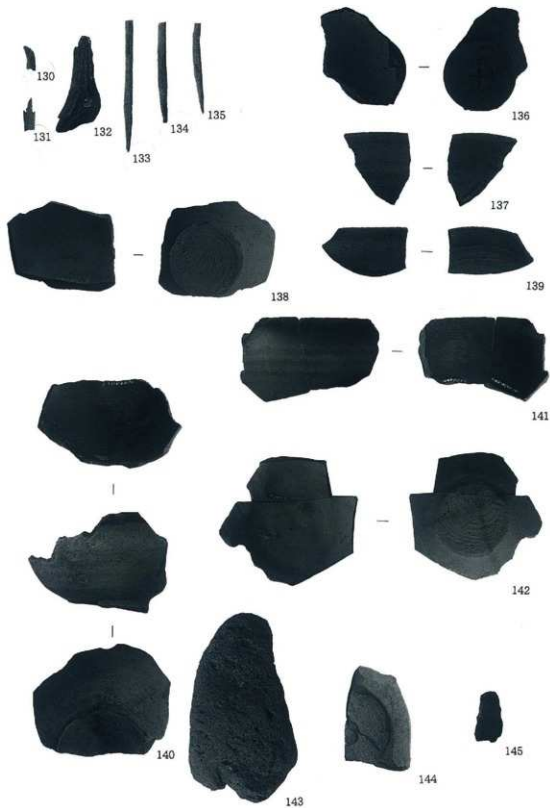
126



127

128

129





比石館跡



館神社



比石館跡 推定堀跡の現況



第14調査区 空堀跡



第5調査区 土壌2



第5調査区 土壌2遺物出土状況



第5調査区 土壌3検出状況



第5調査区 土壌3遺物、焼骨検出状況



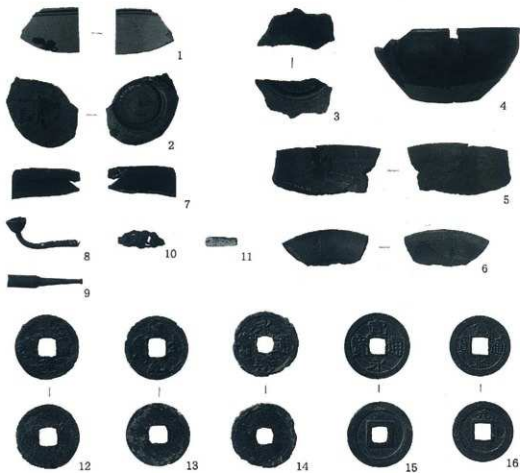
第5調査区 礎石建物跡



第7調査区 土壌1

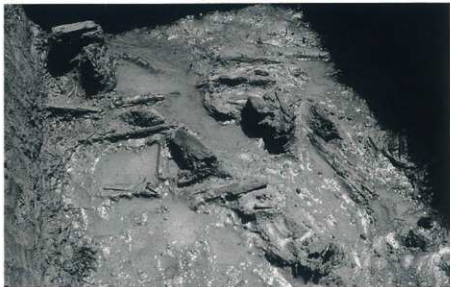


第15調査区 遺物出土状況





宇向浜地区遺景



第4調査区 木製品出土状況



第12調査区 遺構検出状況



第13調査区 土坑3

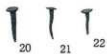
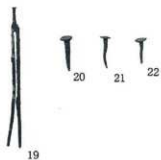


第12調査区 土坑1



第13調査区 漆塗膜検出状況







31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45

TP3 II-37

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ

洲崎館跡内外分布調査
北石館跡内外分布調査
字向浜地区分布調査

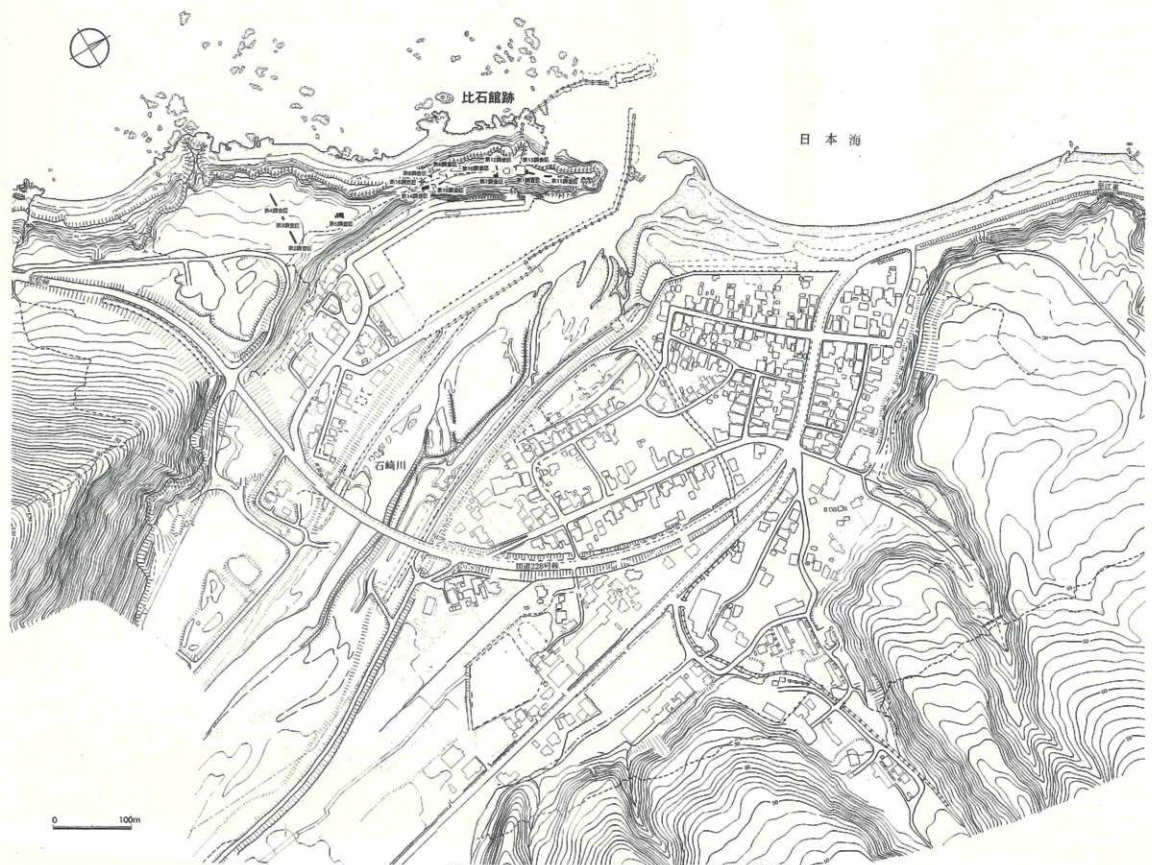
発行 上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町字大留100

印刷 平成13年3月27日

発行 平成13年3月30日

印刷所 楠三和印刷



町内遺跡発見調査報告書資料 附図2 比石館跡内外分布調査 調査区域範囲図及び周辺地形図